DIGITAL CAMERA

FinePix S7000

準備編

使ってみよう編

応用編

各種設定編

接続編

使用説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ ファインピックス S7000
の使い方がまとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。
http://www.fujifilm.co.jp/または http://www.finepix.com/

BL00304-101(2) J

目　次

1 準備編

2 使ってみよう編

3 応用編

4 各種設定編

5 接続編

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメディアの転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分にご注意ください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- 皮膚に付着した場合：
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合：
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合：
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。
  使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

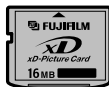
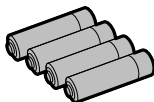
- xD-Picture Card、xD-Picture Card™、xD-ピクチャーカード™は富士写真フイルム（株）の商標です。
- Macintosh、iMac、iBook、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国々における登録商標です。
  Windows の正式名称は、Microsoft® Windows®Operating System です。
- Microdriveは、米国IBM Corporationの商標です。
- その他の社名、商品名などは、日本および海外における各社の商標または登録商標です。

カメラの特長/付属品

カメラの特長

- 第4世代スーパーCCDハニカム HR
  微細加工技術を駆使した新世代のスーパーCCDハニカム HRを搭載し高画素化しました。
- オートフォーカスを高速化する外部AFセンサー搭載
- 豊富な撮影機能
- FinePix Photo mode（ファインピックス フォトモード）
  静止画撮影中にフォトモード“F”ボタンを押すと、ピクセル（記録画素数）、感度やFinePixカラーの設定画面を直接呼び出すことができ、簡単に設定の変更が可能です。
  再生中に押すと、プリント予約（DPOF）の設定ができ、プリントするコマや枚数を簡単に設定することが可能です。

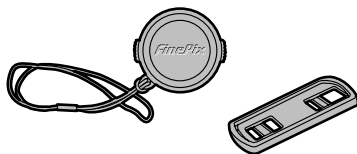
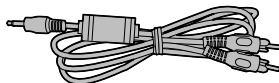
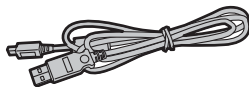
付属品

- **xD-ピクチャーカード** 16MB（1枚）
  付属品：専用ケース（1個）

- 単3形アルカリ乾電池 LR6（4本）

- ストラップ（1本）

- キズ防止カバー（2個）

- ストラップ金具（2個）

- 金具取り付け補助具（1個）

- レンズキャップ（1個）
- レンズキャップホルダー（1個）

- 専用A/V（音声/映像）ケーブル（1本）
  φ2.5mmミニミニプラグ×ピンプラグ

- USBケーブル（mini-B）（1本）

- CD-ROM（1枚）
  Software for FinePix SX

- 使用説明書（本書1部）
- ソフトウェア取扱ガイド（1部）
- 安全上のご注意（1部）
- 保証書（1部）

各部の名称

＊(　)内のページに詳しい説明があります。

ホットシュー (P.63)

FZリング
(フォーカス、
ズームリング)
(P.19、22、46)

電源レバー
OFF 電源OFF
再生モード (P.27)
撮影モード (P.21)

シャッターボタン

レリーズソケット
(P.23)

露出補正ボタン
(P.52)

ストロボボタン
(P.43)

連写ボタン
(P.48)

コマンドダイヤル
(P.18)

セルフタイマーランプ (P.57)

モードダイヤル

【静止画撮影】

M	マニュアル (P.42)	P	プログラムオート (P.39)
A	絞り優先オート (P.41)	AUTO	オート (P.38)
S	シャッター優先オート (P.40)	SP	シーンポジション (P.38)

【動画撮影】

動画 (P.65)

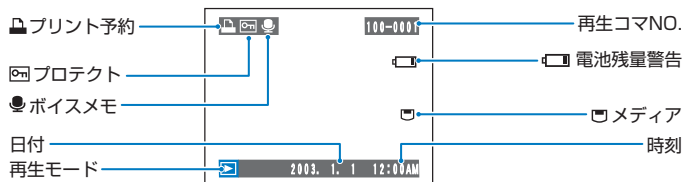
【設定】

SET　セットアップ (P.81)

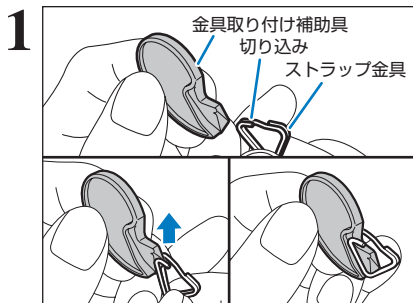
ストロボ調光センサー
ストロボ (P.43)
外部AFセンサー
レンズ部
マクロ（近距離撮影）ボタン
(P.19、54)
ストロボポップアップボタン (P.17、43)
マイク
INFO（情報確認）ボタン (P.19、55、68)
ストラップ取り付け部 (P.8)
USB端子（mini-B）(P.89、90)
スピーカー
A/V OUT（音声/映像出力）端子
(P.87)
端子カバー
(ワンプッシュAF) ボタン
(P.19、46)
DC IN 5V（電源入力）端子 (P.87)
DC IN 5V 端子カバー
フォーカスモード切り換えレバー (P.19、46)
SHIFT（シフト）ボタン (P.20)

画面の文字表示例

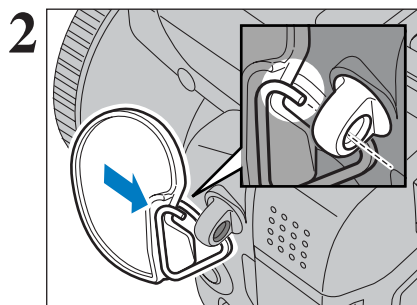
■静止画撮影モード

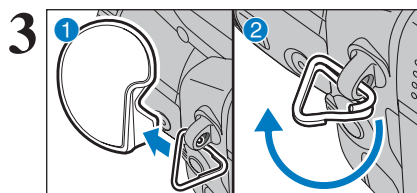
■再生モード

レンズキャップとストラップを取り付けます

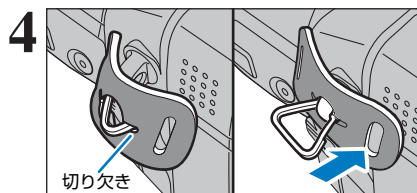
ストラップのカメラへの取り付けは、ストラップ金具をカメラに取り付けてからストラップをストラップ金具に通します。ここでは、ストラップ金具を取り付けやすくするために、金具取り付け補助具を使って説明します。

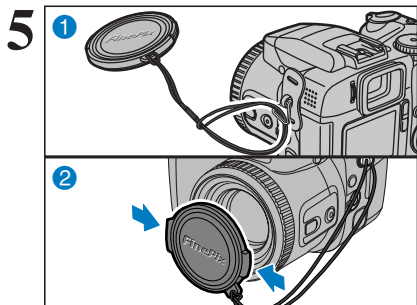
1

金具取り付け補助具およびストラップ金具の向きに注意して、ストラップ金具をスライドさせるように補助具の奥まで差し込み、ストラップ金具の切り込みを広げます。

金具取り付け補助具は、カメラからストラップ金具を取り外すときも使用しますので、大切に保管してください。

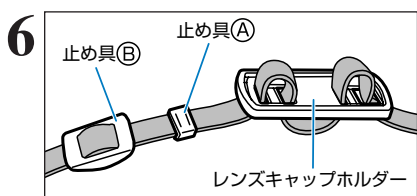
2

ストラップ金具の切り込みを、ストラップ取り付け部に引っ掛けます。

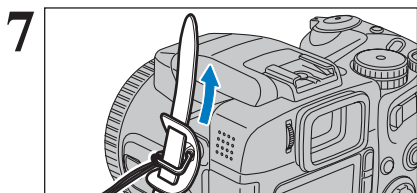
3

❶しっかり引っ掛かったら、手を添えながら、金具取り付け補助具を抜きます。
❷ストラップ金具を回転させてカチッと音がするまで完全に通します。

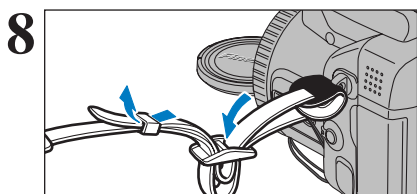
4

キズ防止カバーの黒い面をカメラに向け、切り欠き部分からストラップ金具を通して、カメラに取り付けます。
反対側も同様に、**1**～**4**の手順で取り付けます。

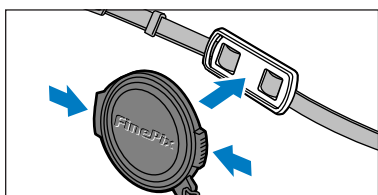
5

❶レンズキャップのヒモを端子カバー側のストラップ金具に通して取り付けます。
❷レンズキャップは左右を押しながら取り付け（取り外し）ます。

❗ レンズキャップをなくさないように、ヒモの取り付けをおすすめします。

6

ストラップから止め具Ⓐ、Ⓑを片側だけ外してレンズキャップホルダー、止め具Ⓐ、止め具Ⓑの順にストラップに通します。

7

ストラップをキズ防止カバーとストラップ金具に通します。

8

ストラップを止め具に通します。
反対側も同様に、**7**〜**8**の手順で取り付けます。

◆レンズキャップホルダーを使う◆

撮影時はレンズキャップの写り込みを防ぐため、レンズキャップをレンズキャップホルダーに取り付けます。

電池を入れます

使用する電池

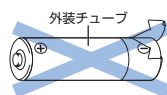
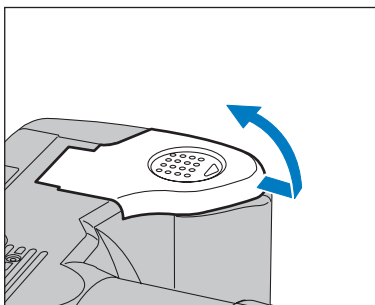
●単3形アルカリ乾電池（4本）、または別売の単3形ニッケル水素電池（4本）

! 単3形アルカリ乾電池は付属のものと同銘柄のご使用をおすすめします。

◆電池について◆

- 電池の液もれ、発熱により重大な事故の原因になるため、以下の電池は絶対に使用しないでください。
  1. 外装チューブが破れたりはがれたりしている電池
  2. 種類の違う電池や、新しい電池と使用した電池を混ぜての使用

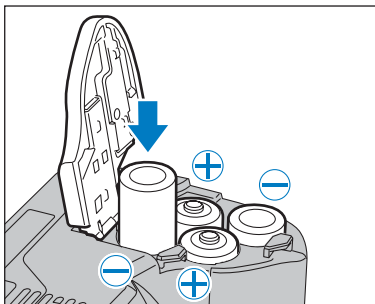
外装チューブ

- マンガン乾電池やニカド電池は使用しないでください。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると、使用可能時間が極端に短くなることがあります。
- 単3形アルカリ乾電池（以下アルカリ乾電池）は銘柄により使用可能時間に差があり、付属のアルカリ乾電池に比べ、使用可能時間が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温環境（0℃～＋10℃）では使用時間が短くなるため、単3形ニッケル水素電池の使用をおすすめします。
- 単3形ニッケル水素電池は、別売の充電器で充電してください。
- 電池についてのご注意は94、95ページをご参照ください。
- お買い上げ時や長い間使用しなかった単3形ニッケル水素電池は、使用可能時間が短くなることがあります。詳細については95ページをご参照ください。

1

電源が切れていること（インジケーターランプが消灯していること）を確認してから、電池カバーを開けます。

! 電源が入った状態で電池カバーを開けると、電源が切れます。

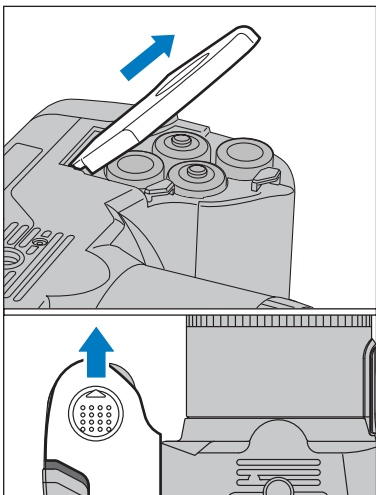
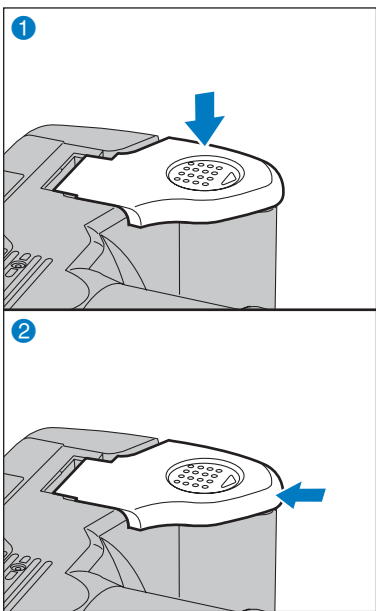
! 電池カバーに無理な力を加えないでください。

電池カバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メディアまたは画像ファイルなどが壊れることがあります。

2

電池を表示に従って正しく入れます。

3

電池カバーを引っぱりながら閉めます。

4

❶電池カバーで電池を押し込みながら、❷スライドさせます。

メディアを入れます

本機では記録媒体として、 **xD-ピクチャーカード** またはマイクロドライブを使用できます。

● **xD-ピクチャーカード** とマイクロドライブを同時にセットした場合は、SET−UPの「メディア」で設定されているメディアに記録されます（➡81ページ）。

●本機で両メディア間のコピーは行えません。

使用する xD-ピクチャーカード™（別売）

- DPC-16　（16MB）
- DPC-32　（32MB）
- DPC-64　（64MB）
- DPC-128（128MB）
- DPC-256（256MB）
- DPC-512（512MB）

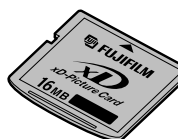
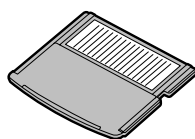



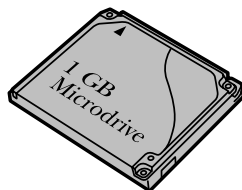
表　　　裏

! 本カメラでの動作保証は弊社製 **xD-ピクチャーカード** のみとなります。

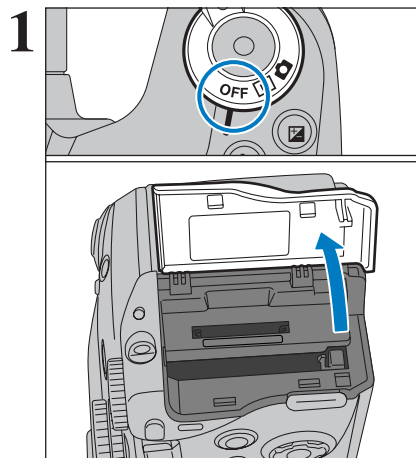
! **xD-ピクチャーカード** は、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

! **xD-ピクチャーカード** についてのご注意は97ページをご参照ください。

使用するマイクロドライブ（別売）

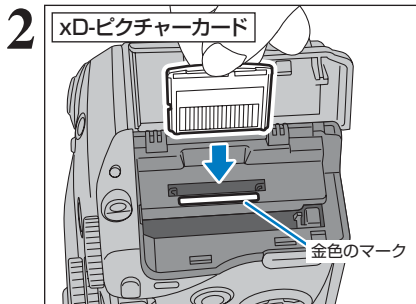
- マイクロドライブキット MK-1（340MB）
- マイクロドライブキット MK-2　（1GB）

! マイクロドライブはハードディスクです。 **xD-ピクチャーカード** に比べ振動や衝撃に強くありません。マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分にご注意ください（特に記録中や再生中にはご注意ください）。

! マイクロドライブについてのご注意は97ページをご参照ください。

1

電源レバーを “OFF” に合わせインジケーターランプが消灯していることを確認してから、スロットカバーを開けます。

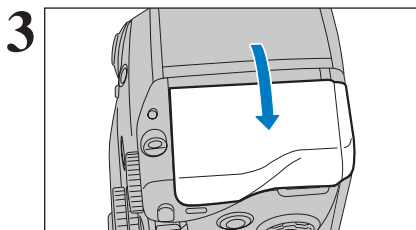
! 電源が入った状態でスロットカバーを開けると電源が切れます。

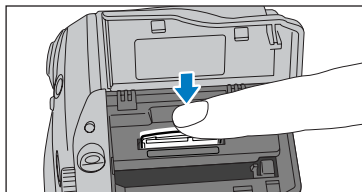
> スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メディアまたは画像ファイルなどが壊れることがあります。

2

xD-ピクチャーカード用スロットの金色のマークと、 xD-ピクチャーカード の金色の接触面を同じ向きに合わせて、確実に奥まで差し込みます。

マイクロドライブ用スロットにマイクロドライブを確実に奥まで差し込みます。

- xD-ピクチャーカード やマイクロドライブのスロットに適合メディア以外を入れないでください。故障の原因となります。
- 向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。
- メディアが確実に奥まで入っていないと“カードエラー”が表示されます。

3

スロットカバーを閉めます。

◆xD-ピクチャーカード を交換したいときは◆

xD-ピクチャーカード を押し込んだあと、静かに指を戻すとロックが外れて xD-ピクチャーカード が押し出されます。
押し出されたあと、 xD-ピクチャーカード を引き出すことができます。

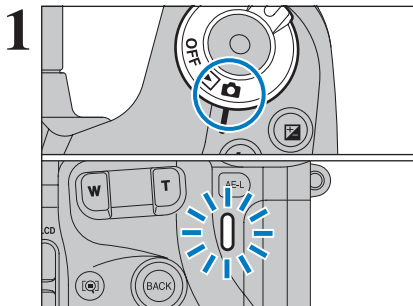
- xD-ピクチャーカード を保管するときは、専用ケースまたは専用キャリングケースに入れてください。
- ロックが外れた直後に xD-ピクチャーカード から急に指を離すと、 xD-ピクチャーカード が飛び出す場合がありますのでご注意ください。

◆マイクロドライブを交換したいときは◆

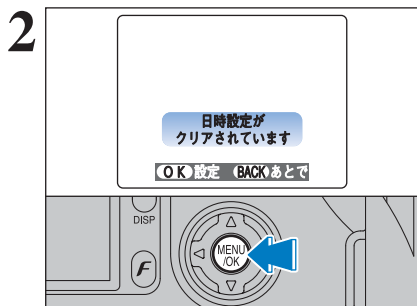
スロットカバーを開け、マイクロドライブイジェクトボタンを押し、マイクロドライブを取り出します。

- マイクロドライブを保管するときは、必ず専用の保護ケースに入れてください。

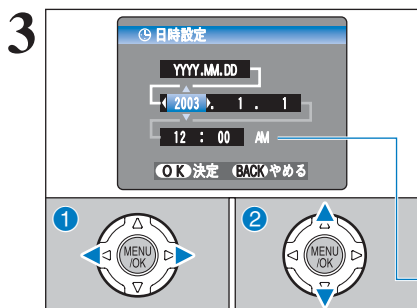
電源のON/OFF、日時の設定

1

電源を入れるには電源レバーを“📷”または“▶”に合わせます。電源を入れるとインジケーターランプ［緑］が点灯します。
電源を切るには“OFF”に合わせます。

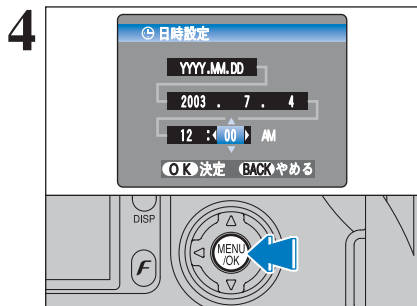
“📷”モードのときはレンズ部が動きます。精密部品のため、レンズ部を手で押さえないでください。“フォーカスエラー”“ズームエラー”が表示され、誤作動や故障の原因になります。
また、レンズに指紋がつかないようにご注意ください。撮影画像の画質低下の原因になります。

2

購入後初めて電源を入れると、日付がクリアされています。“MENU/OK”ボタンを押して日時を設定します。

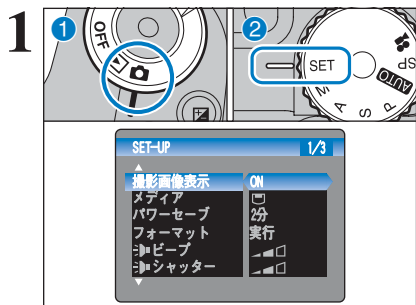
- 確認画面（左図）が表示されない場合は、「日時の修正」（➡15ページ）を参照して、日時を確認、修正してください。
- 電池を取り外してカメラを長期間保管したときも確認画面が表示されます。
- あとで設定するときは“BACK”ボタンを押します。
- 日時を設定しないと、電源を入れるたびに確認画面が表示されます。

3

❶“◀▶”で年、月、日、時、分を選びます。
❷“▲▼”で設定します。

- “▲”または“▼”を押し続けると、数字が連続して変わります。
- 時刻表示で“12：00”を越えると、自動的にAM（午前）/PM（午後）が切り換わります。

4

日時を設定したら、“MENU/OK”ボタンを押します。
実行すると、撮影または再生モードになります。

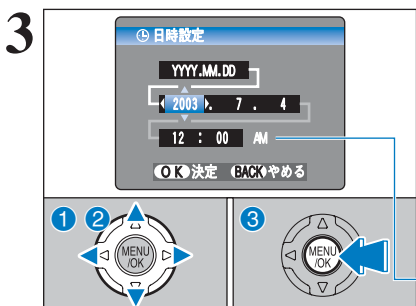
- ご購入時および長時間電池を抜いて放置したあとは、日時設定などの各種設定がクリアされてしまいます。各種設定は、ACパワーアダプターを接続または電池を入れて約2時間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約24時間保持されます。

日時の修正、日付の並び順の変更

1

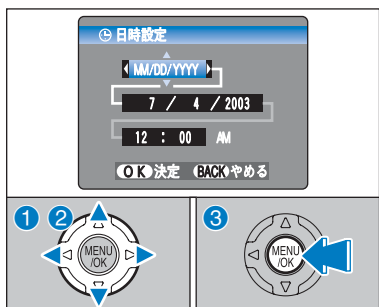
❶電源レバーを“📷”に合わせます。
❷モードダイヤルを“SET”に合わせます。

2

❶“▲▼”で“日時設定”を選びます。
❷“▶”を押します。

3

日時を修正するには

❶“◀▶”で年、月、日、時、分を選びます。
❷“▲▼”で設定します。
❸設定が終了したら、必ず“MENU/OK”ボタンを押します。

- “▲”または“▼”を押し続けると、数字が連続して変わります。
- 時刻表示で“12：00”を越えると、自動的にAM（午前）/PM（午後）が切り換わります。

日付の並び順を変更するには

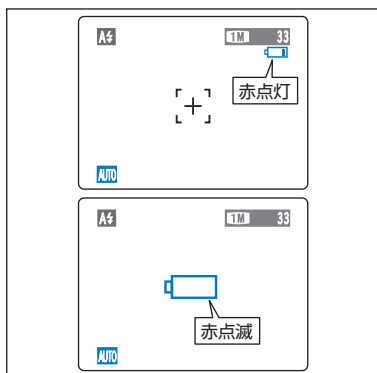
❶“◀▶”で“日付の並び順”を選びます。
❷“▲▼”で並び順を設定します。設定については下記の表を参照してください。
❸設定が終了したら、必ず“MENU/OK”ボタンを押します。

日付の並び順	説　明
YYYY.MM.DD	「年.月.日」の順に並びます。
MM/DD/YYYY	「月／日／年」の順に並びます。
DD.MM.YYYY	「日.月.年」の順に並びます。

電池残量の確認

電源を入れ、電池残量を確認します。

電池残量表示		
❶	表示なし＊	
❷		赤点灯
❸		赤点滅

❶電池の残量はあります。
❷“ ”赤点灯：電池の残量が少なくなっています。新しい電池を準備してください。
❸“ ”赤点滅：電池の残量がありません。ただちに表示が消えて動作を終了します。電池を交換してください。

“ ”は画面の右端に小さく表示されます。
“ ”は画面に大きく表示されます。

- 上記は撮影モードでの目安です。モードや電池の種類によっては“ ”から“ ”になるまでの時間が短くなることがあります。
- 温度が低いところで使用したとき、電池の特性上電池残量不足“ ”が早くでる場合があります。故障ではありません。電池をポケットなどであたためて使用することをおすすめします。

＊電池残量表示

1）カメラの動作状態により消費電力は大きく変化します。このために、再生モードでは電池残量表示“ ”、“ ”がでていなくても、撮影モードでは表示がでる場合があります。
2）電池の消耗の度合いや電池の種類によっては、電池残量表示がでないでカメラの電源が切れることがあります。一度電池切れになった電池を再使用した場合にはこの現象が起こりやすくなります。

上記の2)の場合は、新しい電池または充電済みの電池にすぐに交換してください。

◆パワーセーブ機能◆

機能有効時は、約30秒間操作をしないと画面などが消え(スリープ)、消費電力を抑えます(➡84ページ)。2分間（5分間）操作しないと自動的に電源が切れます。電源を入れ直すには、いったん電源レバーを“OFF”に合わせ、再度“ ”または“ ”に合わせます。

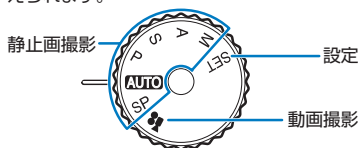
基本操作ガイド

●ストロボポップアップ

ストロボ撮影するときに、ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。

●撮影モードの切り換え

モードダイヤルを回して撮影モードを切り換えられます。

静止画撮影
設定
動画撮影

静止画撮影

AUTO オート
SP シーンポジション
P プログラムオート
S シャッター優先オート
A 絞り優先オート
M マニュアル

動画撮影

動画撮影

設定

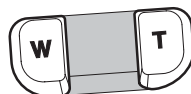
セットアップ

●電源ON/OFFと撮影／再生モードの切り換え

電源レバーを操作して切り換えられます。

●ファインダー（EVF）とモニター（LCD）の切り換え

“EVF/LCD”ボタンを押すたびに切り換えられます。撮影状況に応じて使用します。

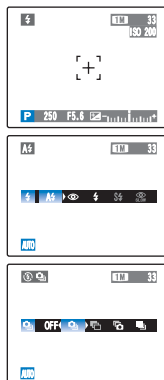
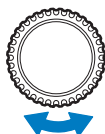
●ズーム操作

撮影時：望遠にするには“ **T** ”側を押します。
　　　　広角にするには“ **W** ”側を押します。
再生時：拡大するには“ **T** ”側を押します。
　　　　等倍にするには“ **W** ”側を押します。

●コマンドダイヤル

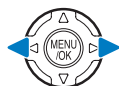
撮影モードでコマンドダイヤルを回すと、プログラムシフトやシャッタースピード、絞りなどが設定できます。

：露出補正
“ ” ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定します。

：ストロボ
ストロボをポップアップして“ ”ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定します。

：連写
“ ” ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定します。

●メニューの操作

❶メニューの表示
“MENU/OK” ボタンを押します。

❷メニューの選択
十字ボタンの左、右を押します。

❸設定の選択
十字ボタンの上、下を押します。

❹設定の決定
“MENU/OK” ボタンを押します。

●BACKボタン

操作を途中でやめるときなどに、このボタンを押します。

使用説明書では、上、下、左、右を三角マークで表します。
上、下のときは “▲▼” となり、左、右のときは “◀▶” となります。

●視度調節ダイヤル

ファインダー内の像を見やすくします。AFフレームが最もシャープに見える位置に合わせてください。

●AE-Lボタン

ボタンを押している間、露出を固定します。

●フォーカス確認ボタン

このボタンを押すと、画面中央部が拡大表示されます。細部のピントを確認するときに使用します。

●FinePix フォトモード（F）ボタン

撮影時：ピクセル（記録画素数）、感度、FinePixカラーを設定できます。
再生時：プリント予約（DPOF）を設定できます。

●DISPボタン

画面の表示を切り換えます。

撮影モード：文字表示あり → フレーミングガイド表示 → 文字表示なし → （文字表示ありに戻る）

再生モード：文字表示あり → 文字表示なし → マルチ再生 → （文字表示ありに戻る）

●FZリング

ピントを調節します。フォーカスモードがC-AF、S-AFではズームボタンのかわりにもなります。

●INFOボタン

ボタンを押すと情報を表示します。

撮影モード：現在の設定値（ISO感度、シャープネスなど）やヒストグラムを表示します。
再生モード：表示している画像の情報を確認できます。

●SHIFTボタン

他のボタンと組み合わせて設定を変更することができます（➡20ページ）。

●ワンプッシュAFボタン

いったんAFでピント合わせします。MFでのみ使用できます。

●フォーカスモード切り換えレバー

C-AF（コンティニュアスAF）、S-AF（シングルオートフォーカス）、MF（マニュアルフォーカス）を切り換えます。

●マクロボタン

近距離撮影で使用します。このボタンを押すと、次のようにモードが切り換わります。

マクロ ➡ スーパーマクロ ➡ マクロ解除（通常撮影）

撮影可能距離：
マクロ	10cm～80cm
スーパーマクロ	1cm～20cm
通常撮影	広角側：50cm～無限遠、望遠側：90cm～無限遠

●SHIFTボタン

“SHIFT” ボタンを1秒以上押すと、SHIFTガイダンスが表示されます。
表示されている組み合わせでボタンを押すと、対応する設定項目に素早くアクセスすることができ便利です。

モードによって使用できる機能は違います。以下の例は撮影モードの手順です。

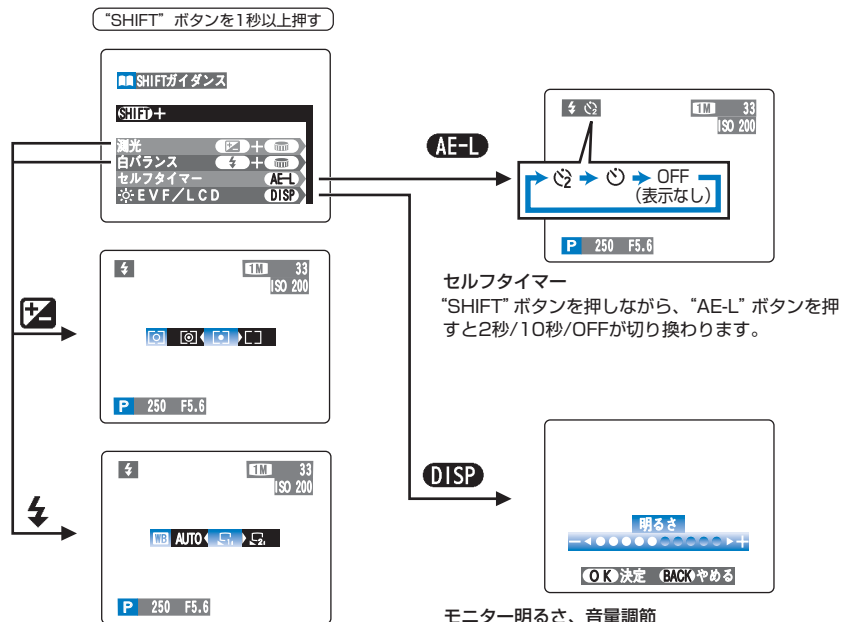
セルフタイマー

“SHIFT” ボタンを押しながら、“AE-L” ボタンを押すと2秒/10秒/OFFが切り換わります。

モニター明るさ、音量調節

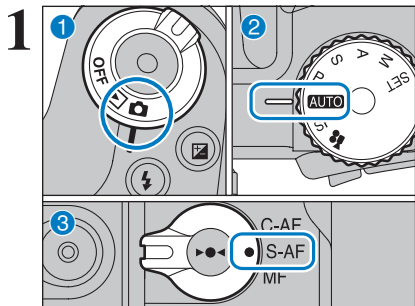
“SHIFT” ボタンを押しながら、“DISP” ボタンを押すとメニューが表示されます。
“▲▼”で項目を選び、“◀▶”で設定を変更します。
“MENU/OK” ボタンで決定します。
ただし、音量は再生モードでのみ調節できます。

測光、白バランス

“SHIFT” ボタンを押しながら各ボタンを押し、コマンドダイヤルで設定を変更します。ボタンから指を離すと決定します。

各設定項目の詳細については、以下のページをご覧ください。

セルフタイマー	57ページ
測光	61ページ
白バランス	58ページ

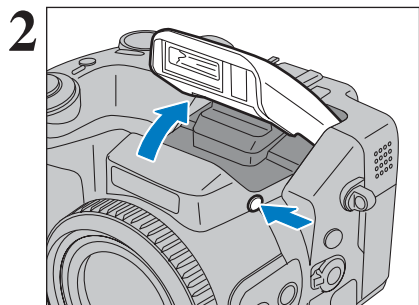
静止画を撮影してみましょう(オート撮影)

1

❶電源レバーを"📷"にし、❷モードダイヤルを"AUTO"に合わせます。❸フォーカスモード切り換えレバーを"S-AF"に合わせます。

●撮影可能距離
広角側：約50cm～無限遠
望遠側：約90cm～無限遠

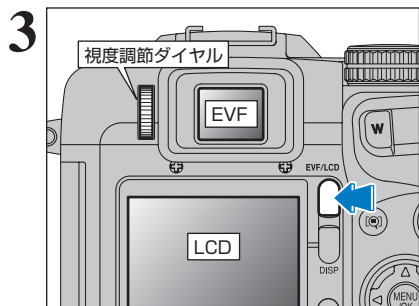
! 近距離撮影ではマクロに設定してください(➡54ページ)。

! "カードエラー""フォーマットされていません""空き容量がありません""カードがありません"が表示された場合は、98ページをご参照ください。

2

ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。

! ストロボをポップアップしたとき、ストロボを充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときインジケーターランプが橙色に点滅します。

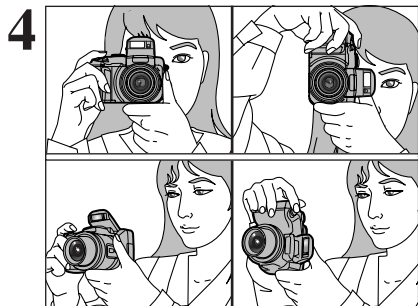
! 雪のときやほこりの多い環境でストロボ撮影すると、ストロボ光が雪やほこりに反射して画像に白点が写ることがあります。ストロボ発光禁止での撮影をお試しください。

3

"EVF/LCD"ボタンを押すたびに、ファインダー(EVF)とモニター(LCD)のどちらを使用するか切り換えられます。ファインダー(EVF)内のAFフレームが見にくいときは、視度調節ダイヤルで調節してください。

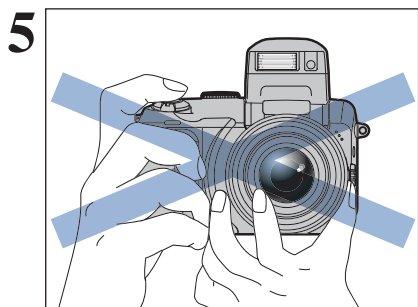
EVF/LCDの切り換えは、電源をOFFにしてもモードダイヤルを切り換えても保持されます。

使ってみよう編

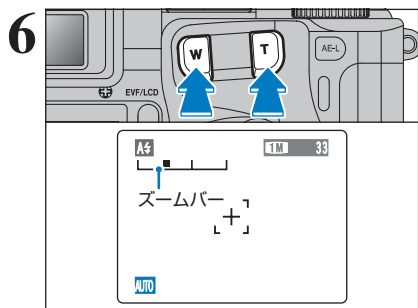
次ページにつづく

4

両脇を締め、両手でカメラを構えます。
右手の親指はズーム操作しやすい位置に置きます。

❗撮影するときカメラが動くと、画像がブレる原因になります。特に、暗い場所でストロボ発光禁止にして撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
❗液晶モニターの下端に明るさのムラがありますが、故障ではありません。撮影した画像には影響はありません。

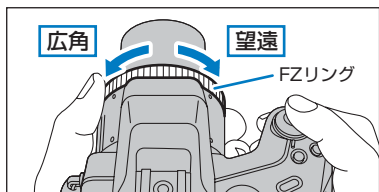
5

レンズ、ストロボ、ストロボ調光センサーに、指やストラップが掛からないようにしてください。指やストラップが掛かると、適正な明るさ（露出）で撮影ができないことがあります。

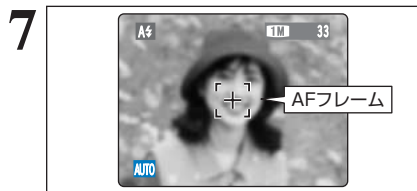
❗レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は、94ページを参照してレンズをきれいにしてください。

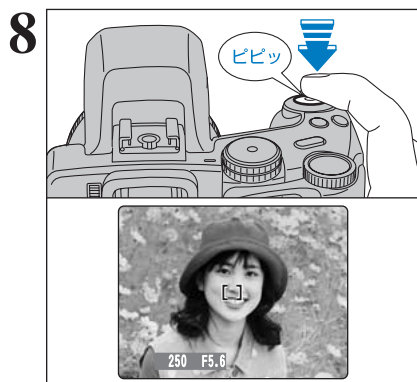
6

被写体を大きく写したいときは、“T”（望遠）ボタンを押します。広い範囲を写したいときは、“W”（広角）ボタンを押します。このとき画面に“ズームバー”が表示されます。

●光学ズーム焦点距離（35mmカメラ換算）
約35mm～210mm相当
最大ズーム倍率 6倍

❗光学ズームとデジタルズーム（➡26ページ）の切り換わり時は、いったんズームが止まります。もう一度同じ方向に押すと切り換わります。

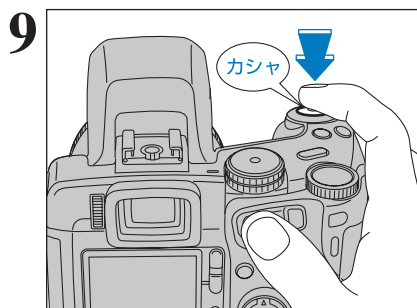
◆FZリングを使用したズーム調整◆

フォーカスモードがS-AF、C-AFのとき、ズームボタンのかわりにFZリングを使用してズーム倍率の変更ができます。
FZリングを時計回りに回すと望遠側に、反時計回りに回すと広角側になります。このとき画面に“ズームバー”が表示されます。

7

被写体がAF（オートフォーカス）フレーム全体を満たすようにねらいます。

❗被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、AF/AEロック撮影を行ってください（➡25ページ）。

8

シャッターボタンを半押しすると、“ピピッ”と音が鳴りピントが合います。そのとき画面のAFフレームが小さくなり、シャッタースピード/絞り値が決定されます（インジケーターランプ［緑］は点滅から点灯に変わります）。

❗撮影前に画面で見る画像と実際に記録される画像は、明るさや色などが異なる場合があります。必要に応じて、再生してご確認ください（➡27ページ）。
❗“ピピッ”と音が鳴らずに画面に“❗AF”が表示されたときは、ピントが合っていません。
❗シャッターボタンを半押しすると、一時的に画面の映像が止まりますが記録される画像とは異なります。
❗“❗AF”が表示された場合（暗くてピントが合わないなど）、被写体から2m程度離れて撮影してください。

9

半押しのままさらにシャッターボタンを押し込む（全押し）と、“カシャ”と音が鳴り撮影されます。続いて画像が記録されます。

❗シャッターボタンを押した瞬間から、一瞬遅れて撮影されますので、必要に応じて再生してご確認ください。
❗シャッターボタンをいっきに全押しするとAFフレームは変化せず、そのまま撮影されます。
❗撮影するとインジケーターランプが橙色に点灯し（撮影不可）、その後緑色に変わると撮影できます。
❗ストロボ充電中はインジケーターランプが橙色に点滅します。画面が一瞬黒くなる場合がありますが、異常ではありません。
❗警告表示については98、99ページをご参照ください。

◆ケーブルレリーズに対応◆

本機は機械式ケーブルレリーズを使用できます。
三脚（別売）とケーブルレリーズ（別売）を使用すると手ブレを防止できます。
使用できるケーブルレリーズ：
ISO 6053:1979に準拠したケーブルレリーズ

❗ケーブルレリーズ装着時に、ケーブルレリーズに強い力を加えないでください。故障の原因となります。

インジケーターランプ表示について

表　示	状　態
緑点灯	準備完了（撮影可能）
緑点滅	AF、AE動作中または手ブレ、AF警告（撮影可能）
緑、橙の交互点滅	メディアに記録中（撮影可能）
橙点灯	メディアに記録中（撮影不可）
橙点滅	ストロボ充電中（ストロボ発光しません）
緑点滅（1秒間隔）	パワーセーブ中（➡84ページ）
赤点滅	●メディアについての警告 未挿入、未フォーマット、フォーマット異常、空き容量がない、メディア異常 ●レンズ動作異常

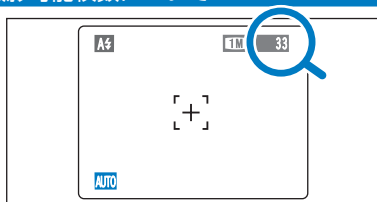
＊画面に詳しい警告が表示されます（➡98、99ページ）。

◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

このカメラは、正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件、被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わない状態で撮影されることがあります。

- 鏡、車のボディなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が暗いとき
- 高速で移動する被写体
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 画面中央付近に主被写体の他に明暗差がはっきりしている被写体が手前や後方にあるとき（コントラストの強い背景の前の人物など）

このような場合はAF/AEロック（➡25ページ）をお使いください。

撮影可能枚数について

画面に撮影可能枚数が表示されます。

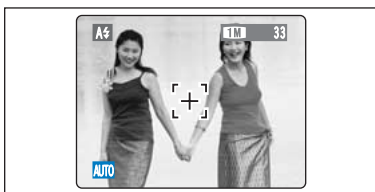
ピクセル設定の変更は、30ページをご参照ください。
工場出荷時の“ ”ピクセルは1Mです。

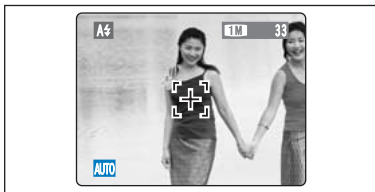
■メディア標準撮影枚数

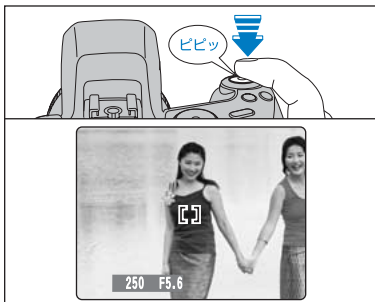
新しいメディアをカメラでフォーマットした状態で表示される標準的な枚数です。メディアの容量が大きくなるほど標準的な枚数と、実際に表示される枚数に差が出ることがあります。
また、被写体によって記録されるデータ量が一定ではなく、撮影枚数が減らなかったり、2コマ減ったりします。そのため、実際に記録可能な枚数が多くなることや少なくなることがあります。

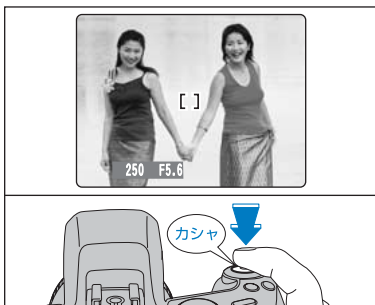
ピクセル	12M F	12M N	6M	3M	2M	1M	RAW
記録画素数	4048×3040（約1230万）		2848×2136（約608万）	2016×1512（約305万）	1600×1200（約192万）	1280×960（約123万）	4048×3040
DPC-16（16MB）	3	6	10	20	25	33	1
DPC-32（32MB）	6	12	20	41	50	68	2
DPC-64（64MB）	12	26	42	82	101	137	4
DPC-128（128MB）	26	52	84	166	204	275	9
DPC-256（256MB）	52	105	169	332	409	550	19
DPC-512（512MB）	105	211	339	665	818	1101	39
MK-1（340MB）	72	144	232	459	559	752	27
MK-2（1GB）	217	432	698	1368	1642	2190	81

AF/AEロック撮影

1

このような構図では被写体（この場合は人物）がAFフレームから外れています。このまま撮影すると人物にピントが合いません。

2

被写体がAFフレームに入るようにカメラを少し動かします。

3

シャッターボタンを半押しすると、“ピピッ”と音が鳴りピントが合います。そのとき画面のAFフレームが小さくなり、シャッタースピード/絞り値が決定されます（インジケーターランプ［緑］は点滅から点灯に変わります）。

4

シャッターボタンを半押し（AF/AEロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

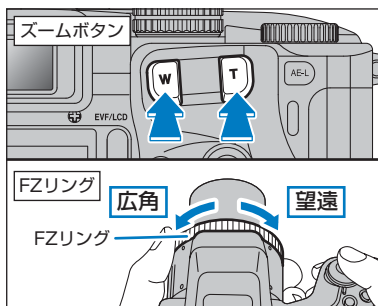
❗AF/AEロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

❗AF/AEロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AF/AEロックをうまく活用しましょう。

◆AF（オートフォーカス）/AE（オートエクスポージャー）ロック◆

このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影するときれいに撮影できます。

● AFでピントが合わず、AF/AEロックで適切な露出で撮影できない場合
AFフレームを主被写体に合わせてAEロック（➡53ページ）します。AFフレームをほぼ同じ距離の他の被写体に合わせシャッターボタンを半押しし、構図をし直して撮影します。

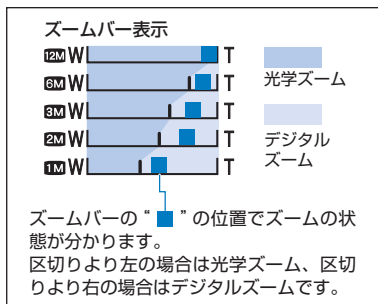
ズーム撮影（光学ズーム、デジタルズーム）

ズームボタンを押すとズームできます。
FZリングでもズーム操作ができます(➡22ページ)。
ピクセル（記録画素数）設定が“6M”“3M”“2M”か“1M”の場合はデジタルズームできます。
光学ズームとデジタルズームを切り換える際に、いったんズームバーの“■”が停止します。もう一度同じ方向に押すと、“■”が動いて切り換わります。

- “12M”ではデジタルズームはできません。
- ピクセル（記録画素数）設定の変更（➡30ページ）。
- ズームしてピントがずれた場合、シャッターボタンを半押ししてください。

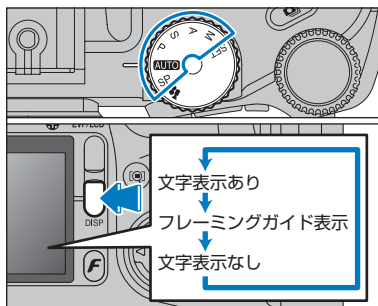
ズームバー表示

12M W T
6M W T
3M W T
2M W T
1M W T

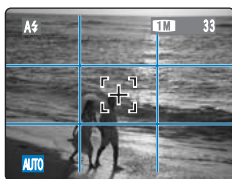
光学ズーム
デジタルズーム

ズームバーの“■”の位置でズームの状態が分かります。
区切りより左の場合は光学ズーム、区切りより右の場合はデジタルズームです。

●光学ズーム焦点距離＊
約35mm～210mm相当　最大ズーム倍率 6倍
●デジタルズーム焦点距離＊
6M：約210mm～約298mm相当
最大ズーム倍率 約1.4倍
3M：約210mm～約422mm相当
最大ズーム倍率 約2.0倍
2M：約210mm～約531mm相当
最大ズーム倍率 2.53倍
1M：約210mm～約664mm相当
最大ズーム倍率 約3.2倍

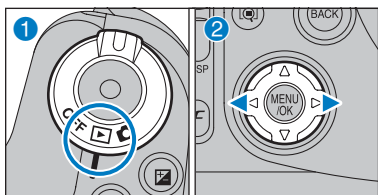
＊35mmカメラ換算

ベストフレーミング

静止画撮影モードで設定できます。
“DISP”ボタンを押すごとに画面の表示が切り換わります。“DISP”ボタンを押して“フレーミングガイド”を表示します。

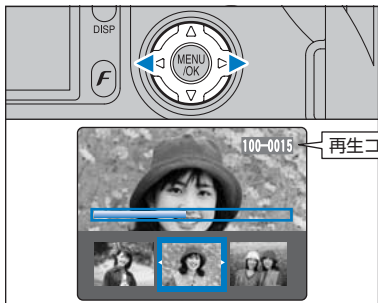
◆重要◆
必ずAF/AEロックを使って構図を決めてください。AF/AEロックをしないとピントが合わないことがあります。

縦横3分割フレーム

主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせて使用します。
被写体の大きさやバランスを見ながら、意図的な構図で撮影できます。

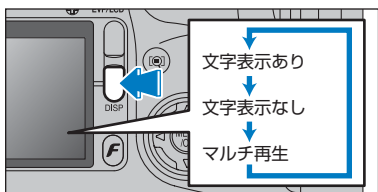
- フレーミングガイドは画像に記録されません。
- 縦横3分割フレームのラインは、縦横の記録画素数の3分割の目安です。プリントすると3分割の位置から少しずれる場合もあります。

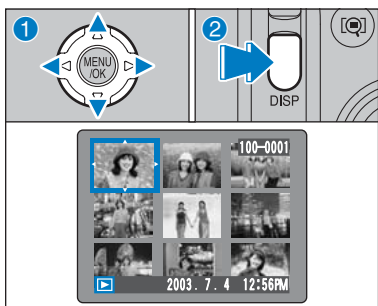
画像を見るには(再生)

1コマ再生

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“▶”順送り、“◀”逆送りで画像を見ることができます。

電源レバーを“▶”に合わせたときは、最後に撮影した画像が再生されます。
再生時にレンズが出ているときは、約6秒間操作しないと、レンズ保護のためレンズが収納されます。

画像の早送り

再生中に“◀”または“▶”を約1秒間押し続けると、画像を早送りできます。

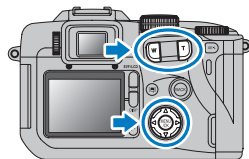
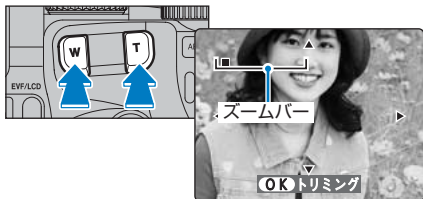
メディア内のおおよその再生位置が、目安となるバーで表示されます。

マルチ再生

再生モードでは“DISP”ボタンを押すごとに画面の表示が切り換わります。“DISP”ボタンを押してマルチ再生(9コマ)にします。

❶“▲▼◀▶”でカーソル(橙色の枠)を動かして、コマを選べます。数回“▲”か“▼”を押すと次のページに切り換わります。
❷もう一度“DISP”ボタンを押すと、選んだ画像を大きく表示することができます。

◆再生できる静止画について◆

本機で記録した静止画、または xD-ピクチャーカード およびマイクロドライブ対応の弊社製デジタルカメラで記録した静止画(一部非圧縮画像を除く)が再生できます。

1コマ再生

再生ズームを解除するには“BACK”ボタンを押します。

再生ズーム

1コマ再生中にズームボタンを押すと静止画をズーム(拡大)します。このとき“ズームバー”が表示されます。

●ズーム倍率

12M F、N 4048×3040ピクセル画像：最大25倍

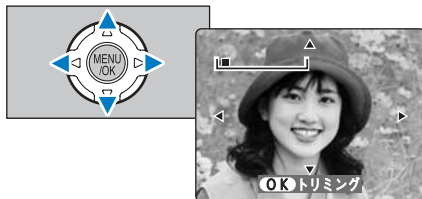
6M 2848×2136ピクセル画像：最大18倍

3M 2016×1512ピクセル画像：最大13倍

2M 1600×1200ピクセル画像：最大10倍

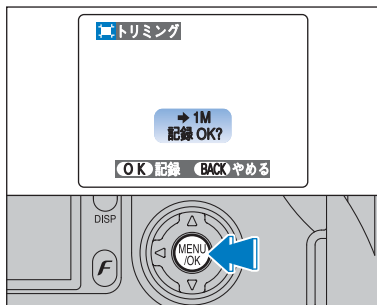
1M 1280× 960ピクセル画像：最大 8倍

再生ズーム中はマルチ再生はできません。

移動

“▲▼◀▶”を押すと、見える範囲を移動できます。

ズーム倍率によって保存される画像サイズが変わります。保存される画像サイズが1M未満になると“OK トリミング”表示が消え、トリミング保存できません。
CCD-RAWファイルでは“OK トリミング”が表示されず、保存できません。

トリミングするときは、“MENU/OK”ボタンを押します。

トリミング

保存されるサイズを確認し、“MENU/OK”ボタンを押します。トリミングした画像は最後のコマに別ファイルで追加されます。

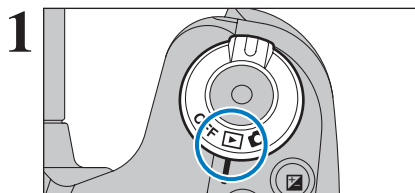
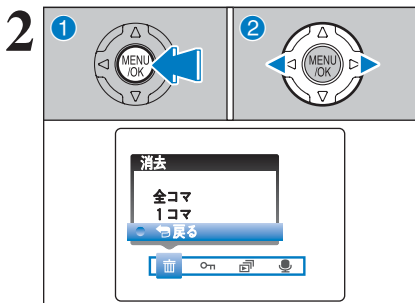
■画像サイズについて

6M	A4サイズ程度でプリントする場合。
3M	A4/A5サイズ程度でプリントする場合。
2M	A5/A6サイズ程度でプリントする場合。
1M	A6サイズ程度でプリントする場合。

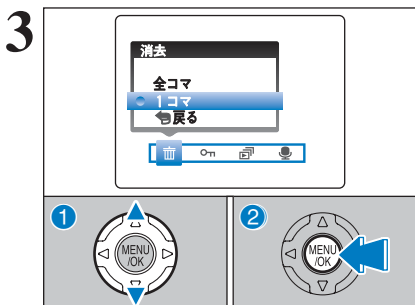
再生モード 画像を消すには（1コマ消去）

1

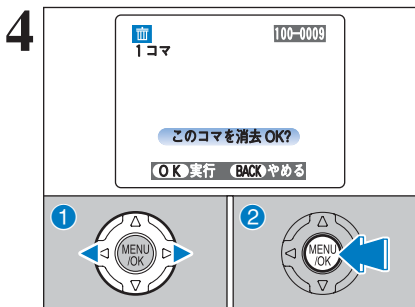
電源レバーを“▶”に合わせます。

2

❶再生中に“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“◀▶”で“🗑”消去を選びます。

誤ってコマ（ファイル）を消去すると、元に戻せません。ご注意ください。消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

3

❶“▲▼”で“1コマ”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押して決定します。
全コマについて詳しくは69ページをご参照ください。

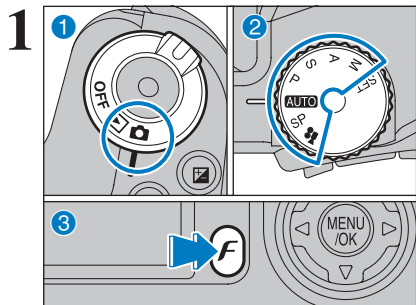
❗“戻る”を選択して“MENU/OK”ボタンを押すと1コマ再生に戻ります。
❗1コマ消去をやめたい場合は、“BACK”ボタンを押してください。

4

❶“◀▶”で消去するコマ（ファイル）を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押すと表示中のコマ（ファイル）を消去します。
続けて消去するには❶❷を繰り返します。

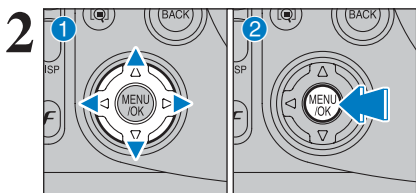
❗“MENU/OK”ボタンを繰り返し押すと連続して消去されます。誤って消去しないよう注意してください。

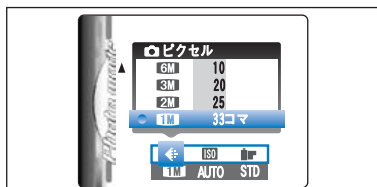
F フォトモード 静止画撮影、動画撮影

ピクセル(記録画素数)

1

❶電源レバーを "📷" に合わせます。
❷モードダイヤルを静止画撮影モード、または動画撮影モードに合わせます。
❸"F" ボタンを押します。

ピクセルは、電源をOFFにしてもモードダイヤルを切り換えても保持されます。

2

❶"◀▶" で "ピクセル" ピクセルを選び "▲▼" で設定を変更します。
❷"MENU/OK" ボタンを押して決定します。

静止画撮影モードのピクセル設定

6種類の設定から選べます。下の表を目安にお試しいただき、目的に応じた設定をしてください。

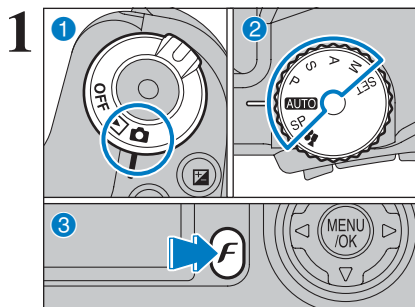
各設定の右側の数値は撮影可能枚数です。
ピクセル設定を変更すると、撮影可能枚数(➡24ページ)が変わります。

ピクセル	用途例
12M F(4048×3040)	A3サイズ程度でプリントする場合。画質を優先する場合は "12M F" を選んでください。
12M N(4048×3040)	A3サイズ程度でプリントする場合。
6M(2848×2136)	A4サイズ程度でプリントする場合や、画像の一部をトリミングしてA5/A6サイズ程度でプリントする場合。
3M(2016×1512)	A4/A5サイズ程度でプリントする場合や、画像の一部をトリミングしてA6サイズ程度でプリントする場合。
2M(1600×1200)	A5/A6サイズ程度でプリントする場合。
1M(1280× 960)	A6サイズ程度でプリントする場合。

動画撮影モードのピクセル設定

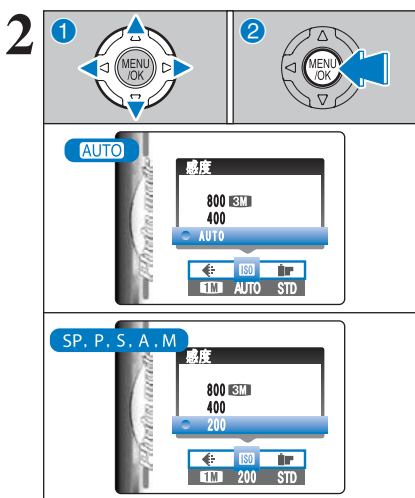
動画サイズは "640" と "320" の2種類です。
●動画サイズ
640 640×480ピクセル(画質優先)
320 320×240ピクセル(記録時間優先)
●フレームレート
30フレーム/秒(固定)
フレームレートについては104ページをご参照ください。

ISO 感度

1

❶電源レバーを "📷" に合わせます。
❷モードダイヤルを静止画撮影モードに合わせます。
❸"F" ボタンを押します。

"🎥" 動画撮影モードは "感度" の設定ができません。

感度は、電源をOFFにしてもモードダイヤルを切り換えても保持されます。

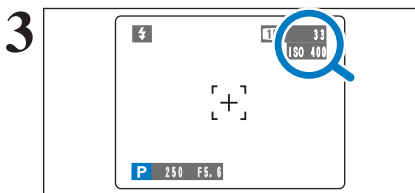
2

❶"◀▶" で "ISO" 感度を選び "▲▼" で設定を変更します。
❷"MENU/OK" ボタンを押して決定します。

●設定値
AUTO：AUTO（160〜800）、400、800
SP、P、S、A、M：200、400、800

CCD-RAW設定時（➡86ページ）は感度は200または400に制限されます。

感度の設定値が大きくなるほど、より暗いところでの撮影ができるようになりますが、画像に粒子状のノイズが増えます。また、夜空などのシーンではスジ状のノイズが見える場合もあります。状況に応じて、感度設定を使い分けてください。

感度設定AUTOを選ぶと、被写体の明るさに適した感度が自動設定されます。
感度設定AUTOは撮影モード "AUTO" で選べます。

3

感度設定が200、400、800のときは設定した感度が画面に表示されます。

高感度撮影（800）

高感度（800）に設定すると、ピクセル設定が"6M、12M"のときは自動的に"3M"に変更されます（ピクセル➡3M の表示がでます）。

●デジタルズーム焦点距離（35mmカメラ換算）

2M：約210mm～約265mm相当　最大ズーム倍率　1.26倍
1M：約210mm～約331mm相当　最大ズーム倍率　約1.6倍

- "3M"ではデジタルズームはできません。
- CCD-RAW設定時(➡86ページ)は高感度撮影できません。
- 高感度に設定すると、撮影前に画面で見る画像もノイズが増えますが、故障ではありません。

高感度撮影は、電源をOFFにしてもモードダイヤルを切り換えても保持されます。

◆高感度撮影時のピクセル設定について◆

高感度（800）に設定すると、ピクセルの"6M、12M"を選ぶことができなくなります。ピクセル設定は"1M、2M、3M"が設定できます。

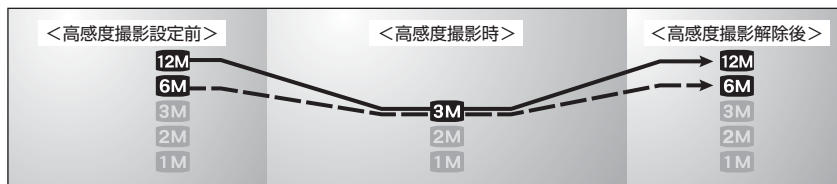
◆ピクセルとISO感度について◆

高感度設定（800）をした場合にピクセル設定が自動的に変更されることがあります。感度設定を"AUTO、200、400"にしたときはピクセル設定を確認して、必要に応じてピクセル設定をし直してください(➡30ページ)。

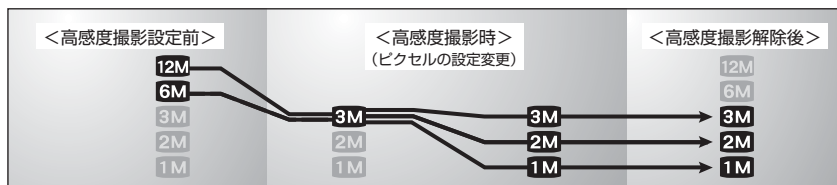
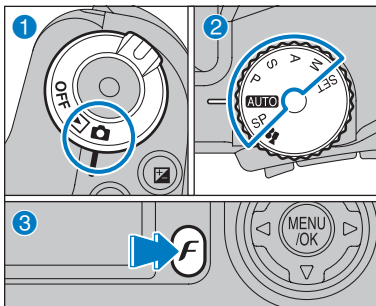
高感度設定前のピクセルの設定が1M、2M、3Mの場合

●感度の設定は、特に制約はありません。
・高感度撮影を行っても、ピクセルの設定に変更はありません。
・高感度撮影に設定している場合は、ピクセルの設定が1M、2M、3Mの範囲で変更できます。
・高感度撮影中にピクセルの設定を変更したときは、感度の設定を"200、400"に戻しても、ピクセルの設定はそのままです。

高感度設定前のピクセルの設定が6M、12Mの場合

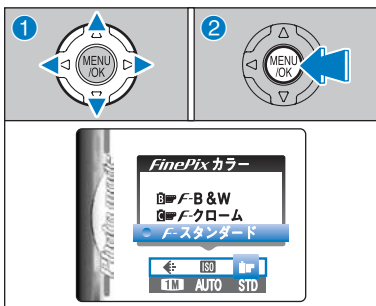
●感度の設定"200、400"は、特に制約はありません。
●高感度撮影"800"を設定すると、ピクセルの設定が自動的に"3M"に変更されます。
・高感度撮影中にピクセルの設定を変更せずに、感度の設定を"200、400"に戻すと、高感度にする前のピクセルの設定に戻ります。

・高感度撮影に設定している場合は、ピクセルの設定が1M、2M、3Mの範囲で変更できます。
・高感度撮影中にピクセルの設定を変更したときは、感度の設定を"200、400"に戻しても、ピクセルの設定はそのままです。

FinePixカラー

1

❶電源レバーを“📷”に合わせます。
❷モードダイヤルを静止画撮影モードに合わせます。
❸“F”ボタンを押します。

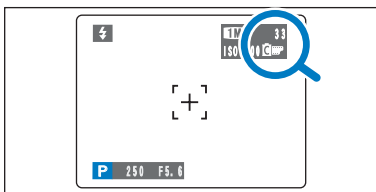
“🎥”動画撮影モードは“FinePixカラー”の設定ができません。

FinePixカラーは、電源をOFFにしてもモードダイヤルを切り換えても保持されます。

2

❶“◀▶”で“FinePixカラー”を選び“▲▼”で設定を変更します。
❷“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

F-クロームは人物のアップ（ポートレート）など被写体によっては効果が分かりにくい場合があります。
F-クロームは画像に対する効果がシーンによって異なるため、スタンダードとの併用をおすすめします。また、画面では差が分からない場合があります。
F-クローム、F-B＆Wで撮影するとExifPrint対応プリンターでは、自動画質補正が抑制されます。

F-スタンダード（STD）	コントラスト、色味を標準に設定します。通常はこの設定でお使いください。
F-クローム（CHR）	コントラスト、色が強めに撮影されます。風景（青空や深緑）や花などがより鮮やかに撮影され効果を発揮します。
F-B＆W（B&W）	撮影した画像を黒白にするときに設定します。

3

F-クローム、F-B＆Wに設定すると画面にアイコンが表示されます。

F-クローム：C
F-B＆W　：B

ピントについて（距離）

被写体からカメラまでの距離を撮影距離といいます。
撮影距離が正しく設定されて、シャープな像を確認できることを“ピントが合っている”といいます。

■ピントを合わせる3つの方法

ピントを合わせる機構として、シングルオートフォーカス（S-AF）、コンティニュアスAF（C-AF）およびマニュアルフォーカス（MF）があります。

S-AF：通常はS-AFで使用します。シャッターボタンを半押しするたびに、ピント合わせが行われます。

◆AFセンサーについて◆

本機は、外部AFセンサー（外光パッシブ位相差AF）により、従来機種と比べ高速なAF動作を行います。外部AFセンサーは、マクロ、スーパーマクロ、デジタルズーム、エリア選択、C-AF使用時および「アダプター設定あり」のときは機能しません。外部AFセンサーが汚れていると、ピント合わせが遅くなることがあります（➡100ページ）。

C-AF：動いている被写体を撮影するときに使用します。C-AFに設定すると、画面中央の被写体にピントを合わせ続けます。詳しくは47ページ参照。

MF：手動でピントを合わせます。詳しくは46ページ参照。

■ピントが合わない原因と対処方法

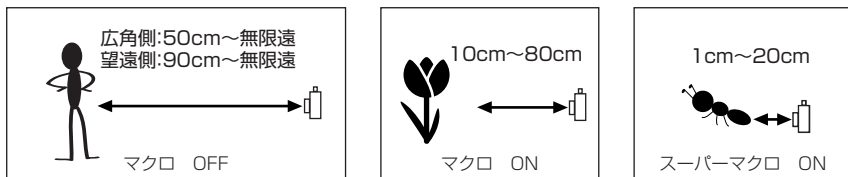
原　因	対処方法
被写体がAFフレーム内にいない	AFロック撮影フォーカスモード：センター固定※1、MF撮影
AFの苦手な被写体	AFロック撮影フォーカスモード：センター固定※1、MF撮影
撮影距離範囲外	マクロのON/OFF※2
高速で移動する被写体	MF撮影（撮影距離を固定して撮影する＝置きピン）

※1 AFロック撮影

半押しでピントを合わせる

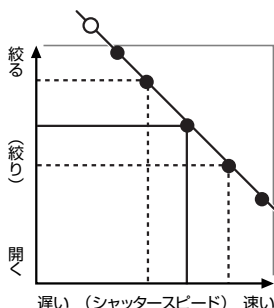
被写体をとらえる

構図を戻して撮影

※2 マクロのON/OFF

◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

- 鏡、車のボディなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 高速で移動する被写体
- 画面中央付近に主被写体の他に明暗差がはっきりしている被写体が手前や後方にあるとき（コントラストの強い背景の前の人物など）

静止画機能 露出について（絞りとシャッタースピード）

「光がCCDに当たること」、「取り込んだ光の総量」を“露出”といい、それによって画像の明るさが決まります。
露出は絞りとシャッタースピードの組み合わせで決まります。被写体の明るさや感度などを考慮して、カメラが自動的に露出を決めることをAE（自動露出）といいます。

左図は、一定露出を保つように、絞りとシャッタースピードを変更していったときの様子を表しています。

- 絞りを一段絞ると、シャッタースピードが一段遅くなります（点が左上に動く）。
- 絞りを一段開くと、シャッタースピードが一段速くなります（点が右下に動く）。
- 絞りまたはシャッタースピードが範囲外になるような組み合わせは選べません（白い点）。
- 撮影モード“P、S、A”では、この直線上の移動を簡単に行うことができます。
- この直線を平行移動して、撮影される画像の明るさを調節することを露出補正といいます。

◆適正な露出が得られないときは◆

AEロック：露出合わせの目標で露出を決め、固定します。次の手順で撮影してください。
AE-Lボタン押し（露出合わせ、固定）➡シャッター半押し（ピント合わせ、固定）➡シャッター全押し（撮影）

露出補正：AEで設定された露出を基準（0）にして、明るめ（＋）、暗め（－）に補正します。オートブラケティングを使うと、“－、0、＋”の3コマを一度に撮影できます。

－

0

＋

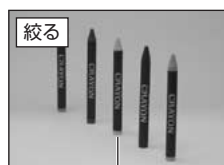
シャッタースピード

動きのある被写体を撮影する際に調整すると、「動きの一瞬をとらえる」、「動きを表現する」といった効果が得られます。

被写体が止まったように撮影されます。

被写体の軌跡が撮影されます。

絞り

調整すると、ピントの合う範囲（被写界深度）が変化します。

被写体の前後にもピントが合って撮影されます。

背景がぼやけて撮影されます。

応用編

静止画機能 撮影～設定手順

撮影シーンや仕上がりのイメージを考慮しながら、設定を行います。
おおまかな流れは次のようになります。

1 撮影モードを選ぶ（➡38～42、65、66ページ）

AUTO ピクセル、感度、FinePixカラーを除くすべての設定をカメラに任せます。

SP 撮影シーンに適したシーンポジション（人物、風景、スポーツ、夜景）が選べます。

P、S、A 絞り、シャッタースピードを変更し、「一瞬をとらえる」「時間の流れをとらえる」「背景をぼかす」といった効果を得ます。

M すべての設定を調節できます。

動画を撮影します。

2 必要に応じて、撮影機能を設定する（➡43～54ページ）

ストロボ	暗い場所での撮影、逆光時の撮影などで使用します。
マクロ、スーパーマクロ	近距離撮影で使用します。
AE-L AEロック	露出を固定します。
露出補正	AEの露出を基準（0）として、明るく（＋）または暗く（－）撮影します。
連写	連続撮影/オートブラケティング（露出補正）撮影できます。

3 撮影（露出とピントを確認する➡構図調整➡シャッターを全押し）する

★メニューを使って、さらに詳細な設定を行えます（➡30～33、56～64ページ）

以下にいくつかの設定例を示します。うまく使いこなせば、この他にも多彩な表現ができます。いろいろと設定を変更して、どのような写真が撮れるか、ぜひお試しください。

このような仕上がりにしたい	設定例
被写体の動き（時間の流れ）を表現したい	モードダイヤルを“S”に合わせ、シャッタースピードを遅くします（手ブレを防ぐため三脚を使用します）。
動いている被写体が、止まっているように表現したい	モードダイヤルを“S”に合わせ、シャッタースピードを速くします。
背景をぼかしてメインの被写体を強調したい	モードダイヤルを“A”に合わせ、絞りを開きます。
ピントの合う範囲を広くしたい	モードダイヤルを“A”に合わせ、絞りを絞ります。
光源によって、画像が赤みがかったり、緑がかったりするのを防ぎたい	撮影メニューの「白バランス」で設定を変更します。
シャッターチャンスを逃したくない	AUTO撮影します（使ってみよう編参照）。
被写体がアンダーまたはオーバー気味に撮影されるのを防ぎ、素材感や質感をよりはっきりと鮮やかに出したい	露出補正します。 背景が白っぽいとき：＋、背景が黒っぽいとき：－

■モード別使用可能機能一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	SP 人物	SP 風景	SP スポーツ	SP 夜景	P	S	A	M	動画
ストロボ	オートストロボ	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	赤目軽減	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×
	強制発光	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×
	スローシンクロ	×	○	×	×	○	○	×	○	×	×
	赤目軽減＋スローシンクロ	×	○	×	×	○	○	×	○	×	×
マクロ/スーパーマクロ		○	×	×	×	×	○	○	○	○	×
AE-L AEロック		○	○				○	○	○	×	×
露出補正		×	×				○	○	○	×	×
フォーカスモード切り換え（S-AF、MF、C-AF）		○	○				○	○	○	○	×
連写	連写	○	○				○	○	○	○	×
	オートブラケティング	×	×				○	○	○	○	×
	サイクル連写	○	○				○	○	○	○	×
	MEGA連写	○	×				×	×	×	×	×

＊スーパーマクロ、連写では、ストロボは使用できません。
＊MEGA連写は高感度撮影と併用できません。

■モード別使用可能メニュー一覧

			工場出荷時	AUTO	SP	P	S	A	M	動画
FinePix Photo mode（ファインピックスフォトモード）	ピクセル		1M	○	○	○	○	○	○	○※1
	感度		AUTO※2	○	○	○	○	○	○	×
	FinePixカラー		F-スタンダード	○	○	○	○	○	○	×
撮影メニュー	セルフタイマー		OFF	○	○	○	○	○	○	×
	白バランス		AUTO	×	×	○	○	○	○	×
	AFモード	オートエリア	センター固定	×	×	○	○	○	○	×
		センター固定		×	×	○	○	○	○	×
		エリア選択		×	×	○	○	○	○	×
	測光		マルチ	×	×	○	○	○	○	×
	ブラケティング		±1/3EV	×	×	○	○	○	○	×
	シャープネス		ノーマル	×	×	○	○	○	○	×
	多重露光		OFF	×	×	○	○	○	○	×
	ストロボ（光量補正）		0	×	×	○	○	○	○	×
	外部ストロボ		OFF	×	×	○	○	○	○	×

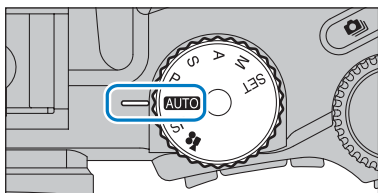
※1 動画モードのピクセルの工場出荷時設定は640×480です。
※2 AUTO設定できるのは AUTO のみです。
＊高感度撮影はMEGA連写と併用できません。
＊エリア選択はコンティニュアスAF（C-AF）と併用できません。

絞り、シャッタースピードの調整だけでは、適正露出が得られないときは…

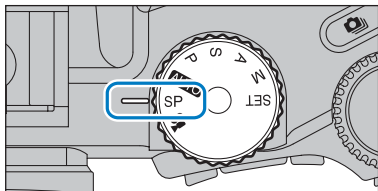
明るいとき
"ISO" 感度を下げる
NDフィルターを使用する（別売）

暗いとき
"ISO" 感度を上げる
ストロボの使用/光量補正

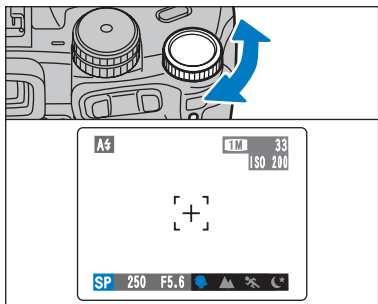
静止画機能 AUTO オート、SP シーンポジション

AUTO オート

モードダイヤルを“AUTO”に合わせます。
最も簡単に撮影できる撮影用途の広い撮影モードです。

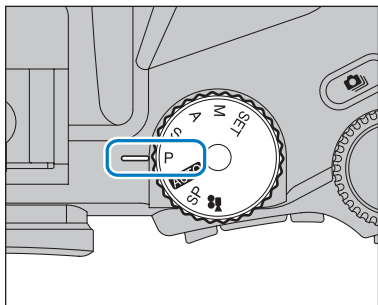
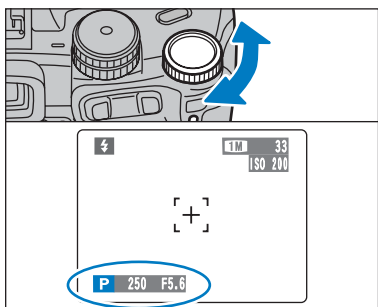
SP シーンポジション

1

モードダイヤルを“SP”に合わせます。
撮影シーンに適した撮影モードです。
人物、風景、スポーツ、夜景の4種類からシーンを選べます。

マクロの設定はできません。

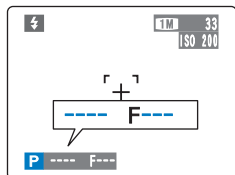
2

コマンドダイヤルを回して設定します。

	説　明	使用可能ストロボ
人物	人物撮影に適したモードです。 肌の色がきれいに見え、ソフトな感じに仕上がります。	A⚡、👁、⚡、S⚡、SLOW
風景	昼間の風景撮影に適したモードです。 建物や山など風景をくっきりと仕上げます。	ストロボは使用できません。 ストロボポップアップすると“⊘⚡”が表示されます。
スポーツ	動体撮影に適したモードです。 高速側のシャッター優先の撮影が行われます。	A⚡、⚡
夜景	夕景や夜景の撮影に適したモードです。 最長約3秒のスローシャッター優先の撮影が行われます。 手ブレ防止のため必ず三脚をご使用ください。	S⚡、SLOW

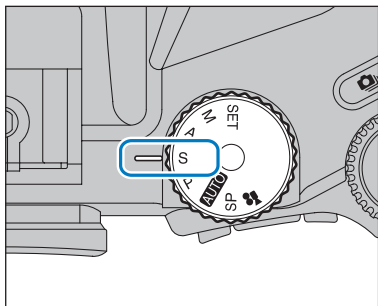
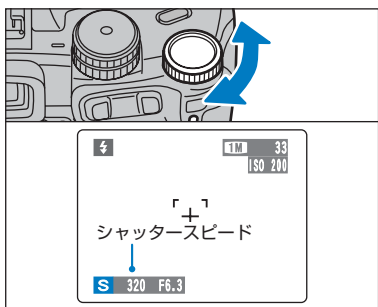
静止画機能 P プログラムオート

モードダイヤルを“P”に合わせます。
シャッタースピード/絞り以外の各種設定ができるオートモードです。
比較的簡単にシャッター優先、絞り優先のように撮影できます（プログラムシフト）。

プログラムシフト

コマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピード、絞り値の組み合わせを切り換えることができます。
プログラムシフト中は、シャッタースピード、絞り値が黄色で表示されます。

プログラムシフトは次のとき自動的に解除されます。
- 撮影モードを切り換えたとき
- ストロボをポップアップしたとき
- 撮影メニュー“ ”外部ストロボをONに設定したとき
- 再生モードに切り換えたとき
- 電源が切れたとき

◆シャッタースピード、絞り値表示について◆

被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、画面内の“シャッタースピード”および“絞り値”が「---」で表示されます。

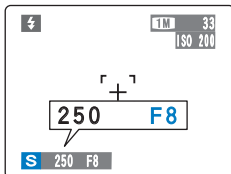
応用編

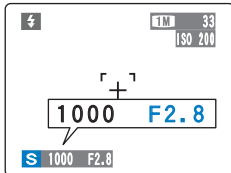
静止画機能 S シャッター優先オート

モードダイヤルを“S”に合わせます。
シャッタースピードを設定できるオートモードです。
動きの一瞬をとらえる（高速）、動きを表現する（低速）などの撮影ができます。

シャッタースピード設定

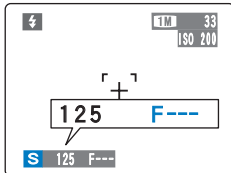
コマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを設定できます。

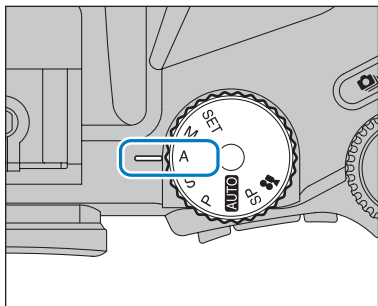
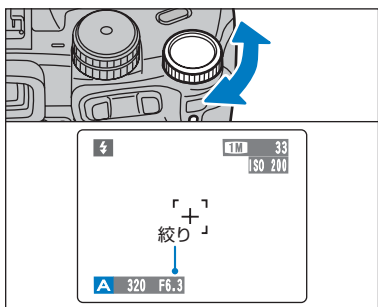
●シャッタースピードの設定
　3秒〜1/1000秒　1/3EVステップ

◆シャッタースピード、絞り値表示について◆

露出オーバー

極端な露出オーバーの撮影シーンでは、絞り値（F8）が「赤色」で表示されます。そのときは、より高速側のシャッタースピード（〜1/1000秒）に設定してください。

露出アンダー

極端な露出アンダーの撮影シーンでは、絞り値（F2.8）が「赤色」で表示されます。そのときは、より低速側のシャッタースピード（〜3秒）に設定してください。

測光不可

被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、絞り値が「F---」と表示されます。そのときはシャッターボタンを半押しすると再測光されて、値が表示されます。

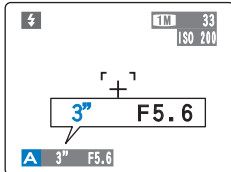
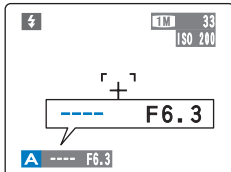
A 絞り優先オート

モードダイヤルを "A" に合わせます。
絞り値を設定できるオートモードです。
背景をぼかす(開放)、遠くまでピントを合わせる(絞る)撮影ができます。

絞り値設定

コマンドダイヤルを回すと、絞り値を設定できます。

●絞り値の設定
F2.8～F8　1/3EVステップ

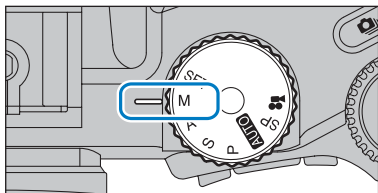
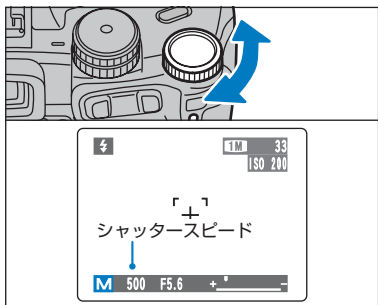
◆シャッタースピード、絞り値表示について◆

極端な露出オーバーの撮影シーンでは、シャッタースピード(1/1000秒)が「赤色」で表示されます。そのときは、より大きい数値の絞り値(～F8)に設定してください。

露出アンダー

極端な露出アンダーの撮影シーンでは、シャッタースピード(3秒)が「赤色」で表示されます。そのときは、より小さい数値の絞り値(～F2.8)に設定してください。

ストロボ強制発光に設定したときは最長シャッタースピードが1/60秒までになります。

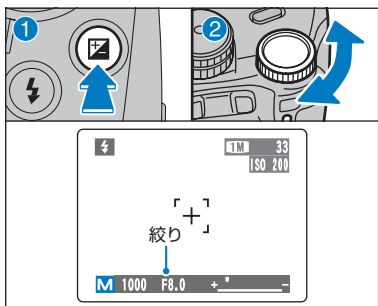
測 光 不 可

被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、シャッタースピードが「----」と表示されます。そのときはシャッターボタンを半押しすると再測光されて、値が表示されます。

M マニュアル

モードダイヤルを“M”に合わせます。
シャッタースピードと絞り値を自由に設定できる撮影モードです。

シャッタースピード設定

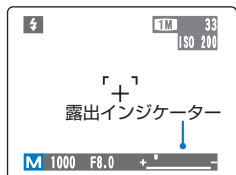
コマンドダイヤルを回してシャッタースピードを設定できます。
“B（バルブ）”に設定するとバルブ撮影が可能になります。バルブ撮影では最長15秒までシャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります。

●シャッタースピードの設定
15秒〜1/10000秒　1/3EVステップ
バルブ（B）

- EVについては104ページをご参照ください。
- 手ブレ防止のため三脚やケーブルレリーズを使用することをおすすめします。
- 長時間露光したときは、画像に点状のノイズが発生することがあります。
- 1/2000秒より高速なシャッタースピードを設定して撮影すると、スミア（白いすじ）が写ることがあります（➡104ページ）。
- 1/1000秒より高速なシャッタースピードのときは、ストロボが発光しても暗くなることがあります。

絞り値設定

❶“⊠”露出補正ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して絞り値を設定できます。

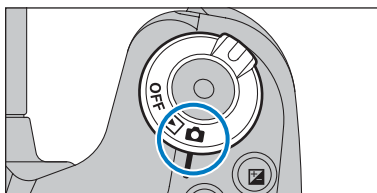
●絞り値の設定
F2.8〜F8　1/3EVステップ

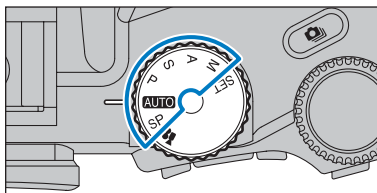
◆露出インジケーターについて◆

画面の露出インジケーターを目安に露出を決定します。被写体の明るさがカメラが測光できる明るさの範囲を超えてしまう場合は、目印が＋側になると露出オーバー（＋が黄色表示）、－側になると露出アンダー（－が黄色表示）です。

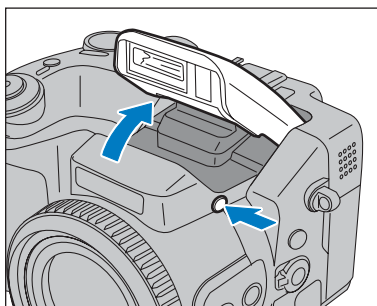
ストロボ撮影

AUTO SP（▲を除く）P S A M

撮影の目的に合わせて6種類のストロボの設定ができます。

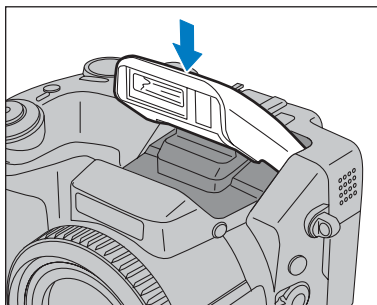
1

電源レバーを“📷”に合わせます。

2

モードダイヤルを静止画撮影モードに合わせます。

3

ストロボポップアップボタンを押してストロボをセットします。

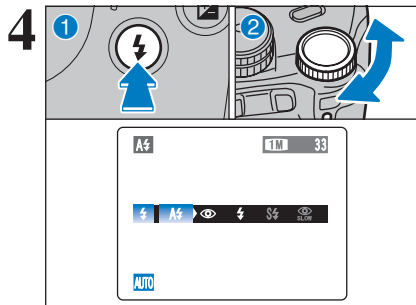
●ストロボ撮影可能距離（AUTO時）
広角側：約0.3m～約8.5m
望遠側：約0.9m～約7.9m

❗1/1000秒より高速なシャッタースピードのときは、ストロボが発光しても暗くなることがあります。
❗ストロボをポップアップしたとき、ストロボを充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときインジケーターランプが橙色に点滅します。

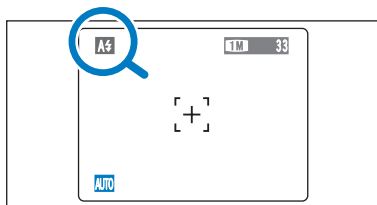
◆ストロボ発光禁止◆

ストロボを閉めると発光禁止になります。
室内照明を利用しての撮影、ガラス越しの撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。
この場合、オート白バランス（➡104ページ）が働き、周囲光の雰囲気を残しつつ自然な色に撮影できます。

❗暗い場所でストロボ発光禁止で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
❗手ブレ警告については24、98ページをご参照ください。

次ページにつづく

4

❶"⚡"ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して、ストロボの設定を選びます。

外部ストロボの使用については63ページをご参照ください。

ストロボの設定は撮影モードにより制限されます（➡37ページ）。

ストロボ使用中は画面に"A⚡、👁、⚡、S⚡、👁SLOW"が表示されます。

雪のときやほこりの多い環境でストロボ撮影すると、ストロボ光が雪やほこりに反射して画像に白点が写ることがあります。ストロボ発光禁止での撮影をお試しください。

ストロボ撮影をした場合、ストロボを充電するために映像が消えて黒い画面になることがあります。このときインジケーターランプが橙色に点滅します。

A⚡ オートストロボ

一般的な撮影に使用します。撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。

ストロボ充電中にシャッターを押すと、ストロボ発光せずに撮影されます。

👁 赤目軽減ストロボ

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。撮影前にストロボがプレ発光し、次に撮影のためのストロボが発光します。
撮影状況に応じてストロボが自動的に発光します。

ストロボ充電中にシャッターを押すと、ストロボ発光せずに撮影されます。

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするために、赤目軽減ストロボを積極的にご利用ください。赤目軽減ストロボを使用するとともに、

●撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう　●なるべく近づいて撮影する

などするとより効果的です。

強制発光ストロボ

窓際や木陰などの逆光撮影、蛍光灯などの照明の下で適正な色に撮りたいときに使用します。
明るいところでもストロボ撮影が行われます。

スローシンクロ

スローシャッターでストロボ発光します。夜景と人物をきれいに撮影できます。手ブレ防止のため必ず三脚をご使用ください。

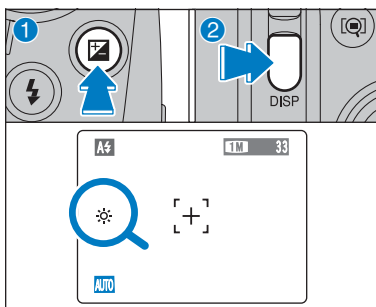
●最長シャッタースピード
"☾" 夜景(SP):3秒まで

赤目軽減+スローシンクロ

赤目軽減のスローシンクロ撮影です。

明るい撮影シーンでは露出オーバーになることがあります。

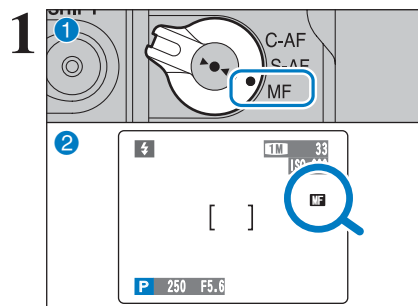
背景の夜景をより明るく撮りたい場合は、"SP" モードの "☾" (夜景)の使用をおすすめします(➡38ページ)。

◆画面の明るさアップについて◆

薄暗いシーンの撮影(スローシンクロ撮影など)で構図を確認するときに便利です。
❶"±" ボタンを押しながら、❷"DISP" ボタンを押します。画面に "☼" が表示され、被写体が明るく表示されます。
明るさアップを解除するには、もう一度❶"±" ボタンを押しながら、❷"DISP" ボタンを押します。

- この機能は撮影ごとに自動的に解除されます。
- この機能は構図の確認専用です。撮影する画像を明るくする機能ではありません。
- 暗闇では明るさアップを行っても、被写体の確認ができません。

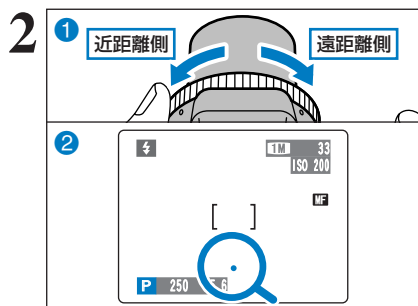
マニュアルフォーカス

オートフォーカスでピントが合いにくい場合や、ピントを固定して撮影したいときに使用します。

1

❶フォーカスモード切り換えレバーを “MF” に合わせます。
❷画面に “MF” が表示されます。

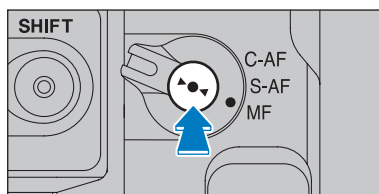
マニュアルフォーカスで無限遠にピントを合わせる場合は、無限遠に近い被写体を●（合焦）マークで合わせてください。FZリングを回し続けると無限遠を超えたフォーカス位置になりピントが合いません。
“🎥” 動画撮影モードでは使用できません。

◆マニュアルフォーカスを使いこなすには◆
カメラが動いてしまうとピントがずれてしまうため、三脚を使用します。

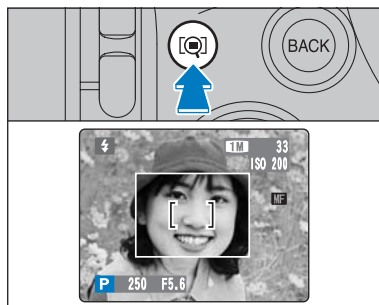
2

❶FZリングを回してAFフレーム内の被写体にピントを合わせます。
❷画面にフォーカスインジケーターが表示されるので、“●” が表示されるように調節します。

■フォーカスインジケーターについて
ピント合わせをある程度行う（合焦位置に近づく）とマークが表示されるので、マークに従ってピントを合わせます。

ピントが合っていないのに●（合焦）マークが点灯したときは、ワンプッシュAF機能をお試しください。

●	ピントが合っています。
◀	ピントが近距離です。FZリングを時計回りに回します。
▶	ピントが遠距離です。FZリングを反時計回りに回します。

ワンプッシュAF機能

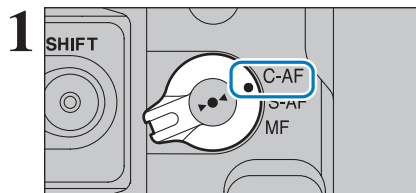
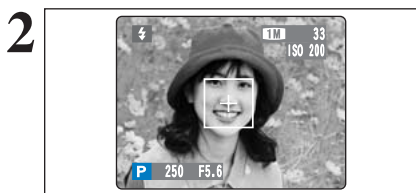
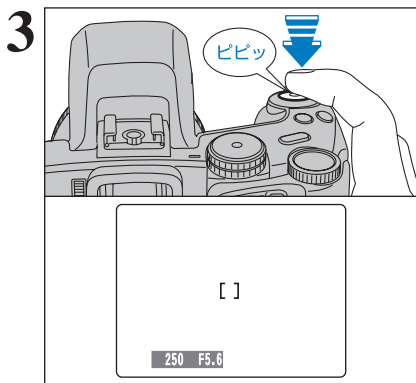
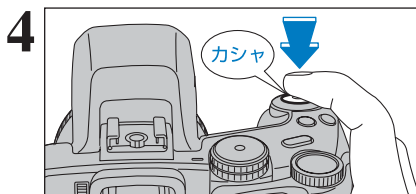
素早くピントを合わせるときに使用します。
“▶●◀” ボタンを押すとオートフォーカスでピントが合います。

ワンプッシュAF時はフォーカスインジケーターは表示されません。

[◉]フォーカス確認機能

ピントが確認しにくい場合に使用します。
“[◉]” ボタンを押すと画面中央部が拡大表示され、そのままピント合わせが可能です。撮影するか、もう一度 “[◉]” ボタンを押すと通常表示に戻ります。

フォーカス確認機能は、AFモードをオートエリアまたはエリア選択に設定している場合は機能しません。

コンティニュアスAF

動いている被写体を撮影するときに使用します。コンティニュアスAFを使用すると、ピントを合わせる時間を短くすることができます。

1
フォーカスモード切り換えレバーを“C-AF”に合わせます。

2
画面を使って、被写体を画面中央付近もしくはAFフレームでねらいます。

3
シャッターボタンを半押しすると、“ピピッ”と音が鳴りピントが合います。そのとき画面のAFフレームが小さくなり、シャッタースピード/絞り値が決定されます（インジケーターランプ［緑］は点滅から点灯に変わります）。

4
半押しのままさらにシャッターボタンを押し込む（全押し）と、“カシャ”と音が鳴り撮影されます。続いて画像が記録されます。

❗AFモードは強制的にセンター固定になります。

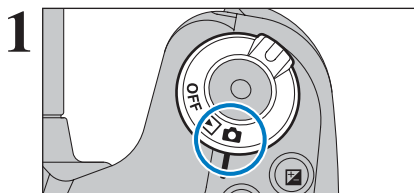
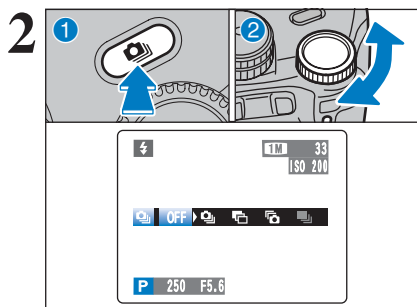
◆コンティニュアスAFの注意◆

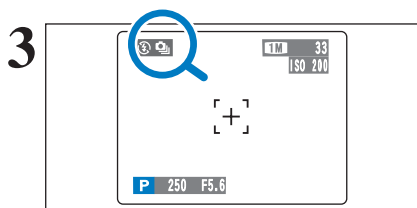
C-AFモード使用時は電池残量にご注意ください。
C-AFモードはシャッターボタンを押さなくても常にピントを合わせ続けるため、S-AFモードやMFモードと比べて電池の消耗が多くなります。

静止画機能 連写

1

電源レバーを“ ”に合わせます。

2

❶“ ”連写ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して、使用する連写モードを選びます。“ ”ボタンから指をはなすと決定されます。

3

連写モードを設定（OFF以外）すると画面に選んだモードが表示されます。

：連写
：オートブラケティング
：サイクル連写
：MEGA連写

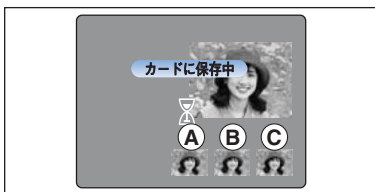
◆連写モードの注意◆

- シャッターボタンを押し続けている間撮影されます。ただしオートブラケティングは、一度シャッターを切ると自動的に3コマ撮影されます。
- メディアの容量が不足すると、記録可能な枚数分撮影されます。ただしオートブラケティングは、メディアに3コマ分の空き容量がないときは撮影できません。
- ピントは1コマ目を撮影したときに決定され、途中で変えられません。
- 露出は1コマ目を撮影したときに決定されますが、MEGA連写ではシーンに応じて自動的に変わります。
- シャッタースピードにより連写速度は変わります。
- 連写速度はピクセル設定によって変わることはありません。
- ストロボは発光禁止になり使用できません。
- 連写、オートブラケティング、サイクル連写では、撮影後、必ず撮影結果が表示されます。画像を記録する、記録しないを選択するときは、SET−UPの撮影画像表示を“確認”にします（➡81ページ）。ただし、MEGA連写はSET−UPの設定にかかわらず自動的に記録されます。

連写

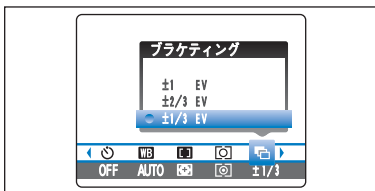
最短約0.3秒間隔で最大5コマ連写できます。
撮影すると撮影結果（左から撮影した順序）が表示され、自動的に保存されます。

5コマ連写で撮影したファイルの記録時間は最大約12.5秒です（xD-ピクチャーカード で記録した場合）。

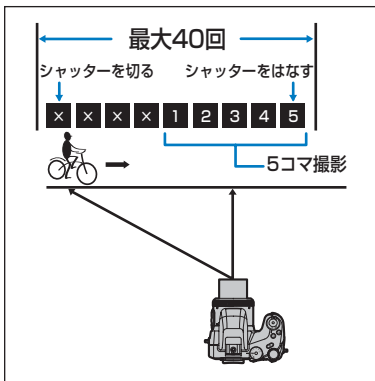
オートブラケティング

自動的に設定値きざみでⒶ適正、Ⓑオーバー、Ⓒアンダーの露出で3コマ連続して撮影されます。
設定値（露出幅）は撮影メニューで変更できます。

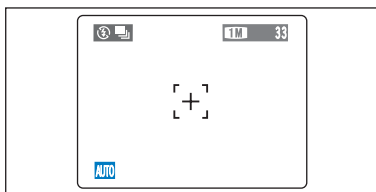
●オートブラケティング設定値（3種類）
±1/3EV、±2/3EV、±1EV

アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を超えるときは、設定値きざみで撮影されません。

“AUTO、SP”の撮影モードでは使用できません。

設定値（露出幅）の変更

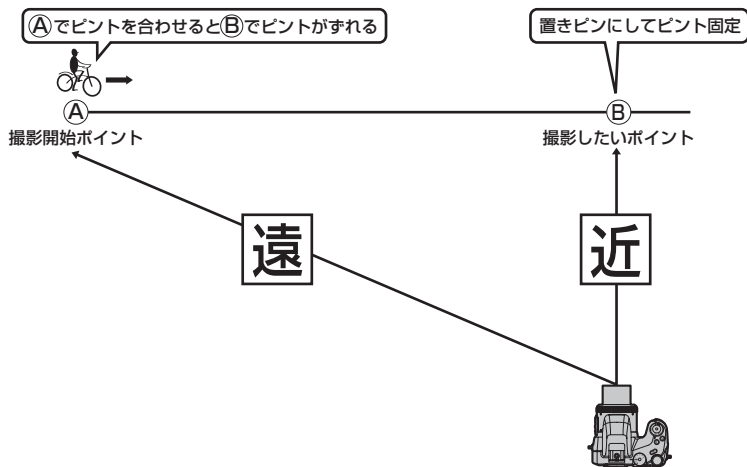
“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示し、“ ”ブラケティング（➡61ページ）の項目で設定を変更します。

サイクル連写

最大40回（最短約0.3秒間隔）シャッターを切ったうちの最後の5コマを記録します。
40回に到達する前にシャッターボタンから指をはなしたときは、シャッターボタンから指をはなした直前の5コマが記録されます。
メディアの容量が不足しているときは、シャッターボタンから指をはなした直前の、記録可能な枚数分撮影されます。

MEGA連写

最大40コマ連写できます(最短約1秒間隔)。

"SP、P、S、A、M"の撮影モードでは使用できません。

◆移動している被写体にピントを合わせるには◆

撮影開始ポイントⒶでシャッターボタンを半押ししてピントを合わせると、撮影したいポイントⒷで距離が変わり、ピントの合っていない画像になることがあります。
そのときはあらかじめ撮影したいポイントⒷにピントを合わせ、ピントがずれないように固定して撮影します(置きピン)。
また置きピンは、動きが速くピントを合わせにくい被写体の撮影でも有効です。

◆ピクセルとMEGA連写について◆

MEGA連写に設定した場合ピクセル設定が自動的に変更されることがあります。MEGA連写以外に設定したときはピクセル設定を確認して、必要に応じてピクセル設定をし直してください(➡30ページ)。

MEGA連写設定前のピクセルの設定が1M、2M、3Mの場合

●MEGA連写に設定してもピクセルの設定は特に制約はありません。
・MEGA連写を行ってもピクセルの設定に変更はありません。
・MEGA連写に設定している場合は、ピクセルの設定が1M、2M、3Mの範囲で変更できます。
・MEGA連写設定中にピクセルの設定を変更したときは、通常撮影に戻してもピクセルの設定はそのままです。

MEGA連写設定前のピクセルの設定が6M、12Mの場合

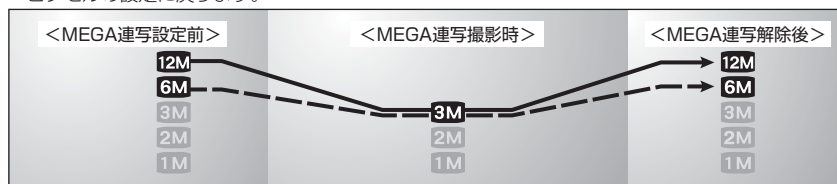
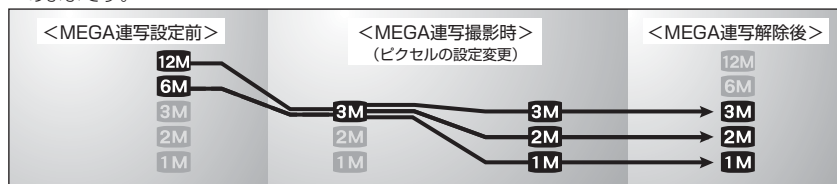
●MEGA連写に設定するとピクセル設定が自動的に"3M"に変更されます。
・MEGA連写設定中にピクセルの設定を変更せずに、通常撮影に戻すとMEGA連写に設定する前のピクセルの設定に戻ります。

・MEGA連写設定中にピクセルの設定を変更したときは、通常撮影に戻してもピクセルの設定はそのままです。

応用編

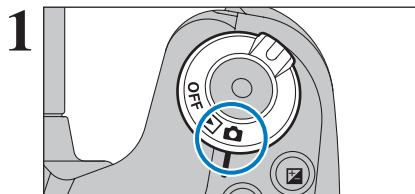
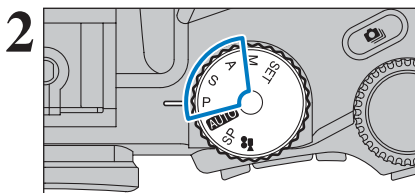
静止画機能

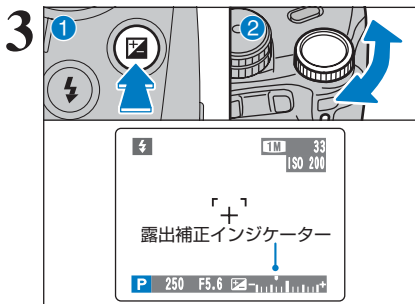
露出補正

P S A

被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な明るさ（露出）が得られないときに使用します。

1

電源レバーを“📷”に合わせます。

2

モードダイヤルを“P、S、A”に合わせます。

3

❶“☒”露出補正ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して設定します。
補正した側の“－”または“＋”が「黄色」になります。設定中は“☒”が「黄色」で表示され、設定後は“☒”が「青色」になります。

●補正範囲：－2EV～＋2EV
（13段階：1/3EVステップ）

❗“AUTO、SP、M”の撮影モードでは使用できません。
❗次のような状態では、無効になります。
“⚡”（強制発光）または“👁”（赤目軽減）で撮影シーンが暗いとき

モード切り換え、電源OFFでも保持されます（“☒”マーク点灯）。必要のないときは設定値を“0”にしてください。

◆適正な明るさを得るには◆

適正な明るさを得るには、撮影された写真の明暗の度合いにより露出補正を調節してください。

● 被写体が白っぽく撮影される。
設定値を－（マイナス）補正にして試してください。
写真全体が暗めに撮影されます。

● 被写体が暗い感じに撮影される。
設定値を＋（プラス）補正にして試してください。
写真全体が明るめに撮影されます。

■露出補正の目安

- 逆光の人物撮影：＋2目盛～＋4目盛（＋0.7EV～＋1.3EV）
- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合：＋3目盛（＋1EV）
- 液晶モニター内を空の部分が大きく占める場合：＋3目盛（＋1EV）
- スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合：－2目盛（－0.7EV）
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合：－2目盛（－0.7EV）

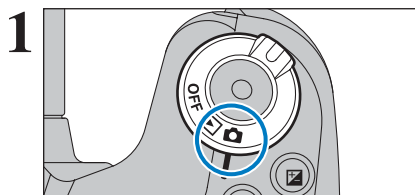
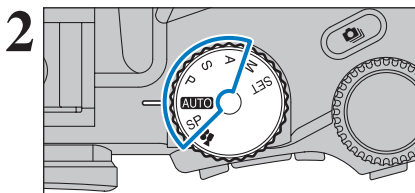
AE-L　AEロック

AUTO　SP　P　S　A

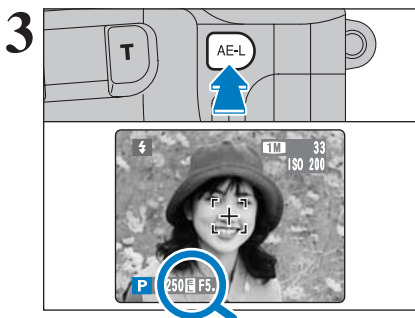
特定の被写体に露出を固定して撮影したいときに使用します。

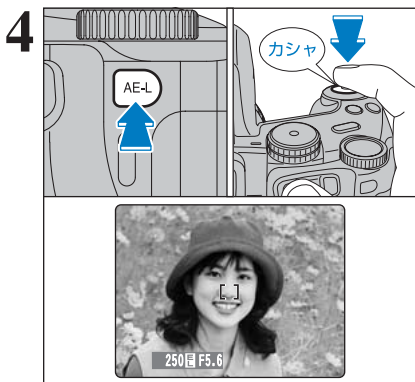
1

電源レバーを"📷"に合わせます。

2

モードダイヤルを"AUTO、SP、P、S、A"に合わせます。

MEGA連写時は使用できません。

3

被写体を画面中央にとらえ、"AE-L"ボタンを押します。画面に"▤"マークが表示され"AE-L"ボタンを押している間、露出が固定されます。

4

"AE-L"ボタンを押したままシャッターボタンを半押ししピントを合わせます。構図をし直して撮影します。

シャッターボタンを半押しすれば、"AE-L"ボタンを離しても露出は固定されています。

AEロック時のシャッターボタン半押しは、ピント合わせのみ可能です。

応用編

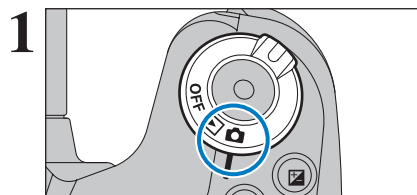
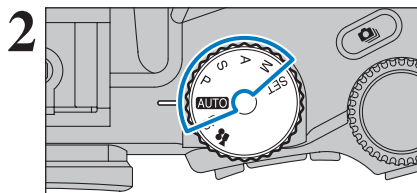
マクロ（近距離）

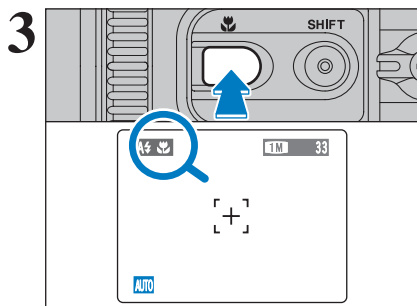
AUTO P S A M

マクロを設定すると近距離撮影ができます。

1

電源レバーを“📷”に合わせます。

2

モードダイヤルを“AUTO、P、S、A、M”に合わせます。

3

“🌷”ボタンを押すたびにマクロの設定が変わります。

! マクロ撮影は、次のとき自動的に解除されます。
- 撮影モードを“🎥、SP”に切り換えたとき
- 電源が切れたとき

! ストロボが明るすぎる場合は、ストロボの光量補正を行ってください（➡63ページ）。

! 暗い場所で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします（“!✋”手ブレ警告が表示されているとき）。

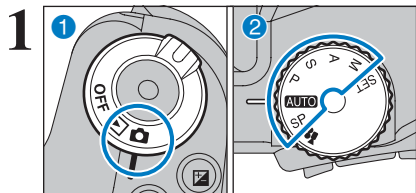
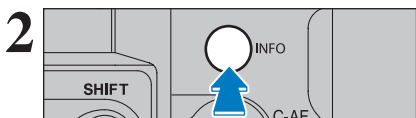
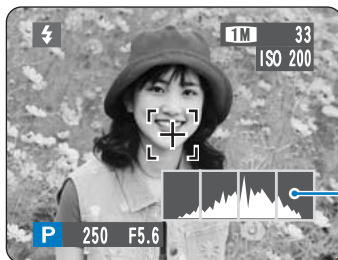
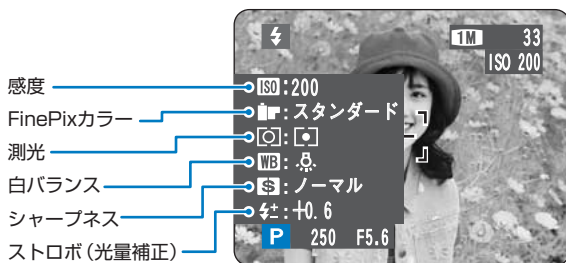
	撮影可能距離	ストロボ撮影可能距離	光学ズーム焦点距離（35mmカメラ換算）
🌷 マクロ	約10cm〜約80cm	約30cm〜約80cm	約35mm〜約80mm相当 最大ズーム倍率　約2.3倍
🌷 スーパーマクロ	約1cm〜約20cm	ストロボは使用できません。	光学ズームはできません。

静止画機能 撮影インフォメーション

撮影中にヒストグラムを表示させて、画像の明るさの分布も確認できます。
また現在の設定値が分からなくなった場合、設定値の確認ができます。

1

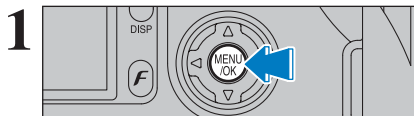
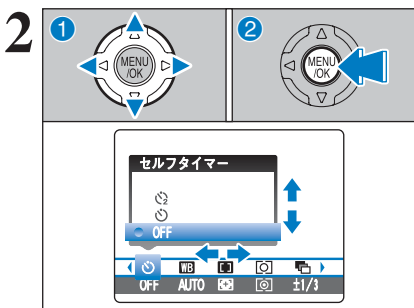
❶電源レバーを“📷”に合わせます。
❷モードダイヤルを静止画撮影モードに合わせます。

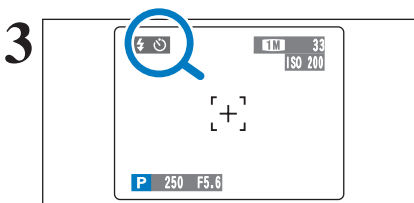
2

“INFO”ボタンを押すとヒストグラムが表示されます。
もう一度“INFO”ボタンを押すと現在の設定値が表示されます。

❗正しいヒストグラムは撮影後に再生して確認してください（➡68ページ）。
❗撮影時は明るさの分布を簡易表示します。露出の確認はできません。
❗再生時とはグラフ形状が異なる場合があります。

静止画メニューの操作（必ずお読みください）

1

“MENU/OK” ボタンを押してメニューを表示します。

2

❶“◀▶” でメニューを選びます。“▲▼” で設定を変更します。
❷“MENU/OK” ボタンを押して決定します。

3

設定を有効にすると画面にアイコンが表示されます。

撮影モードにより設定可能な撮影メニューは変わります。

セルフタイマー ➡57ページ

撮影者を含めた集合写真などを撮影するときに使用します。

白バランス ➡58ページ

撮影時の環境、照明光に合わせ、白バランスを固定して撮影を行いたいときに変更します。

[ ] AFモード ➡59ページ

ピントを合わせる方法を設定します。

測光 ➡61ページ

被写体と背景の明るさが大きく異なる撮影シーンで、マルチで思いどおり測光されないときに変更します。

ブラケティング ➡61ページ

同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。

シャープネス ➡62ページ

輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調節するときに変更します。

多重露光 ➡62ページ

撮影した画像が重なって表現される撮影方法です。

ストロボ（光量補正） ➡63ページ

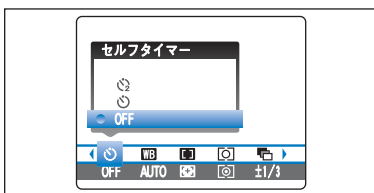
撮影目的や撮影条件に合わせて、内蔵ストロボの発光量を調節するときに変更します。

外部ストロボ ➡63ページ

外部ストロボを使用するときに設定します。

⏱ セルフタイマー

AUTO SP P S A M

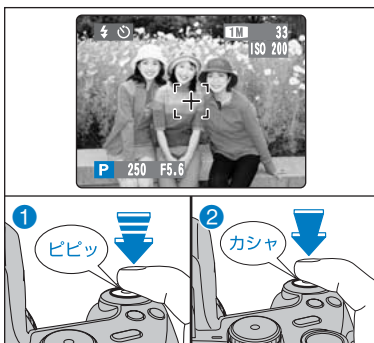
1

撮影者を含めた集合写真などに使用します。
セルフタイマーを設定すると、画面にセルフタイマーマークが表示されます。

⏱：10秒後撮影
⏱2：2秒後撮影

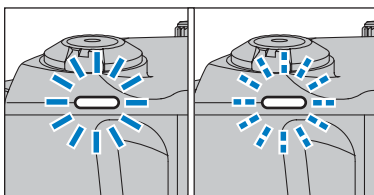
セルフタイマーは、次のときに自動的に解除されます。
- 撮影が完了したとき
- モードダイヤルを切り換えたとき
- 再生モードに切り換えたとき
- 電源が切れたとき

◆2秒後撮影について◆

三脚を使用してもシャッター操作でカメラがブレてしまう場合に便利です。

2

❶シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。
❷半押しのまま、さらにシャッターボタンを押し込むと（全押し）、セルフタイマーが開始されます。

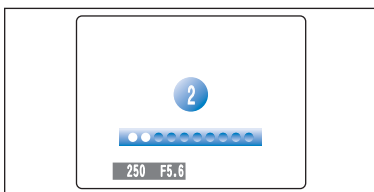
AF/AEロック撮影も可能です（➡25ページ）。
レンズの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケになったり、適正な明るさ（露出）にならないことがあります。

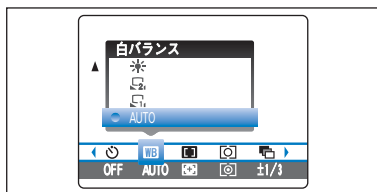
3

セルフタイマーランプが点灯したのち点滅に変わり、撮影されます。

開始したセルフタイマー撮影は、“BACK”ボタンを押すと解除できます。

■セルフタイマーランプ表示

⏱	5秒間点灯→5秒間点滅
⏱2	2秒間点滅

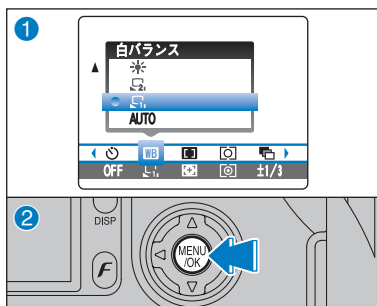
4

撮影されるまでの間、画面にカウントダウン（秒読み）表示されます。
セルフタイマーは撮影ごとに自動的に解除されます。

WB 白バランス

撮影時の環境、照明光に合わせ、白バランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しい白バランスにならない場合があります。その場合は光源に合わせた白バランスを選択してください。白バランスについては104ページをご参照ください。

AUTO：自動調整
（光源の雰囲気を残した撮影）
：カスタム白バランス1
：カスタム白バランス2
：晴れた屋外での撮影
：日陰での撮影
：昼光色蛍光灯下での撮影
：昼白色蛍光灯下での撮影
：白色蛍光灯下での撮影
：電球、白熱灯下での撮影

＊ストロボ発光時の、白バランス（カスタム白バランスを除く）はストロボ用の設定になりますので、意図した撮影の場合ストロボを発光禁止（➡43ページ）にしてください。

撮影環境（光源など）によって多少色味が変わる場合があります。

1

カスタム白バランスの設定

撮影時の環境、照明光に対して正確に白バランスを合わせたいときに使用します。特殊な効果を出したいときにも使用できます。

❶“ ”または“ ”のカスタム白バランスを選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

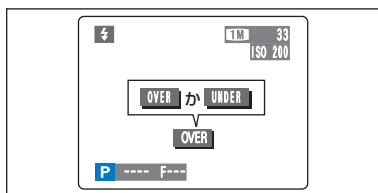
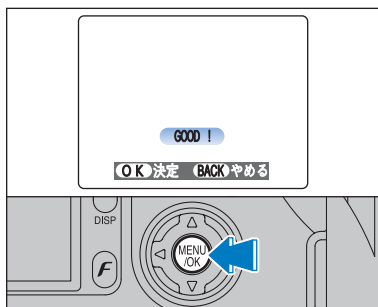
◆使用例◆
白い紙の代わりに色紙を使用すると、撮影画像の白バランスを意図的に変えることができます。

2

設定したい光源下で、白い紙などを画面いっぱいに表示し、シャッターボタンを押すと測定されます。

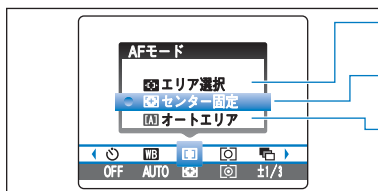
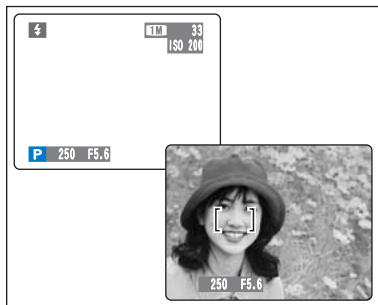
画面に白バランスは反映されません。

前回設定した白バランスを使用するには、シャッターボタンを押さずに“MENU/OK”ボタンを押してください。

3

適正な露出で測定されると、“GOOD !”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

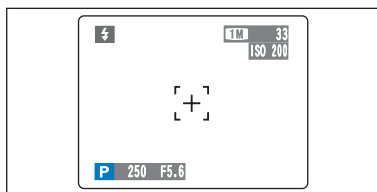
- 設定したカスタム白バランスは、再設定するまで保持されます(電池を取り出しても保持されます)。
- 撮影後、画像の色味(白バランス)を確認することをおすすめします。
  - SET−UP画面で撮影画像表示(➡81ページ)を“確認”にします。
  - 電源レバーを“▶”に合わせます(➡17ページ)。

“OVER”“UNDER”が表示された場合は、適正な露出で白バランスが測定されていません。“OVER”が表示された場合は“−”側に、“UNDER”が表示された場合は“+”側に露出補正してもう一度設定し直してください。

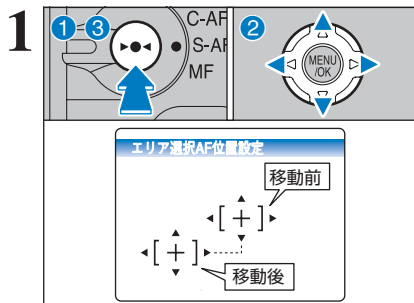
[ ] AFモード

- エリア選択
- センター固定
- オートエリア

[A] オートエリア

シャッターボタンを半押しすると、画面中央付近のコントラストが高い被写体を自動認識し、ピントを合わせた被写体にAFフレームが表示されます。

- 主被写体をとらえにくいときは、フォーカスを“[+]”センター固定にし、AF/AEロック(➡25ページ)をお使いください。

次ページにつづく

センター固定

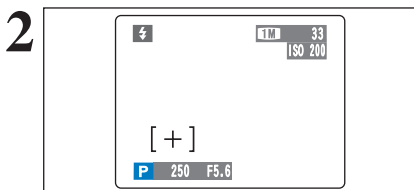
画面中央でピントを合わせます。AF/AEロック撮影（➡25ページ）を併用すると便利です。

1

エリア選択

画面内でピントを合わせる位置を変えることができます。三脚に固定して構図を決めてから、ピントを合わせる位置を変えるときなどに使用します。

❶"▶●◀"ボタンを押しながら、❷"[+]"（ターゲットポイント）を、"▲▼◀▶"でピントを合わせたい位置に移動します。

❸"▶●◀"ボタンから指を離します。

2

ターゲットポイントを移動した位置にAFフレームが表示されます。

通常どおり撮影します。

AFフレームを再度移動するときは、手順**1**の操作を行ってください。

AFフレームの位置にかかわらず、露出合わせは常に画面中央付近で行われます。主被写体に露出を合わせるときは、AEロックの使用をおすすめします。

[◎] 測光

P S A M

被写体と背景の明るさが大きく異なる撮影シーンで、マルチで思いどおり測光されない場合に使用します。

[◎] マルチ（分割測光）：
自動で場面を判別し、露出が最適になるように測光します。

[•] スポット：
画面中央部の露出が最適になるように測光します。

[ ] アベレージ：
画面全体を平均して測光します。

"AUTO、SP、🎥" の撮影モードではマルチに固定されています。

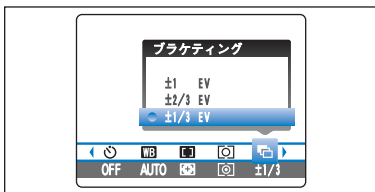
◆次のような被写体のとき効果があります◆

●マルチ
シーン自動認識により被写体を分析し、幅広い条件で適正な露出が得られます。通常はマルチの使用をおすすめします。

●スポット
明暗差の大きい被写体で、ねらったものに正確に露出を合わせたいときに有効です。

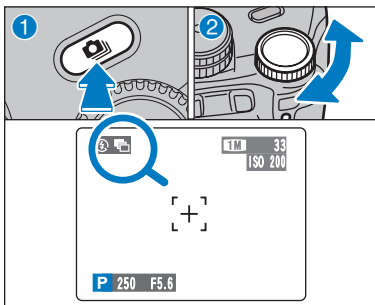
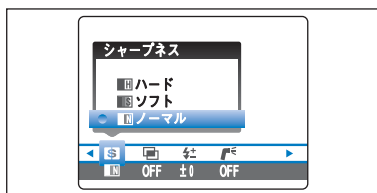
●アベレージ
構図や被写体により露出が変化しにくい特長があります。白や黒などの服を着た人物や、風景の撮影などに有効です。

ブラケティング

1

同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。
自動的に設定値きざみで適正、オーバー、アンダーの露出で3コマ連続して撮影します。

●設定値：3種類
（±1/3EV、±2/3EV、±1EV）
EVについては104ページをご参照ください。

アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を超えるときは、設定値きざみで撮影されません。
ストロボ撮影はできません。
必ず3コマの画像が撮影されます。ただし、メディアに3コマ分の空き容量がない場合は撮影できません。

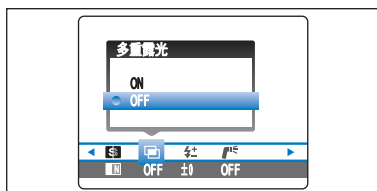
2

ブラケティングの露出の値を設定後、❶"📷" ボタンを押しながら、❷コマンドダイヤルを回して "⧉" を選びます。

シャープネス

輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調節するときに使用します。

ハード　：輪郭を強調します。
建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。

ソフト　：輪郭をソフトにします。
人物などソフトにしたい撮影に最適です。

ノーマル：通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。

多重露光

撮影した画像が重なって表現される撮影方法です。通常得られない画像を撮影できます。

- 撮影した画像が露出オーバーになる場合は、露出補正でマイナス補正することをおすすめします（➡52ページ）。
- 多重露光では光学ズームのみになり、デジタルズーム（➡26ページ）は機能しません。
- 電源OFFで自動的に解除されます。

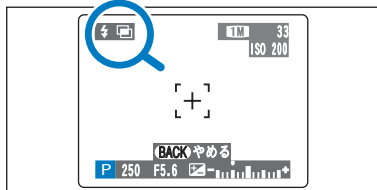
●多重露光設定時は連写、オートブラケティングは無効になります。
●撮影途中で撮影メニューやピクセルの設定を変更できません。
●多重露光の回数に制限はありません。

1

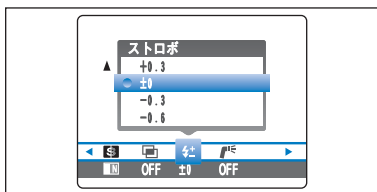
撮影するとプレビュー画面が表示されます。

●さらに多重露光する：“▶”を押します。
●記録する：“MENU/OK”ボタンを押します。
●ひとつ前に戻る：“◀”を押します。
●記録しないでやめる：“BACK”ボタンを押します。

- 撮影画像表示の設定にかかわらず必ずプレビューされます（➡82ページ）。ただしプレビューズーム機能は使用できません。
- 撮影モードを変更すると記録されずに終了します。

2

2回目以降の撮影では、画面の“▣”が黄色で表示されます。

ストロボ（光量補正）

P S A M

光量補正は撮影目的や撮影条件に合わせて内蔵ストロボの発光量のみを変えられます。

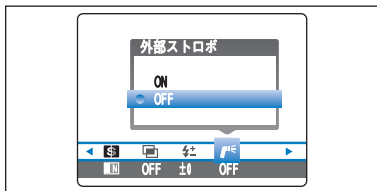
●補正範囲：±2段階：
−0.6EV〜+0.6EV
（5段階：約0.3EVステップ）
EVについては104ページをご参照ください。

被写体条件および撮影距離などによっては、光量補正の効果が得られない場合があります。

1/1000秒より高速なシャッタースピードを設定したときは、暗く撮影されることがあります。

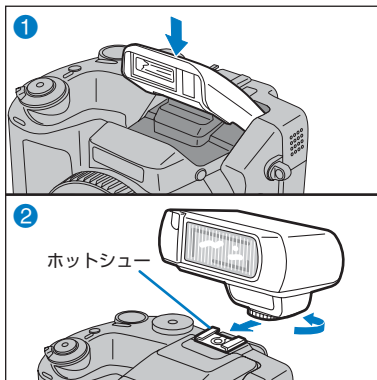
外部ストロボ

P S A M

1

外部ストロボを使用するときに “ON” にします。同調シャッタースピードは1/1000秒までです。

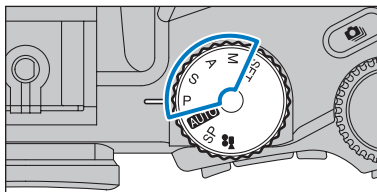
1/1000秒より高速なシャッタースピードを設定したときは、暗く撮影されることがあります。

白バランス（➡58ページ）をAUTOまたはカスタム白バランス（➡64ページ）に設定します。

2

❶内蔵ストロボを閉めます。
❷外部ストロボをカメラのホットシューに取り付け、固定ねじを締めます。

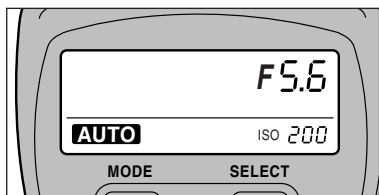
内蔵/外部ストロボは同時に使用できません。

一般の外部ストロボが使用できます。ただし、一部のカメラ専用ストロボでは使用できない場合があります。

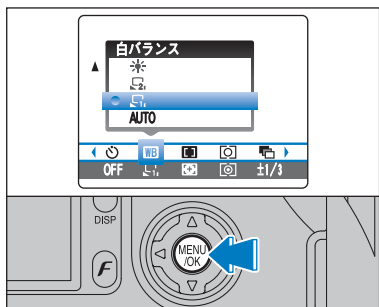
3

“P、S、A”（➡39、40、41ページ）か “M”（➡42ページ）に設定できますが、“A” か “M” での使用をおすすめします。

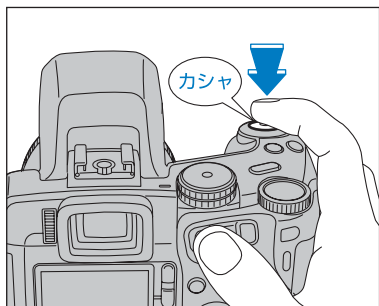
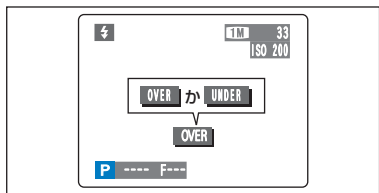
連写（➡48ページ）、オートブラケティング（➡49ページ）を設定時はストロボ撮影できません。

次ページにつづく

4

外部ストロボの設定(自動調光式ストロボの場合)

外部ストロボの設定は、ストロボの説明書を参照して次の項目を設定してください。

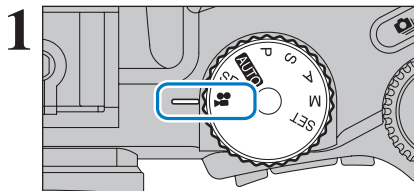
- 外部調光モードに設定します(TTLモードは使用できません)。
- カメラの絞り値と、設定を合わせます。カメラが測定した絞り値に合わせてください。
- カメラの感度(➡31ページ)と、設定を合わせます。

白バランスが合わない場合

外部ストロボに合わせて白バランスを調節します。撮影メニューの"WB"(➡58ページ)で"カスタム1、カスタム2"カスタム白バランスを選びます。
"MENU/OK"ボタンを押します。

白い紙などを画面いっぱいに表示します。
シャッターボタンを押すとストロボが発光し設定されます。

撮影後、画像の色味(白バランス)を確認することをおすすめします。

- SET—UP画面で撮影画像表示(➡81ページ)を"確認"にします。
- 電源レバーを"▶"に合わせます(➡17ページ)。

"OVER""UNDER"が表示された場合は、適正な露出で白バランスが測定されていません。"OVER"が表示された場合は"−"側に、"UNDER"が表示された場合は"+"側に露出補正してもう一度設定し直してください。

動画を撮影してみましょう（🎥 動画撮影）

1

モードダイヤルを“🎥”に合わせます。
音声付き動画が撮れるモードです。

- 撮影形式：Motion JPEG形式モノラル音声付き
- ピクセルサイズ切り換え式
  640（640×480ピクセル）
  320（320×240ピクセル）
- フレームレート：30フレーム/秒

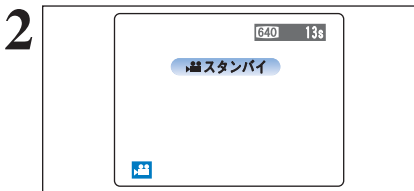
❗ピクセル（動画サイズ）設定の変更（➡30ページ）。
❗メディアの空き容量によっては、一回の撮影時間が短くなることがあります。
❗動画はメディアに記録しながら撮影するため、突然電源が切れる（電池カバーを開ける、ACパワーアダプターの抜き差し）と正常に保存処理できません。

本機以外のカメラでは動画ファイルは再生できない場合があります。

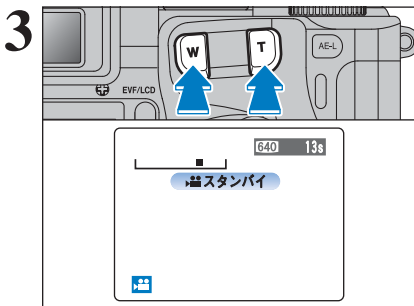
■メディア標準撮影時間

＊新しいメディアをカメラでフォーマットした状態の標準撮影時間です。
メディアの空き容量によって撮影時間が変わります。

メディア容量		ピクセル	
		640（30フレーム/秒）	320（30フレーム/秒）
xD-ピクチャーカード	DPC-16（16MB）	13秒	26秒
	DPC-32（32MB）	27秒	54秒
	DPC-64（64MB）	55秒	1分49秒
	DPC-128（128MB）	1分51秒	3分39秒
	DPC-256（256MB）	3分43秒	7分19秒
	DPC-512（512MB）	7分26秒	14分39秒
マイクロドライブ	MK-1（340MB）	5分5秒	10分0秒
	MK-2（1GB）	15分19秒	30分8秒

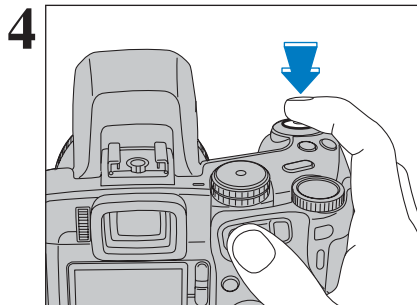
2

画面に撮影可能時間と“🎥スタンバイ”が表示されます。

❗音声が同時に記録されるので、指などでマイク（➡7ページ）をふさがないようご注意ください。

3

撮影を開始する前にズームボタンでズームします。撮影中はズームできませんので、必ず撮影前に行ってください。

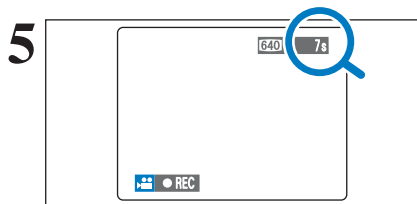
- 光学ズーム焦点距離（35mmカメラ換算）
  約35mm～約210mm相当
  最大ズーム倍率 6倍
- 撮影可能距離
  広角側：約50cm～無限遠
  望遠側：約90cm～無限遠

次ページにつづく

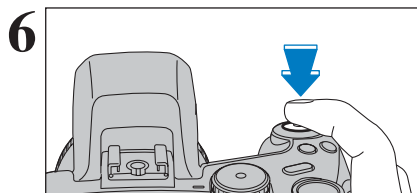
4

シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。

- 撮影前の画面と動画記録中の画面は明るさや色などが異なる場合があります。
- シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

シャッターボタンを全押しすると、ピントは固定されますが、露出、白バランスはシーンに応じて自動的に変化します。

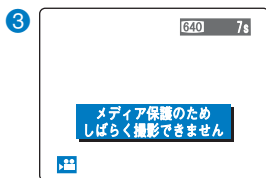
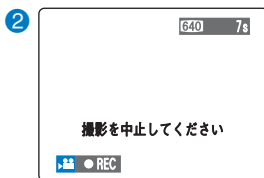
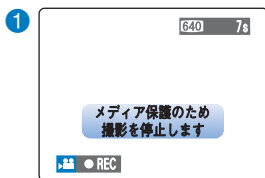
5

撮影中は、画面右上に残り時間をカウントダウン表示します。

- 動画撮影中に被写体の明るさが変化すると、レンズ動作音が記録されることがあります。
- 屋外での撮影で風切り音が入る場合があります。
- 残り時間がなくなると自動的に撮影が終了し、メディアに記録されます。

6

撮影中にシャッターボタンを押すと撮影を終了します。

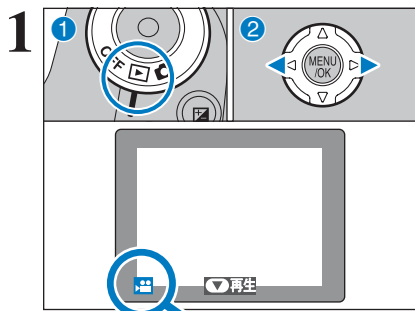
- 撮影開始後すぐに終了しても約1秒間だけメディアへ記録されます。

◆動画撮影でマイクロドライブ使用時の注意◆

カメラの内部温度が高くなると自動的に動画の撮影を終了し、メディアを保護します。マイクロドライブは（機構上）発熱しやすいため、環境気温が高いと長時間連続して動画撮影できないことがあります。おおよその撮影可能時間は、環境気温が＋30℃で約20分、＋25℃で約30分の撮影が可能です。

❶
❷
❸
❶撮影中、カメラの内部温度が上昇すると“メディア保護のため撮影を停止します”と表示されます。
❷その後“撮影を中止してください”の表示に切り換わります。さらに撮影を続けると自動的に動画が保存され、電源が切れます。
❸直後に動画を撮影しようとすると“メディア保護のためしばらく撮影できません”と表示され撮影できません。電源を切り温度が低下するまで約30分間使用を中止してください。ただし、静止画の撮影は可能です。

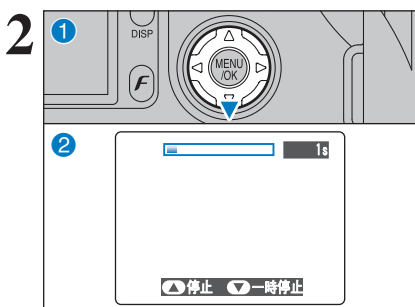
- 動画撮影の直後はマイクロドライブが熱を持っているため、すぐに取り出さないでください。

再生モード 動画再生

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“◀▶”で動画ファイルを選びます。

マルチ再生では動画再生できません。“DISP”ボタンで1コマ再生にしてください。

“🎥”のアイコンで表示されます。

2

❶“▼”を押すと再生されます。
❷画面に再生時間とバーが表示されます。

スピーカーをふさがないでください。
音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください（➡20ページ）。
高輝度の被写体を撮影した場合、再生時に白い縦スジや、黒い横スジが入ることがありますが故障ではありません。

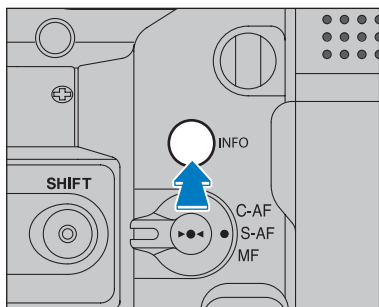
応用編

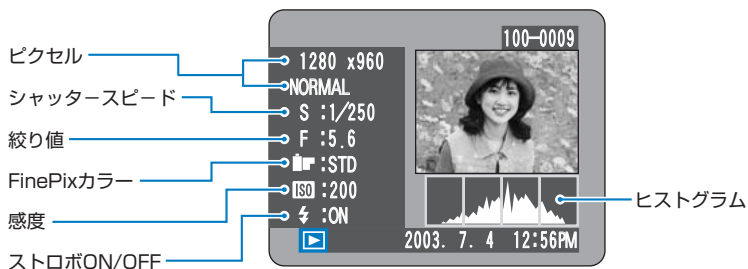
■動画再生操作方法

	操　作	説　明
再生/一時停止		再生を開始します。再生が終わると自動的に停止します。再生中は一時停止します。
停止		再生を停止します。 ※停止中に“◀▶”で次のファイルに送られます。
早送り/巻き戻し		再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。
コマ送り	一時停止中	一時停止中に“◀”または“▶”を押すたびに1コマずつ送られます。

◆動画ファイルの再生について◆

●本機以外で記録した動画ファイルは再生できない場合があります。
●パソコンで再生する場合、メディア内の動画ファイルをパソコンのハードディスクに保存して、そのファイルを再生してください。

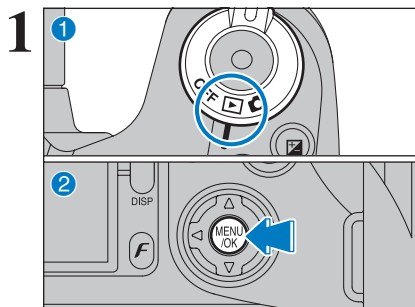
再生インフォメーション

撮影時の情報を確認することができます。
“INFO” ボタンを押している間のみ確認できます。

マルチ再生中（➡27ページ）は使用できません。

◆ヒストグラム表示について◆

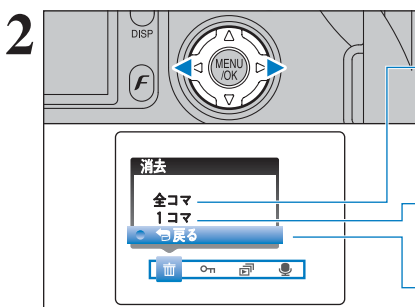
ヒストグラムとは明るさの分布をグラフ（横軸：明るさ/縦軸：ピクセルの数）に表したものです。
① 適正露出の場合：全体的にピクセルの数が多く山なりに分布します。
② 露出オーバーの場合：ハイライトのピクセルの数が多く右に偏ります。
③ 露出アンダーの場合：シャドーのピクセルの数が多く左に偏ります。

被写体によってグラフ形状は異なります。

再生メニュー 🗑 消去（1コマ、全コマ）

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

誤ってコマ（ファイル）を消去すると、元に戻せません。ご注意ください。消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

2

“◀▶”で“🗑”消去を選びます。

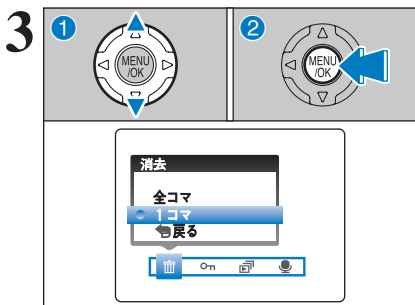
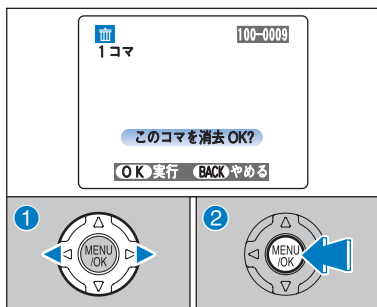
全コマ

プロテクトされていないすべてのコマ（ファイル）を消去します。消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

1コマ

選んだコマ（ファイル）だけを消去します。

戻る

消去せずに再生に戻ります。

3

❶“▲▼”で“1コマ”か“全コマ”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

応用編

再生メニュー 消去 （1コマ、全コマ）

1コマ

❶“◀▶”で消去するコマ（ファイル）を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押すと表示中のコマ（ファイル）を消去します。

続けて消去するには❶❷を繰り返します。
消去を終えるには“BACK”ボタンを押します。

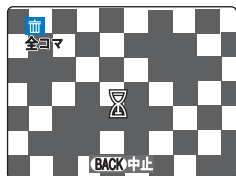
- “MENU/OK”ボタンを繰り返し押すと連続して消去されます。誤って消去しないよう注意してください。
- プロテクトされたコマ（ファイル）は消去できません。プロテクトを解除してから消去してください（➡71ページ）。

全コマ

“MENU/OK”ボタンを押すとすべてのコマ（ファイル）を消去します。

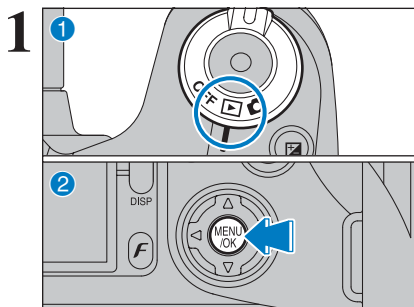
- プロテクトされたコマ（ファイル）は消去できません。プロテクトを解除してから消去してください（➡71ページ）。

“（予約があります）”が表示された場合、コマ（ファイル）を消去するには“MENU/OK”ボタンをもう一度押します。

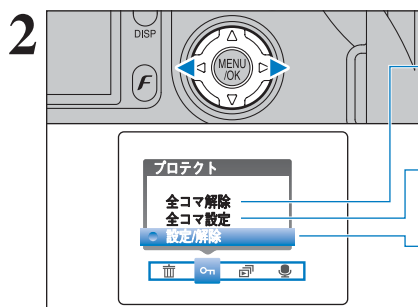
◆操作を途中でやめたいときは◆

全コマ消去中に“BACK”ボタンを押すと処理を中止できます。プロテクトされていないコマ（ファイル）の中で、いくつかのコマ（ファイル）が消去されずに残ります。

- すぐに中止した場合でも、いくつかのコマ（ファイル）は消去されます。

再生メニュー　O-π プロテクト（設定/解除、全コマ設定、全コマ解除）

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

プロテクトとは、コマ（ファイル）を誤って消去しないように設定することです。ただし“フォーマット”するとすべての画像が消去されます（➡84ページ）。

2

“◀▶”で“O-π”プロテクトを選びます。

全コマ解除

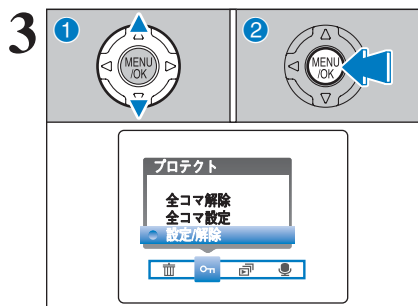
すべてのコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

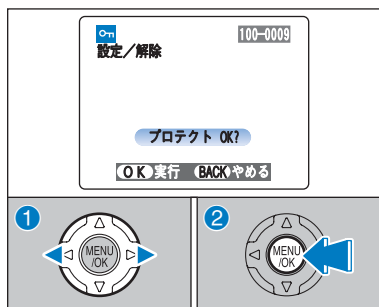
全コマ設定

すべてのコマ（ファイル）をプロテクトします。

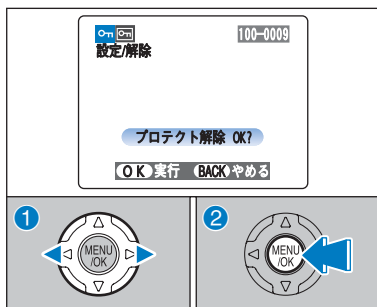
設定/解除

選んだコマ（ファイル）だけをプロテクトしたり、解除したりします。

3

❶“▲▼”で“設定/解除”、“全コマ設定”か“全コマ解除”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

設定

❶“◀▶”でプロテクトするコマ（ファイル）を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押すと表示中のコマ（ファイル）をプロテクトします。

続けてプロテクトするには❶❷を繰り返します。プロテクトを終えるには“BACK”ボタンを押します。

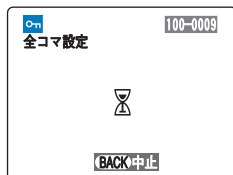
解除

❶"◀▶"でプロテクトしたコマ（ファイル）を選びます。
❷"MENU/OK"ボタンを押すと表示中のコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

全コマ設定

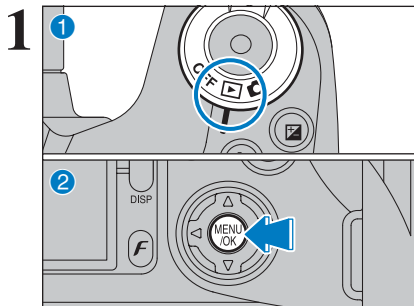
"MENU/OK"ボタンを押すとすべてのコマ（ファイル）をプロテクトします。

全コマ解除

"MENU/OK"ボタンを押すとすべてのコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

◆操作を途中でやめたいときは◆

撮影した画像が大量にあると、全コマ設定、全コマ解除に時間がかかる場合があります。
操作の途中で静止画や動画の撮影をしたい場合は"BACK"ボタンを押してください。その後、全コマ設定、全コマ解除をし直す場合は、71ページの手順**1**から操作し直してください。

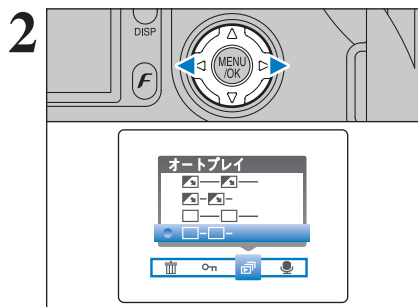
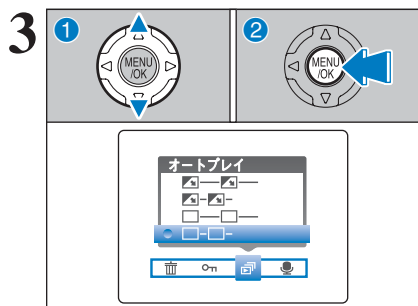
オートプレイ（自動再生）

1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

オートプレイ中はパワーセーブしません。
動画は自動的に再生が始まります。再生が終わると次のコマに進みます。

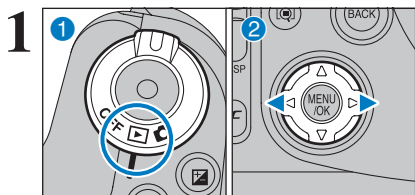
2

“◀▶”で“”オートプレイを選びます。

3

❶“▲▼”を押して自動再生の間隔と画像の切り換えかたを選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。画像が自動的にコマ送りされて再生されます。

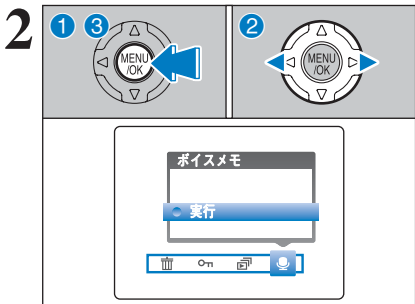
“DISP”ボタンを1回押すと、画面に再生コマNO.が表示されます。
途中でやめる場合は、“BACK”ボタンを押してください。

ボイスメモ録音

1

静止画に最長30秒間のボイスメモを付けることができます。

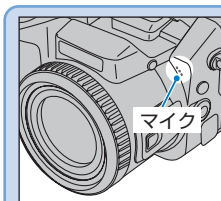
●録音形式：WAVE（➡104ページ）
PCM記録形式
音声ファイルサイズ：約480KB（30秒録音時）

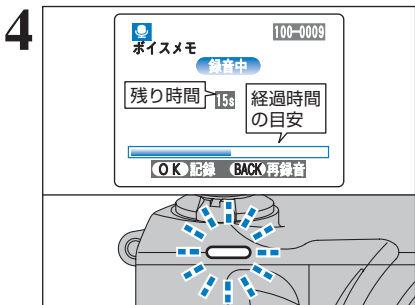
❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“◀▶”でボイスメモを付けたい画像（静止画）を選びます。

2

❶“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“◀▶”で“🎙”ボイスメモを選びます。
❸“MENU/OK”ボタンを押します。

❗動画にはボイスメモを付けられません。
❗“プロテクトされています”が表示された場合はプロテクトを解除してください。

3

画面に“録音スタンバイ”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押すと録音が開始されます。

マイクに向かって録音してください。
約20cm離れるとうまく録音できます。

4

録音中は画面に残り時間が表示され、セルフタイマーランプが点滅します。
残り時間が5秒になると、セルフタイマーランプが早く点滅します。

❗途中で完了する場合は“MENU/OK”ボタンを押してください。

5

30秒間録音すると画面に“録音終了”と表示されます。

記録する場合：“MENU/OK”ボタンを押します。
再録音する場合：“BACK”ボタンを押します。

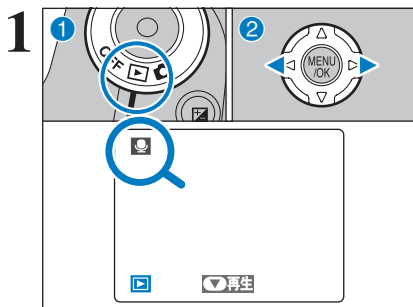
◆すでにボイスメモがあるときは◆

ボイスメモ付きの画像を選んだときは、再録音するかどうか選択画面が表示されます。

❗“プロテクトされています”が表示された場合はプロテクトを解除してください。

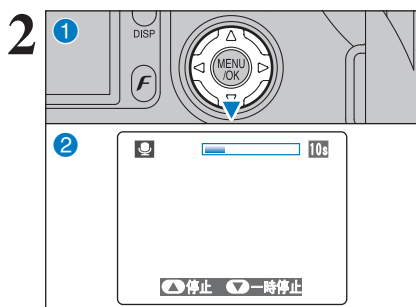
応用編

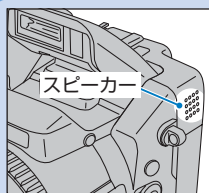
ボイスメモ再生

1

❶電源レバーを"▶"に合わせます。
❷"◀▶"でボイスメモ付き画像ファイルを選びます。

マルチ再生ではボイスメモ再生できません。"DISP"ボタンで1コマ再生にしてください。

"🎙"のアイコンで表示されます。

2

❶"▼"を押すと再生されます。
❷画面に再生時間とバーが表示されます。

音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください(➡20ページ)。

スピーカーをふさがないでください。

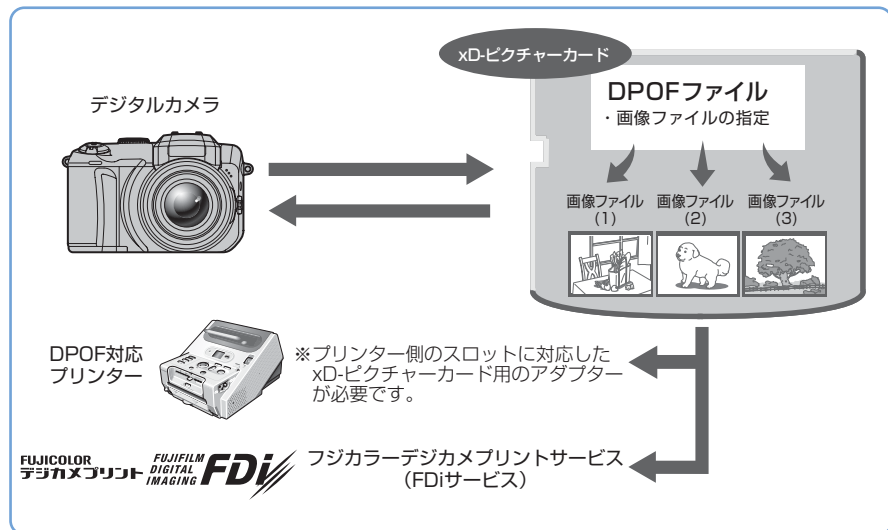
■ボイスメモ再生操作方法

	操　作	説　明
再生	▼	再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除	▼	再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止	▲	再生を停止します。 ※停止中に"◀▶"を押すと次のファイルに送られます。
早送り/巻き戻し	◀▶	再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。 ※一時停止中は操作できません。

◆再生できるボイスメモファイルについて◆

本機で記録したボイスメモファイル、弊社製デジタルカメラでメディアに記録した30秒以内のボイスメモファイルが本機で再生できます。

Fフォトモード 再生 プリント予約（DPOF）について

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報を **xD-ピクチャーカード** などに記録するときの形式です。

- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作で **xD-ピクチャーカード** またはマイクロドライブに記録することができます。
- DPOF情報を記録した **xD-ピクチャーカード** を、フジカラーデジカメプリントサービス（FDiサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

プリント予約（1コマ設定、解除）

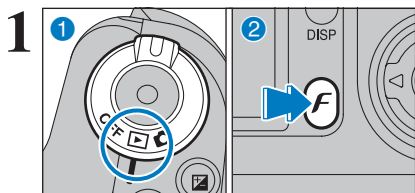
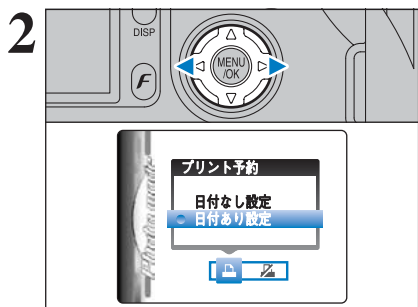
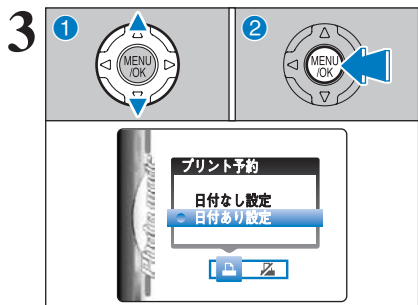
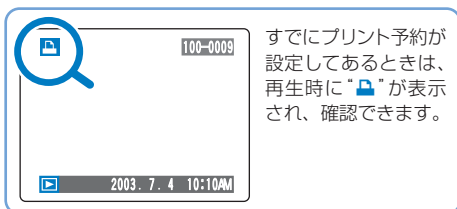
1

❶電源レバーを“▶”に合わせます。
❷“F”ボタンを押します。

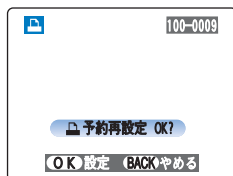
2

“◀▶”で“🖶”プリント予約を選びます。

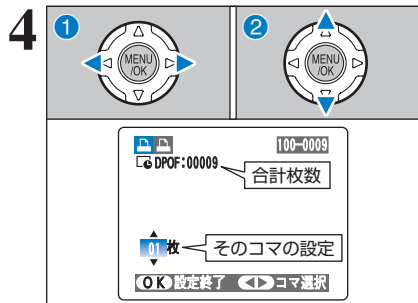
すでにプリント予約が設定してあるときは、再生時に“🖶”が表示され、確認できます。

3

❶“▲▼”で“日付あり設定”か“日付なし設定”を選びます。“日付あり設定”にすると、プリントに日付が印字されます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

“日付あり設定”にするとプリントサービスかDPOF対応プリンターなどで日付を入れてプリントできます（プリンターの仕様によっては日付が入らないことがあります）。

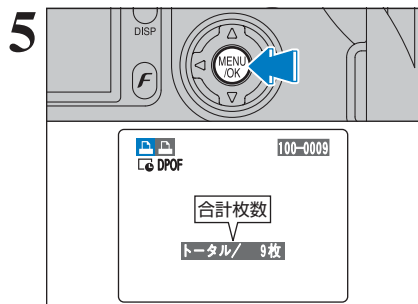
◆他の機種でプリント予約が設定してあるとき◆

他の機種でプリント予約されたコマ（ファイル）がある場合は“🖶予約再設定OK？”と表示されます。
“MENU/OK”ボタン（または“F”ボタン）を押すと、すでにプリント予約された設定はすべて消去されます。新たにプリント予約をやり直す必要があります。

“BACK”ボタンを押すと設定を変更しません。

4

❶“◀▶”で設定するコマ（ファイル）を選びます。
❷“▲▼”でプリントするコマ（ファイル）にプリント枚数を99枚まで設定できます。プリントしないコマ（ファイル）はプリント枚数を0枚に設定します。
続けて設定するには❶❷を繰り返します。

- 同一メディア内で999コマの画像にプリント予約できます。
- 動画とCCD-RAWはプリント予約できません。

設定中に“BACK”ボタンを押すと、新規設定がすべてキャンセルされます。すでにプリント予約されていたときは、修正のみキャンセルします。

5

設定が終了したら、必ず“MENU/OK”ボタン（または“F”ボタン）を押します。
“BACK”ボタンを押すとプリント予約されません。

◆1コマ解除について◆

プリント予約したコマ（ファイル）の設定を解除（1コマ解除）するには、手順**1**〜**3**までの操作を行い❶“◀▶”でプリント予約を解除したいコマ（ファイル）を選び、❷プリント枚数を0枚に設定します。
続けて解除するには❶❷を繰り返します。
設定が終了したら、必ず“MENU/OK”ボタン（または“F”ボタン）を押してください。

応用編

F フォトモード 再生

予約全解除

1

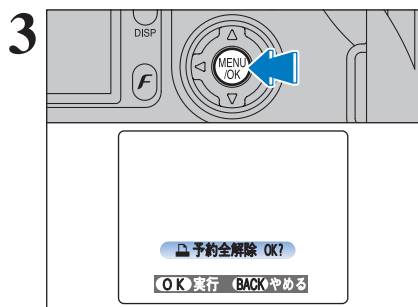
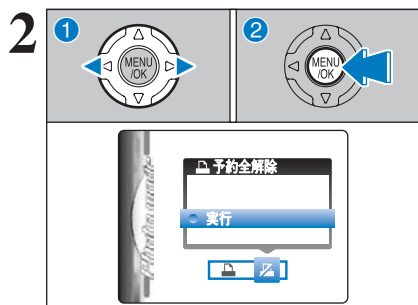
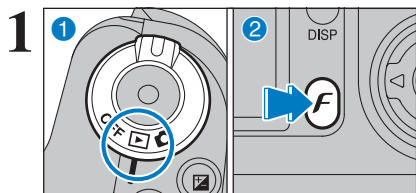
❶電源レバーを “▶” に合わせます。
❷“*F*” ボタンを押します。

2

❶“◀▶” で “予約全解除” 予約全解除を選びます。
❷“MENU/OK” ボタンを押します。

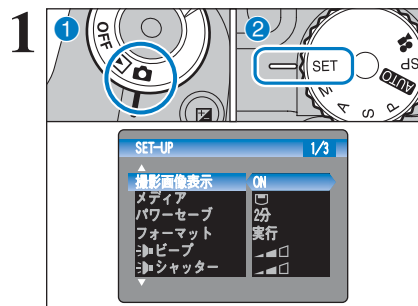
3

実行を確認する画面が表示されます。
プリント予約をすべて解除するには“MENU/OK” ボタン(または “*F*” ボタン)を押します。

SET−UP（セットアップ）

■SET−UPメニュー一覧

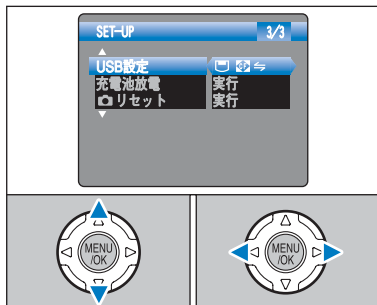
項　目	表　示	工場出荷時	内　　容
撮影画像表示	ON/OFF/確認	ON	撮影後にプレビュー画面（撮影結果）を表示するかどうか設定できます。詳しくは82ページ参照。
メディア	［xD］/［MD］	［xD］	xD-ピクチャーカード“［xD］”とマイクロドライブ“［MD］”が入っているときに、使用するメディアを設定します。
パワーセーブ	2分/5分/OFF	2分	何も操作していないときに消費電力を抑え、その後、自動的に電源を切るかどうか設定できます。詳しくは84ページ参照。
フォーマット	実行	−	すべてのファイルを消去します。詳しくは84ページ参照。
ビープ	OFF/1/2/3	2	操作したときの音量を設定できます。
シャッター	OFF/1/2/3	2	シャッターをきるときの音量を設定できます。
日時設定	設定	−	日付、時刻を修正できます。詳しくは14ページ参照。
アダプター	あり/なし	なし	コンバージョンレンズを使用するときに設定します。詳しくは85ページ参照。
コマNO.	連番/新規	連番	コマNO.を連番にするか新規にするかを設定します。詳しくは86ページ参照。
CCD-RAW	OFF/ON	OFF	画質をCCD-RAWに設定します。カメラで画像処理を行わないためパソコンで画像処理を行う必要があります。
言語/LANG.	日本語/ENGLISH/FRANCAIS/DEUTSCH/ESPAÑOL/中文	日本語	画面に表示する言語を設定できます。
ビデオ出力	NTSC/PAL	NTSC	ビデオ出力をNTSCにするかPALにするかを設定します。日本国内で使用する場合はNTSCを選択してください。
USB 設定	［xD］［MD］⇆/［カメラ］PC	［xD］［MD］⇆	パソコンに接続したときの機能を切り換えます。詳しくは88ページ参照。
充電池放電	実行	−	ニッケル水素電池を放電します。詳しくは96ページ参照。
［カメラ］リセット	実行	−	日時設定、言語/LANG.、ビデオ出力以外のすべての設定を工場出荷時設定にリセットします。“▶”を押すと確認画面が表示されるので、リセットするには“MENU/OK”ボタンを押します。

SET セットアップ画面の操作

1

❶電源レバーを“［カメラ］”に合わせます。
❷モードダイヤルを“SET”に合わせてSET−UP画面を表示します。

電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずに電池カバーを開けたりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

次ページにつづく

2

“▲▼” で項目を選び、“◀▶” で設定を変更します。

フォーマット、日時設定、充電池放電、リセットは “▶” を押します。

撮影画像表示

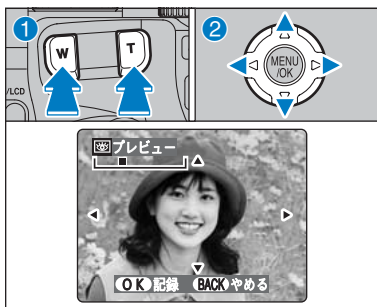
撮影後に撮影結果を表示するかしないか設定できます。

MEGA連写時は、撮影結果が表示されません。

連写、サイクル連写では、“OFF” に設定しても一定時間表示され、自動的に記録されます。

ON　：撮影結果が約2秒間表示され、自動的に記録されます。
OFF：撮影結果は表示されず、自動的に記録されます。
確認：撮影結果がプレビュー（画像の確認）され、記録するか、記録しないかを選べます。
- 記録する　：“MENU/OK” ボタンを押します。
- 記録しない：“BACK” ボタンを押します。

また、プレビューズームが可能です。

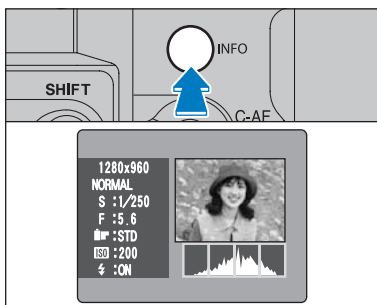
“ON” のときに表示される画像は、実際に記録される画像と色味が若干異なる場合があります。

プレビューズーム

設定が“確認”のとき、画像を拡大して細部の確認ができます。

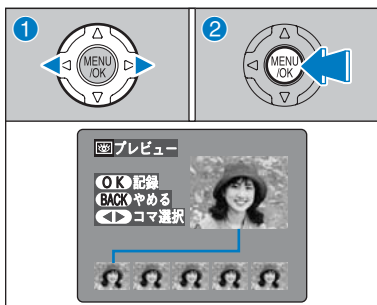
❶ズームボタンでズームします。

❷“▲▼◀▶”で見える範囲を移動できます。

プレビューではトリミング保存はできません。

再生ズーム（➡28ページ）と操作は同じです。

撮影した画像の情報表示

設定が“確認”のとき、画像の情報を確認できます。“INFO”ボタンを押している間のみ確認できます。

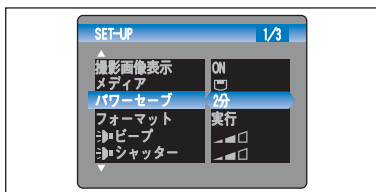
各項目の詳細は68ページを参照してください。

連写時のプレビュー（画像の確認）

設定が“確認”のとき、連写、サイクル連写、オートブラケティングでは画像を確認できます。ただしプレビューズームはできません。

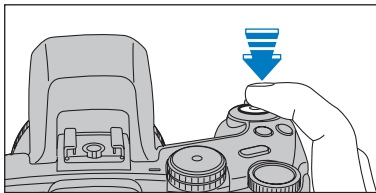
❶“◀▶”で画像を確認できます。

❷“MENU/OK”ボタンを押すとすべてを記録します。

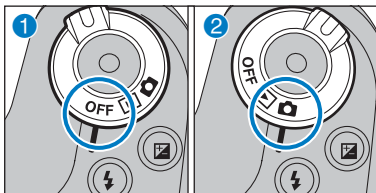
“BACK”ボタンを押すとすべてを記録しません。

パワーセーブ（省電力設定）

本機能を有効にすると、約30秒間操作をしないと一時的に画面などを消し（スリープ）、消費電力を抑えます（インジケーターランプ［緑］が1秒おきに点滅）。その後、しばらく放置(2分間または5分間）すると自動的に電源が切れます。電池の駆動時間をできるだけ長くしたいときに使用します。

オートプレイ、充電池放電、USB接続時はパワーセーブは無効になります。

セットアップと再生モードではスリープは機能しませんが、しばらく放置（2分間または5分間）すると自動的に電源が切れます。

スリープしているときに、シャッターボタンを半押しすると、撮影可能状態に復帰します。素早く撮影可能になるので便利です。

シャッターボタン以外のボタンでも復帰できます。

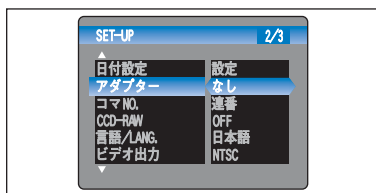
◆再度電源を入れるには◆

オートパワーオフ（2分間または5分間）したときは、
1. 電源レバーを“OFF”に合わせます。
2. もう一度、電源レバーを“📷”または“▶”に合わせます。

フォーマット（メディアの初期化）

メディアをカメラ用に初期化（フォーマット）します。
プロテクトされているファイルを含むすべてのファイルを消去しますので、消去したくない重要なファイルはパソコンなどにコピーしてください。
1. “◀▶”で“実行”を選びます。
2. “MENU/OK”ボタンを押すとすべてのファイルが消去され、メディアが初期化されます。

フォーマットするメディアを必ず画面で確認してから実行してください。
- フォーマットするメディア
  - （フォーマットOK？）：xD-ピクチャーカード
  - （フォーマットOK？）：マイクロドライブ

フォーマットする前に“カードエラー”“記録できませんでした”“再生できません”“フォーマットされていません”が表示された場合は、98ページを参照し対処してください。

アダプター

あり：コンバージョンレンズを使用するときに設定します。設定すると"◐"が表示されます。
なし：コンバージョンレンズを使用しないときに設定します。

❗正しく設定しないとピントが合わないことがあります。

◆コンバージョンレンズ/アダプターリングの紹介◆

ワイドコンバージョンレンズ WL-FX9B

レンズのF値を変えずに焦点距離を0.79倍（広角：28mm相当）に変換します。

- ワイドコンバージョンレンズ仕様
  倍率：0.79倍　レンズ構成：3群3枚
  外形寸法：φ70mm×32mm　質量：約185g
  付属品：レンズキャップ（前後）、レンズポーチ

❗別途アダプターリングAR-FX9をご用意ください。
❗広角側（28mm～46mm相当）でご使用ください。望遠側ではゆがみのあるピントの合っていない画像になります。
❗ワイドコンバージョンレンズ使用時は内蔵ストロボを併用できません。

テレコンバージョンレンズ TL-FX9B

レンズのF値を変えずに焦点距離を1.5倍（望遠：315mm相当）に変換します。

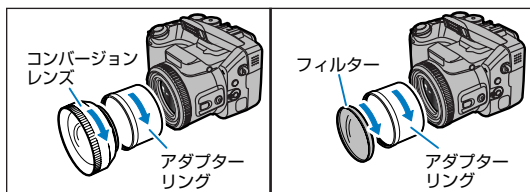
- テレコンバージョンレンズ仕様
  倍率：1.5倍　レンズ構成：3群3枚
  外形寸法：φ65mm×55mm　質量：約100g
  付属品：レンズキャップ（前後）、レンズポーチ

❗別途アダプターリングAR-FX9をご用意ください。
❗望遠側のケラレのない領域でご使用ください。広角側では画像のケラレが生じます。
❗テレコンバージョンレンズ使用時は内蔵ストロボを併用できません。

アダプターリング AR-FX9

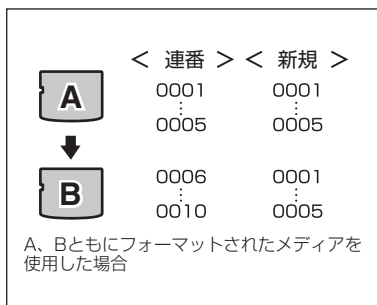
市販のフィルターを使用する場合に必要です。

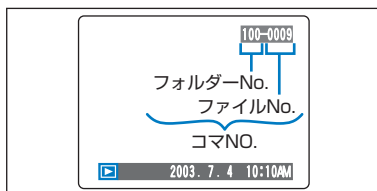
- アダプターリング仕様
  使用できるフィルター：φ55mmの市販フィルター
  外形寸法：φ58mm×39mm　質量：約30g

❗フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。

アダプターリングとコンバージョンレンズ、市販フィルターは、矢印方向にねじ込んで取り付けます。

各種設定編

コマNO.（コマNO.記憶）

A、Bともにフォーマットされたメディアを使用した場合

コマNO.を連番にするか新規にするかを設定します。
連番：最後に使用したメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影
新規：メディアごとに「ファイルNo. 0001」から撮影
“連番”は、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

- “📷”リセットを実行した場合、コマNO.の設定（“連番”または“新規”）は“連番”になりますが、コマNO.自体は“0001”に戻りません。
- 記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

画像を再生するとファイルNo.を確認できます。画面の右上の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、上3けたはフォルダーNo.です。

- メディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNO.の連番が機能しないことがあります。
- ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダーNo.が1つ繰り上がります。最大で999－9999までカウントされます。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマNO.表示が異なる場合があります。
- [コマNO.の上限です]が表示されたときは98ページを参照してください。

CCD-RAW

CCD-RAWを“ON”設定するとカメラで信号処理（CCDから読み出されたデータを画像として再構成する作業）を行わないため、パソコンで画像を再構成する必要があります。
付属のRAW FILE CONVERTER LE を用いて、パソコンで処理してください。RAW FILE CONVERTER LEを使って変換することにより、簡単にTIFF形式の写真を作ることができます。

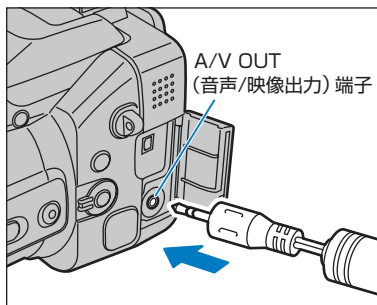
※画像を再構成するには、パソコンにFinePixViewer（同梱CD-ROM）がインストールされている必要があります。

■CCD-RAW使用時は以下の機能を使用することができません。

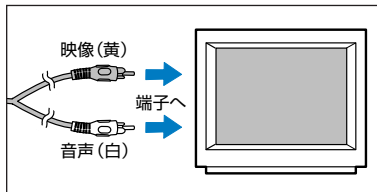
撮影時	デジタルズーム、連写、ファインピックス フォトモード（ピクセル、感度（800）、FinePixカラー）は使用できません。
再生時	解像度が1M（1280×960）の再生になります。 再生ズームは最大4倍までになり、トリミング保存できません。

テレビに接続する、ACパワーアダプターを使う(別売)

テレビに接続する

1

カメラとテレビの電源を切ります。カメラの“A/V OUT(音声/映像出力)”端子に専用A/Vケーブル(付属品)のプラグを接続します。

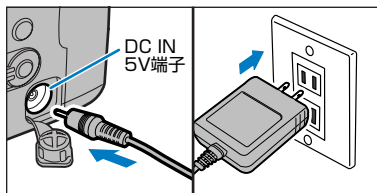
! コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプターAC-5VHを接続することをおすすめします。

2

テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

! テレビの映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

ACパワーアダプターを使う(別売)

必ず、弊社製「ACパワーアダプター AC-5VH」をお使いください(➡93ページ)。
パソコンへ撮影した画像などを転送するなど、電源が切れては困るときに使用します。また、電池の消耗を気にせず撮影、再生することができます。

! ACパワーアダプターの接続および取り外しは、カメラの電源が切れているときに行ってください。
カメラの電源が一時的に切れるため、撮影中の画像、動画は記録されません。また、メディアの破損やパソコン接続時誤動作の原因になります。

カメラの電源が切れていることを確認します。ACパワーアダプターの接続プラグを“DC IN 5V”端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

! 弊社専用品以外をご使用になった場合の不具合は保証いたしかねます。
! ACパワーアダプターについてのご注意は95ページをご参照ください。

ACパワーアダプターを接続しても、単3形ニッケル水素電池の充電はできません。単3形ニッケル水素電池の充電には別売の充電器(➡93ページ)が必要です。

パソコンと接続する

USB接続で利用できる機能の概要と接続方法を説明します。

カメラをパソコンに初めて接続する際は、接続する前に、付属のCD-ROMを使ってパソコンにソフトウェアをすべてインストールする必要があります。インストールする前にカメラをパソコンに接続すると正常に接続できなくなる場合があります。
別冊のソフトウェア取扱ガイドをご覧になって、正しくソフトウェアをインストールしてください。

CD-ROM
「Software for FinePix SX」　ソフトウェア取扱ガイド

- ご使用のパソコンがUSB2.0（High-Speed USB）対応のときは、従来より高速のファイル転送が行えます。
- USB2.0(High-Speed USB)でパソコンと接続している場合は“ ”が黄色表示になります。

Windows XPでは、USB2.0（High-Speed USB）に対応していないパソコンにカメラを接続すると警告が表示されます。メッセージに従ってパソコンを操作してください。

カードリーダー機能について

メディアから簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェース接続により、高速にファイル転送が行えます（➡89ページ）。

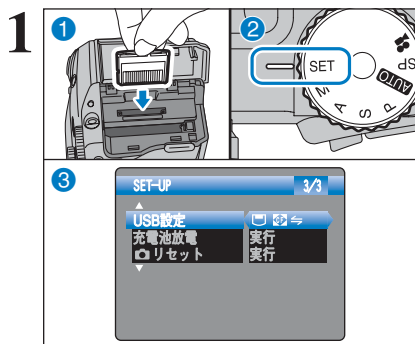
PCカメラ機能について

インターネット接続されたパソコン同士でテレビ電話（“PictureHello”）が楽しめます（➡90ページ）。

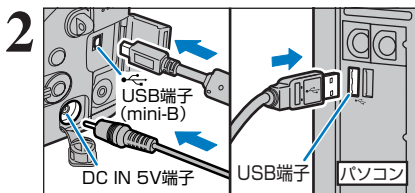
テレビ電話（“PictureHello”）はMacintoshに対応していません。

Mac OS X（Classic環境を含む）では、PCカメラ機能を利用できません。

カードリーダー接続方法

1

❶撮影したメディアをカメラにセットします。
❷モードダイヤルを "SET" に合わせてから、電源レバーを "📷" に合わせます。
❸SET－UPの "USB設定" を "⇋" にしてから(➡81ページ)、電源を切ります。

ACパワーアダプターAC-5VH(別売)を使った接続をおすすめします(➡87ページ)。通信中に電源が切れると、メディア内のファイルなどが壊れることがあります。

xD-ピクチャーカード とマイクロドライブを同時にセットした場合は、「メディア」として設定されているメディアが使用されます(➡81ページ)。

2

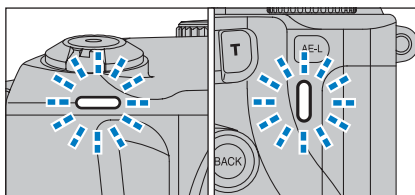
❶パソコンの電源を入れます。
❷USBケーブル(mini-B)でカメラとパソコンを接続します。
❸電源レバーを "▶" に合わせます。

通信中はUSBケーブル(mini-B)を取り外さないでください。通信中に電源が切れると、メディア内のファイルなどが壊れることがあります。

Windows XPおよびMac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です(➡別冊のソフトウェア取扱ガイド)。

USBケーブル(mini-B)は向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

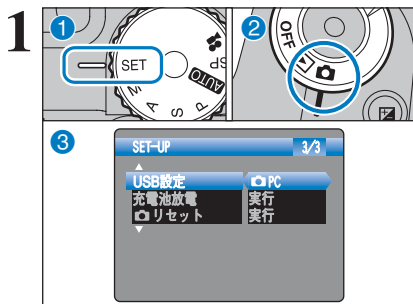
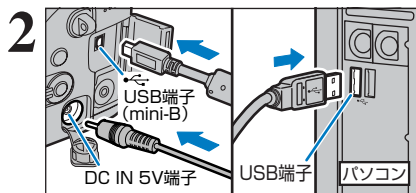
カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください(➡91ページ)。

Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
＊パソコンがカメラを認識しない場合は、ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

カメラの動作

- カメラとパソコンが通信中のときは、セルフタイマーランプが点滅し、インジケーターランプが緑/橙に交互点滅します。
- 画面には "⇋ カードリーダー" と表示されます。
- USB接続時はパワーセーブしません。

メディアの交換は、必ず91ページの手順でカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。

PCカメラ接続方法

1

❶モードダイヤルを "SET" に合わせます。
❷電源レバーを "📷" に合わせます。
❸SET−UPの "USB設定" を "📷PC" にしてから (➡81ページ)、電源を切ります。

ACパワーアダプターAC-5VH (別売) を使った接続をおすすめします (➡87ページ)。

2

USB端子 (mini-B)
DC IN 5V端子
USB端子
パソコン

❶パソコンの電源を入れます。
❷USBケーブル (mini-B) でカメラとパソコンを接続します。
❸電源レバーを "📷" に合わせます。

通信中はUSBケーブル (mini-B) を取り外さないでください。
USBケーブル (mini-B) は向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください (➡91ページ)。

Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
＊パソコンがカメラを認識しない場合は、ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

カメラの動作

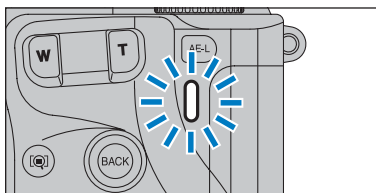
- パソコンに接続するとズーム位置は固定されます。あらかじめズームボタンで使用する画角にあわせてからパソコン接続してください。
- 画面には "📷PCカメラ" と表示されます。
- USB接続時はパワーセーブしません。

USB設定を "📷PC" PCカメラにして電源を入れると、液晶モニターやテレビの画面の色味が変わることがあります。
接続中はUSBケーブル (mini-B) を取り外さないでください。取り外しかたについては、91ページをご参照ください。

パソコンと接続を切るには（必ず行ってください）

1 カメラを利用しているアプリケーション（FinePixViewerなど）をすべて終了します。

カードリーダー接続の場合は、**2**に進みます。PCカメラ接続の場合は、**3**に進みます。

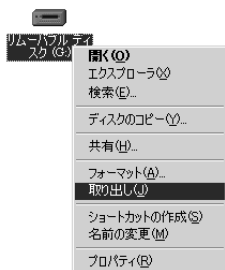
2 カメラの電源を切る前の作業を行います。この手順は、ご使用のOS（パソコン）によって違います。

インジケーターランプが緑色に点灯していること（パソコンと通信していないこと）を確認します。

パソコンで“コピー中”の表示が消えても、カメラと通信中の場合があります。必ずカメラのインジケーターランプが緑色に点灯していることを確認してください。

■Windows 98/98 SE

パソコンでの操作は必要ありません。

■Windows Me/2000 Professional/XP

❶マイコンピュータの中の“リムーバブルディスク”アイコンを右クリックし、取り出しをクリックします。この操作はWindows Meのみ必要です。

❷タスクバー上の取り外しアイコンを左クリックします。

＊Windows Meの画面です。

❸下図のメニューが表示されますので、メニュー上をクリックします。

USB ディスク - ドライブ (G:) の停止

＊Windows Meの画面です。

❹“ハードウェアの取り外し”ダイアログが表示されますので、“OK”ボタンかクローズボタンをクリックしてください。

■Macintosh

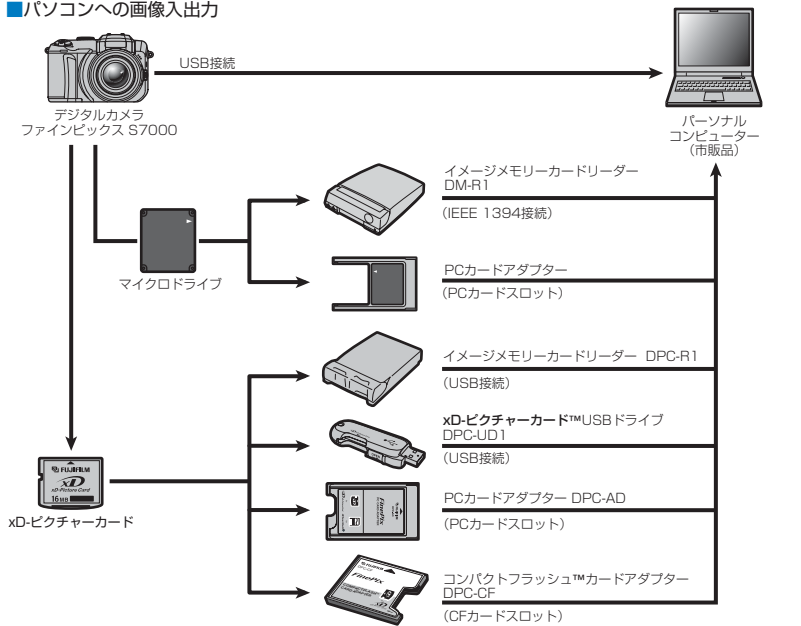
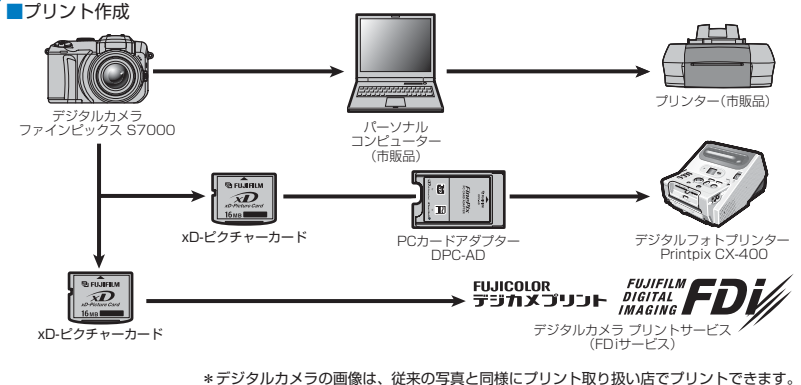
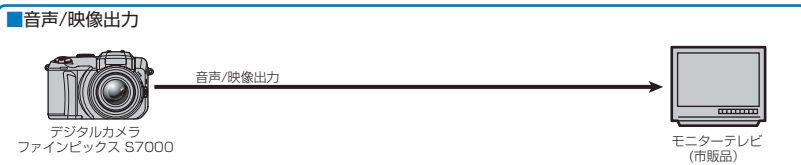
デスクトップの“リムーバブルドライブ”アイコンを、ゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

ゴミ箱にドラッグ＆ドロップすると、カメラの液晶モニターに“取り外しOK”と表示されます。

3 カメラの電源を切り、USBケーブル（mini-B）を取り外します。

接続編

システムアップ機器（別売）（平成15年10月現在）

▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

その他 別売アクセサリーの紹介（平成15年10月現在）

▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。

※最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。http://www.fujifilm.co.jp/ または http://www.finepix.com/
※価格はメーカー希望小売価格、消費税別です。

●イメージメモリーカード（xD-ピクチャーカード）

以下の種類がお使いいただけます。

- DPC-16（16MB）
- DPC-32（32MB）
- DPC-64（64MB）
- DPC-128（128MB）
- DPC-256（256MB）
- DPC-512（512MB）

※すべてオープン価格

●マイクロドライブキット MK-1/MK-2

IBM製の小型のハードディスクドライブで、容量が340MB/1GBあり、大量の画像を保存することができます。
専用PCカードアダプターが付属しています。

※すべてオープン価格

●ACパワーアダプター AC-5VH

長時間の撮影、再生時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100〜240V、50/60Hz対応）

※4,000円

●充電式 ニッケル水素電池2100（FNH HR AA 4B D）

高容量の単3形ニッケル水素電池です。
4本パック「型名 FNH HR AA 4B D」をお買い求めください。

※1,980円

●ニッケル水素／ニカド急速充電器デジチャージ（FNW 1 BX D）

単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素電池2100」4本を約230分で充電できます。
海外でも使用可能な電圧（AC100V〜240V）、周波数（50/60Hz）対応です（各国のプラグに対応した変換プラグは別途用意してください）。

※4,500円

●ソフトケース SC-FX602

ポリエステル製の専用ケースです。カメラを持ち運ぶときに、ゴミやほこり、軽い衝撃からカメラを保護します。

※4,500円

●ワイドコンバージョンレンズ　WL-FX9B　※16,000円
●テレコンバージョンレンズ　TL-FX9B　※10,000円
●アダプターリング　AR-FX9　※3,500円

詳細は85ページをご覧ください。

●イメージメモリーカードリーダー DPC-R1

イメージメモリーカード（xD-ピクチャーカード、スマートメディア）からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェースにより高速なファイル転送を行います。

- Windows 98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- iMac、iBookおよびUSBインターフェースを標準装備するPower Macintosh（Mac OS 8.6〜9.2/X（10.1.2〜10.1.5））

※オープン価格

●PCカードアダプター DPC-AD

xD-ピクチャーカード あるいはスマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1）に準拠したPCカード（TYPE Ⅱ）として使えます。2種類のメディアのうちどちらか一方を使用できます。

- Windows 95/98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- Mac OS 8.6〜9.2/X（10.1.2〜10.1.5）

※オープン価格

●コンパクトフラッシュ™カードアダプター DPC-CF

xD-ピクチャーカード を挿入するとコンパクトフラッシュ™カード（TYPE Ⅰ）として使用できます。

- Windows 95/98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- Mac OS 8.6〜9.2/X（10.1.2〜10.1.5）

※オープン価格

●xD-ピクチャーカード™USBドライブ DPC-UD1

xD-ピクチャーカード 専用の小型カードリーダーです。USBポートに差し込むだけでデータの読み込み、書き込みが可能です。（Windows 98/98 SEを除いてドライバーのインストールが不要です。）

- Windows 98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- Mac OS 9.0〜9.2/X（10.0.4〜10.2.6）

※オープン価格

パソコンで動画再生をするには、QuickTime3.0以降のソフトウェアまたはDirectX8.0ランタイム（Windowsの場合）が必要です。動画ファイルはハードディスクにコピーしてから再生してください。

使用上のご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ
- 極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■冠水、浸水、砂かぶりにご注意

水や砂は本機の大敵です。海辺、水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メディアに水滴がつくことがあります。このようなときはメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、電池、メディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- レンズ、液晶モニター表面やファインダー、外部AFセンサーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質、変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。

■海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

電源についてのご注意

使用できる電池

- 本機には、単3形アルカリ乾電池や単3形ニッケル水素電池を使用してください。単3形マンガン乾電池や単3形ニカド電池は、使用できません。
- アルカリ乾電池は銘柄により電池寿命（使用時間）の差があり、本機に付属のアルカリ乾電池に比べ、電池寿命がかなり短い場合があります。

電池についてのご注意

電池の使いかたを誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂の恐れがあります。以下の事項をお守りください。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕と⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池）、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（電池を取り外して放置した場合、各種設定がクリアされます）。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、4本すべてを新しい電池にお取り替えください。新しい電池とは、アルカリ乾電池では「最近購入した未使用のもの」、単3形ニッケル水素電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（＋10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が極端に短くなります。特にアルカリ乾電池はこの傾向がありますので、電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。電池をセットする前に電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃してください。

⚠ 万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

⚠ 電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。

単3形ニッケル水素電池を正しくお使いいただくためのご注意

- デジタルカメラで使用する電池として単3形ニッケル水素電池（以下ニッケル水素電池）は、アルカリ乾電池に比べてカメラで撮影できる枚数が多いなど優れていますが、ニッケル水素電池の本来の電池性能を発揮させるために使用方法にはご注意が必要です。
- お買い上げ時や長い間使用しなかったニッケル水素電池は「不活性」状態になっている可能性があります。また、まだ十分に使用できる状態で充電を繰り返すと「メモリー効果」が生じる可能性があります。
  「不活性」状態や「メモリー効果」が発生したニッケル水素電池では、充電後の使用可能時間が短くなる症状が出てきます。この症状を防ぐにはカメラに内蔵している充電池放電機能を使っての放電と充電を数回繰り返すことにより、「不活性」や「メモリー効果」によって一時的に低下した電池性能を回復させ、ニッケル水素電池本来の性能を発揮させることができます。
  「不活性」や「メモリー効果」はニッケル水素電池固有のもので、故障ではありません。
  「充電池放電」操作は96ページを参照ください。

アルカリ乾電池使用時は「充電池放電」機能を使用しないでください。

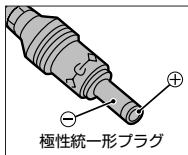
- ニッケル水素電池の充電は、専用の急速充電器（別売）を使用し、急速充電器の「使用説明書」の指示に従って正しく行ってください。
- 急速充電器（別売）では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池は使わなくても自然放電しており、使用可能時間が短くなることがあります。
- ニッケル水素電池は、放電し過ぎると急速に劣化します（懐中電灯などでの放電）。放電はカメラの「充電池放電」機能をご使用ください。
- ニッケル水素電池にも寿命があります。放電と充電を繰り返しても使用可能時間が短い場合は、寿命の可能性があります。

■電池の破棄について

電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（単3形ニッケル水素電池など）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。
このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

ACパワーアダプターについてのご注意

必ず専用のACパワーアダプターAC-5VH/AC-5VHS（JEITA規格、極性統一形プラグ付き）をお使いください。弊社専用品以外のACパワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。

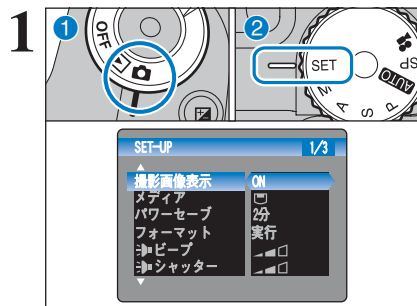
- 室内専用です。
- カメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- カメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- ACパワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、ACパワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

ニッケル水素電池の充電池放電の操作

充電池放電機能は、ニッケル水素電池のみでご使用ください。
アルカリ乾電池で充電池放電機能を使用すると、乾電池が使用できなくなります。

以下のようなときに充電池放電をご使用ください。
- 充電後の使用可能時間が短くなったとき
- 長期間使用しなかったとき
- 新規にニッケル水素電池を購入したとき

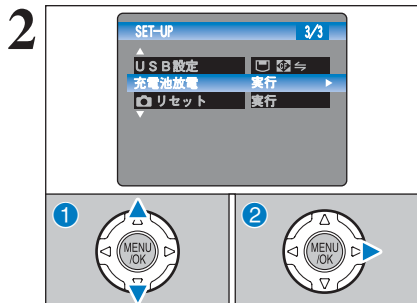
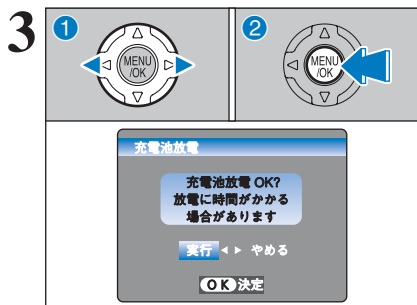
ACパワーアダプターを使用しているときは充電池放電を行わないでください。外部から電源供給されるためカメラ内のニッケル水素電池は放電されません。

1

❶電源レバーを“📷”に合わせます。
❷モードダイヤルを“SET”に合わせてSET−UP画面を表示します。

⚠ アルカリ乾電池は充電池放電の操作を行わないでください。

2

❶“▲▼”で“充電池放電”を選びます。
❷“▶”を押します。

3

❶“◀▶”で“実行”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。
画面が切り換わり放電が開始されます。電池残量表示が赤点滅になり放電が終了すると、カメラの電源が切れます。

⚠ 放電中に操作を中止したいときは、“BACK”ボタンを押します。

メディア(xD-ピクチャーカード™およびマイクロドライブ)についてのご注意

■ xD-ピクチャーカード について

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体xD-Picture Card（ xD-ピクチャーカード ）です。
xD-ピクチャーカード の中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像ファイルが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像ファイルを消去したり、再び記録することができます。

■マイクロドライブについて

Microdrive（マイクロドライブ）は小型/軽量のハードディスクでCF+Type Ⅱに準拠しています。大量の画像ファイルが記録でき、1MB当たりの記録コストも低減するため、高画質な画像をより経済的に保存することができます。

■ファイル保持について

以下の場合、記録したファイルが消滅（破壊）することがあります。記録したファイルの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

＊お客様または第三者がメディアの使いかたを誤ったとき
＊カメラやパソコンなどからメディアへアクセス中（データ通信中など）にカードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
＊その他、誤った使いかたをしたとき

大切なファイルは別のメディア（MOディスク、CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■メディアに共通の取扱上のご注意

- メディアをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メディアの記録中、消去（フォーマット）中は、絶対にメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メディアが破壊されることがあります。
- メディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用、保管は避けてください。

■ xD-ピクチャーカード の取扱上のご注意

- xD-ピクチャーカード は、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- 指定以外の xD-ピクチャーカード はお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因になります。
- xD-ピクチャーカード の接触面（金色の部分）がゴミや皮脂などで汚れた場合は、乾いた柔らかい布などでふいてください。
- 保管や持ち運びする場合は専用ケースか専用キャリングケースに入れることをおすすめします。
- 静電気を帯びた xD-ピクチャーカード をカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出した xD-ピクチャーカード が温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- xD-ピクチャーカード には寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- xD-ピクチャーカード にはラベル類は一切はらないでください。 xD-ピクチャーカード の出し入れの際、故障の原因になります。
- 万一、弊社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しい xD-ピクチャーカード とお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■マイクロドライブの取扱上のご注意

- マイクロドライブのラベルにボールペンなどの硬いペンで記入しないでください。
- マイクロドライブのラベルをはがさないでください。
- マイクロドライブにラベルを重ねてはらないでください。
- マイクロドライブの持ち運びや保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースに入れてください。
- マイクロドライブ使用時、撮影データ記録中に振動や衝撃を与えると撮影データが正常に記録されない場合があります。机の上などにカメラを置くときは静かに置いてください。
- 取り出し機能のないCF+Type Ⅱスロットでは使用しないでください。
- 長時間使用すると熱くなることがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 強い磁気のそばに近づけないでください。
- ぬらさないでください。
- カバーを強く押さないでください。

■メディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのメディアを使って撮影する場合、メディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- メディアをカメラでフォーマットして撮影、記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
- パソコンでメディアのフォルダ名、ファイル名の変更、消去などの操作を行わないでください。メディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- メディア上の画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像ファイルを編集してください。
- カメラで使用するファイル以外のコピーはしないでください。

xD-ピクチャーカード™の主な仕様

形　式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード xD-Picture Card（ xD-ピクチャーカード ）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～+40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	25mm×20mm×2.2mm(幅×高さ×厚み)

マイクロドライブの主な仕様

形　式	CF+™ Type Ⅱ
動作電圧	3.3V、5V
使用条件	温度 +5℃～+40℃ 湿度 8%～90%以下（結露しないこと）
外形寸法	42.8mm×36.4mm×5mm （幅×高さ×厚み）

警告表示

▶画面に表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示	警告内容	処　置
(電池アイコン)（赤点灯） (電池アイコン)（赤点滅）	カメラの電池の残量が減っている、またはない。	新しい電池または充電済みの電池と交換してください。
(手ブレ警告アイコン)	シャッター速度が遅く、手ブレを発生しやすい状態。	ストロボ撮影してください。 三脚の使用をおすすめします。
!AF	AF(オートフォーカス)がうまく働かない。	●暗い場合は被写体から2m程度離れて撮影してください。 ●AFロック撮影をしてください。
絞り、シャッタースピード表示（赤点灯）	AE連動範囲外。	撮影できますが、適正露出ではありません。
カードがありません	メディアが入っていない。	メディアをセットしてください。
フォーマットされていません	●メディアがフォーマット(初期化)されていない。 ● xD-ピクチャーカード の接触面(金色の部分)が汚れている。 ●カメラが故障している。	●メディアをフォーマットしてください。 ● xD-ピクチャーカード の接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合は xD-ピクチャーカード を交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
カードエラー	● xD-ピクチャーカード の接触面(金色の部分)が汚れている。 ●メディアが壊れている。 ●メディアのフォーマットが異常。 ●カメラが故障している。	● xD-ピクチャーカード の接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合は xD-ピクチャーカード を交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
空き容量がありません	メディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。	画像を消去するか、空き容量のあるメディアを使用してください。
再生できません	●正常に記録されていないファイルを再生しようとした。 ● xD-ピクチャーカード の接触面(金色の部分)が汚れている。 ●カメラが故障している。 ●マイクロドライブから動画を再生中にカメラに衝撃が加わった。 ●本機以外で記録した動画を再生しようとした。	●再生することはできません。 ● xD-ピクチャーカード の接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合は xD-ピクチャーカード を交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 ●電源を入れ直すか、またはコマ送り/戻しをしてください。 ●再生することはできません。
コマＮＯ．の上限です	コマNO.が999―9999に達している。	① フォーマットしたメディアをカメラにセットします。 ② SET―UPメニューでコマNO.を「新規」にします。 ③ 撮影します(コマNO.が「100-0001」より開始されます)。 ④ SET―UPメニューでコマNO.を「連番」にします。
記録できませんでした	●メディアと本体の接触異常またはメディアの異常のため記録できない。 ●撮影した画像がメディアの空き容量を超えて記録できない。	●メディアを入れ直すか電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 ●新しいメディアを使用してください。

警告表示	警告内容	処　　置
プロテクトされています	プロテクトされているファイルを消去しようとした。	プロテクトしたファイルは消去できません。プロテクトを解除してください。
これ以上予約できません	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一メディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。別のメディアにプリント予約したい画像をコピーして、プリント予約してください。
フォーカスエラー ズームエラー	カメラが誤作動または故障している。	● レンズ部に触らないようにして、電源を入れ直してください。 ● 電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
ボイス再生できません	● ボイスメモファイルが異常。 ● カメラが故障している。	● ボイスメモを再生することはできません。 ● 弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
RAW 設定されています	SET－UPのCCD-RAWがONになっている。	SET－UPのCCD-RAWをOFFにしてください(➡81ページ)。
設定できません RAW 設定できません 設定できません	プリント予約できない画像をプリント予約しようとした。	画像の形式上プリント予約できません。
動画記録できません	パソコンでフォーマットしたメディアで撮影したため、記録が間に合わなくなった。	カメラでフォーマットしたメディアをお使いください。
メディア保護のため 撮影を停止します メディア保護のため しばらく撮影できません	マイクロドライブの温度が高い状態で動画を撮影しようとした。	電源を切り、温度が低下するまで約30分間使用を中止してください。ただし、静止画の撮影は可能です。

困ったときは

▶故障とお考えになる前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
電源が入らない。	●電池が消耗している。 ●電池が逆に入っている。 ●電池カバーが正しく閉まっていない。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れている。	●新しい電池または充電済みの電池と交換してください。 ●電池を正しい方向に入れてください。 ●電池カバーを正しく閉めてください。 ●電源プラグをコンセントに差し込んでください。
電源が途中で切れる。	電池が消耗している。	新しい電池または充電済みの電池と交換してください。
電池の消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っている。 ●端子が汚れている。 ●電池の寿命。	●電池をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。 ●電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてください。 ●新しい電池または充電済みの電池と交換してください。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●メディアが入っていない。 ●メディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。 ●メディアがフォーマットされていない。 ● **xD-ピクチャーカード** の接触面（金色の部分）が汚れている。 ●メディアが壊れている。 ●オートパワーオフになり、電源が切れた。 ●電池が消耗している。	●メディアを入れてください。 ●新しいメディアを入れるか、不要なコマを消去してください。 ●カメラでフォーマットしてください。 ● **xD-ピクチャーカード** の接触面を乾いたきれいな布でふいてください。 ●新しいメディアを入れてください。 ●電源を入れてください。 ●新しい電池または充電済みの電池と交換してください。
ピント合わせが遅い。	●SET−UPのアダプター設定が“あり”になっている。 ●外部AFセンサーが汚れている。	●アダプターを使用していないときは“なし”にしてください。 ●ブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。
マクロ（近距離）を設定できない。	シーンポジションまたは動画に設定されている。	撮影モードを“AUTO、P、S、A、M”に変更してください。
連写を設定できない。	多重露光が設定されている。	多重露光を“OFF”にしてください。
露出補正を設定できない。	撮影モードがオート、シーンポジション、マニュアルに設定されている。	撮影モードを変更してください。
ストロボ撮影ができない。	●ストロボが閉じている。 ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押した。 ●電池が消耗している。 ●シーンポジションの風景に設定されている。 ●連写が設定されている。 ●スーパーマクロが設定されている。	●ストロボをポップアップしてください。 ●ストロボの充電が完了してからシャッターボタンを押してください。 ●新しい電池または充電済みの電池と交換してください。 ●シーンポジションを変更するか、撮影モードを変更してください。 ●連写を“OFF”に設定してください。 ●スーパーマクロを解除してください。
ストロボの設定を制限されて選べない。	シーンポジションに設定されている。	シーンに合わせた設定になるため制限されます。ストロボの設定を重視するときは撮影モードを変更してください。
ストロボを発光禁止以外に設定できない。	連写が設定されている。	連写を“OFF”に設定してください。
ピクセルの“12M F”、“12M N”、“6M”が選べない。	●“ISO”感度が800（高感度撮影）に設定されている。 ●撮影メニューの連写がMEGA連写に設定されている。	●“ISO”感度を400以下に設定してください。 ●撮影メニューの連写をMEGA連写以外に設定してください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボ/ストロボ調光センサーに指が掛かっている。	●ストロボ撮影可能距離内で撮影してください。 ●カメラを正しく構えてください。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。 ●暗い被写体を撮影した。 ●マクロを設定したまま、遠景を撮影した。 ●マクロを設定しないで、近距離を撮影した。 ●オートフォーカスの苦手な被写体を撮影した。	●レンズを清掃してください。 ●被写体から2m程度離れて撮影してください。 ●マクロを解除してください。 ●マクロに設定してください。 ●AF/AEロック撮影をしてください。
画像に点状のノイズがある。	気温が高い環境でスローシャッター（長時間露光）撮影した。	CCDの特性によるもので故障ではありません。
xD-ピクチャーカード のフォーマットができない。	xD-ピクチャーカード の接触面（金色の部分）が汚れている。	xD-ピクチャーカード の接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。
1コマ消去でコマが消せない。	コマがプロテクトされている。	プロテクトしたカメラでプロテクトを解除してください。
全コマの消去で、すべてのコマが消せない。		
カメラのモードダイヤルを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動。 ●電池が消耗している。	●電池、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。 ●新しい電池または充電済みの電池と交換してください。
画面が日本語以外の言語で表示される。	SET－UPの「言語/LANG.」で日本語以外の言語が設定されている。	①電源レバーを“📷”に合わせます。 ②モードダイヤルを“SET”に合わせます（SET—UP画面が表示されます）。 ③“▲▼”を何回か押して画面右上に「2/3」と表示されている画面を表示させ、「言語/LANG.」を選択します。 ④“◀▶”を何回か押して「日本語」に変更します。 ⑤モードダイヤルを他のモードに設定して撮影するか、電源レバーを“▶”または“OFF”にします。
テレビに画像、音声が出ない。	●動画再生中に専用A/Vケーブルを接続した。 ●カメラとテレビの接続が間違っている。 ●テレビの入力が「テレビ」になっている。 ●ビデオ出力が“PAL”になっている。 ●テレビの音量が小さくなっている。	●正しく接続し直してください。 ●正しく接続し直してください。 ●テレビの入力を「ビデオ」にしてください。 ●“NTSC”に設定してください（➡81ページ）。 ●音量を調節してください。
カメラから音が出ない。	●カメラの音量設定が小さくなっている。 ●撮影/録音中にマイクをふさいでいる。 ●再生中にスピーカーをふさいでいる。	●音量を調節してください。 ●撮影/録音時はマイクをふさがないでください。 ●スピーカーをふさがないでください。
PC（パソコン）接続で、カメラの液晶モニターに撮影または再生画面が表示される。	●PCまたはカメラにUSBケーブル（mini-B）が正しく接続されていない。 ●PCの電源が入っていない。	●正しく接続してください。 ●PCの電源を入れてください。
カメラが正常に動作しなくなった。	カメラが予期しない状態になっている。	電池、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

主な仕様

システム	
型式	デジタルカメラ
有効画素数	630万画素
撮像素子	1/1.7型スーパーCCD ハニカム HR 原色フィルター採用（総画素数：663万画素）
記録メディア	xD-ピクチャーカード 16/32/64/128/256/512MB マイクロドライブ 340MB/1GB
記録方式	静止画：DCF準拠 圧　縮：ExifVer2.2　JPEG準拠/DPOF対応 非圧縮：CCD-RAW（RAF） 動　画：DCF準拠（AVI形式 Motion JPEG） 音　声：WAVE形式、モノラル
記録画素数（ピクセル）	静止画：4048×3040/2848×2136/2016×1512/1600×1200/1280×960（12M/6M/3M/2M/1M） ハニカム信号処理により最大4048×3040（1231万画素） 動　画：640×480/320×240（30フレーム/秒）、モノラル音声付
レンズ	スーパーEBC フジノン光学式6倍ズームレンズ 開　放：F2.8～F3.1
焦点距離	7.8mm～46.8mm（35mmカメラ換算：35mm～210mm相当）
フォーカス	TTLコントラスト方式　オートフォーカス/マニュアルフォーカス
撮影可能範囲	標　準：広角：約50cm～∞ 望遠：約90cm～∞ マクロ：約10cm～約80cm スーパーマクロ：約1cm～約20cm
シャッタースピード	AUTO、SP(夜景以外)：1/4秒～1/2000秒＊　SP(夜景のみ)：3秒～1/250秒＊ P、S、A：3秒～1/1000秒＊　M：15秒～1/10000秒＊ ＊メカニカルシャッター併用 バルブ撮影可能（15秒まで）
絞り	F2.8～F8　1/3EVステップ10段　手動/自動切換え
撮像感度	撮影モード AUTO 時：AUTO（ISO 160～800）、ISO 400/800＊ 撮影モード SP、P、S、A、M時：ISO 200/400/800＊ （CCD-RAW設定時はISO 200/400のみ使用可能） ＊ピクセル1M/2M/3Mのみ使用可能
測光方式	TTL64分割測光 マルチ、スポット、アベレージ
露出制御	プログラムAE（AUTO、P、SP）/シャッタースピード優先AE/絞り優先AE/マニュアル露出
露出補正	−2EV～+2EV　（13段階：1/3EVステップ）
白バランス	撮影モード AUTO、SP時：フルオート 撮影モード P、S、A、M時：9ポジション選択可能、カスタム白バランス設定可能
ファインダー	0.44型　23.5万画素　液晶ファインダー　視野率 約100%
液晶モニター	1.8型（対角4.5cm）　11.8万画素　低温ポリシリコンTFT 視野率 約100%
ストロボ	方式：調光センサーによるオートストロボ 撮影可能距離：広角：約0.3m～約8.5m（約0.3m～約0.8m：マクロ） 望遠：約0.9m～約7.9m 発光モード：オート/赤目軽減/強制発光/発光禁止/スローシンクロ/赤目軽減＋スローシンクロ
セルフタイマー	約2秒、約10秒

入、出力端子	
A/V OUT（音声/映像出力）端子	NTSC/PAL方式　ステレオミニミニ（φ2.5mm）ジャック
USB（mini-B）端子	パソコンへのファイル転送
DC入力端子	専用ACパワーアダプター AC-5VH（別売）接続
アクセサリーシュー	ホットシュー

電源部、その他

電源	単3形アルカリ乾電池 4本使用、単3形ニッケル水素電池 4本使用（別売） 専用ACパワーアダプター AC-5VH使用
使用条件	温度0℃～+40℃　湿度80%以下（結露しないこと）

電池作動可能枚数の目安

メディアの種類 ＼ 電池の種類		単3形アルカリ乾電池 LR6	単3形ニッケル水素電池 HR-AA（ニッケル水素2100）
xD-ピクチャーカード	液晶モニター使用時	約210枚	約340枚
	液晶ファインダー使用時	約220枚	約350枚
マイクロドライブ	液晶モニター使用時	約200枚	約310枚
	液晶ファインダー使用時	約210枚	約320枚

電池作動可能枚数は、以下の当社測定条件による連続して撮影できる撮影枚数の目安です。
●使用電池：付属のアルカリ乾電池を使用。ニッケル水素電池はフル充電した電池を使用。
●撮影条件：常温、ストロボ使用率50%で測定
●注意：アルカリ乾電池の容量やニッケル水素電池の充電容量により撮影可能枚数の変動があるため、ここに示す電池作動可能枚数を保証するものではありません。低温時では電池作動可能枚数が少なくなります。

本体外形寸法	121.0mm×81.5mm×97.0mm（幅×高さ×奥行き）＊付属品、突起部含まず
本体質量	約500g（付属品、電池、**xD-ピクチャーカード** またはマイクロドライブ含まず）
撮影時質量	約600g（電池、 **xD-ピクチャーカード** 含む）
付属品	5ページをご覧ください。
別売アクセサリー	93ページをご覧ください。

■メディア標準撮影枚数＊

ピクセル	12M F	12M N	6M	3M	2M	1M	RAW
記録画素数	4048×3040（約1230万）		2848×2136（約608万）	2016×1512（約305万）	1600×1200（約192万）	1280×960（約123万）	4048×3040
画像1枚のファイルサイズ	4.9MB	2.5MB	1.5MB	760KB	630KB	470KB	13MB
DPC-16（16MB）	3	6	10	20	25	33	1
DPC-32（32MB）	6	12	20	41	50	68	2
DPC-64（64MB）	12	26	42	82	101	137	4
DPC-128（128MB）	26	52	84	166	204	275	9
DPC-256（256MB）	52	105	169	332	409	550	19
DPC-512（512MB）	105	211	339	665	818	1101	39
MK-1（340MB）	72	144	232	459	559	752	27
MK-2（1GB）	217	432	698	1368	1642	2190	81

■メディア標準記録時間＊

ピクセル	640（30フレーム/秒）	320（30フレーム/秒）
記録画素数	640×480	320×240
DPC-16（16MB）	13秒	26秒
DPC-32（32MB）	27秒	54秒
DPC-64（64MB）	55秒	1分49秒
DPC-128（128MB）	1分51秒	3分39秒
DPC-256（256MB）	3分43秒	7分19秒
DPC-512（512MB）	7分26秒	14分39秒
MK-1（340MB）	5分5秒	10分0秒
MK-2（1GB）	15分19秒	30分8秒

＊撮影枚数/記録時間/ファイルサイズは被写体により多少の増減があります。また、実際の撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

●仕様、性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
●液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
●レンズの特性により、撮影した画像の端がゆがむ場合がありますが、故障ではありません。

用語の解説

EV	：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。 CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。
Exif（イグジフ） ファイル形式	：Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダ構造、フォルダ名についての規定を含めて、DCFがJEITA規格になっています。
JPEG（ジェイペグ）	：Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。
Motion JPEG （モーション ジェイペグ）	：画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマットAVI（Audio Video Interleave）形式の1種類であり、ファイル内の画像はJPEG形式で記録されています。 パソコンでは下記のソフトで再生できます。 Windows　：Windows Media Player　＊DirectX8.0以降必要 Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降
WAVE（ウェイブ）	：音声を保存するためのWindowsにおける標準フォーマットで、拡張子は“.WAV”です。 記録形式には非圧縮記録と圧縮記録があります。本機では非圧縮記録を採用しています。 パソコンでは下記のソフトで再生できます。 Windows　：Windows Media Player Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降
白バランス （ホワイトバランス）	：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整を白バランスを合わせるといいます。白バランスを自動的に合わせる機能を**オート白バランス**といいます。
スミア	：撮影画面内に太陽やその反射光など非常に明るい輝点があるときに、画像に白いスジが写るCCD特有の現象。
不活性	：ニッケル水素電池は、長期間使用しないで保管されていたとき、電池内部に電気が流れにくい物質が増加し休眠状態になる場合があります。このような電池の状態を不活性と呼びます。 不活性状態のニッケル水素電池は電気が流れにくいため本来の電池性能を発揮することができない場合があります。
フレームレート	：フレームレートとは1秒間に撮影または再生される画像の数（コマ数）を表す単位で、例えば1秒間に10コマを連続して撮影している場合は10フレーム/秒と記します。 参考　テレビは約30フレーム/秒です。
メモリー効果	：ニッケル水素電池を最後まで使い切らないで充電する操作を繰り返すと、本来の電池性能が低下する場合があります。このような現象をメモリー効果と呼びます。

アフターサービスについて

保証書

●保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
●保証期間は、お買上げ日より1年間です。この期間は保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを
本書の「困ったときは」をご覧ください。
使いかたの問題か、故障か迷うときは、弊社FinePixサポートセンターへお問い合わせください。

■故障と思われるときは
弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。依頼方法は、下記の中からお客様のご都合によりお選びください。
①FinePixクイックリペアサービスをご利用いただく
②弊社サービスステーションにお持ちいただく（持込修理）お急ぎのお客様は「FinePix特急修理30分」をご利用ください。
③弊社サービスステーションに宅配便等で送付いただく（送付修理）
④お買上げ店にお持ちいただく
なお、集配ルートの都合上、④の方法よりは、①もしくは②、③の方法が、お預かりの期間は短くなります。
上記①の場合のサービス料金、②④の場合の交通費、③の場合の送料などの諸費用はお客様にてご負担願います。

■修理ご依頼に際してのご注意
●保証規定による修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または弊社サービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。
●修理品の持込修理/送付修理を弊社サービスステーションに依頼される場合には、「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
●修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
●修理料金のお見積もりをご希望の場合は、「修理依頼票」の「お見積もり」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。なお、お見積もりは有料となります。
●落下、衝撃、砂、泥かぶり、冠水、浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合は、修理をお断りする場合があります。

■修理部品の保有期間
本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■交換した部品について
交換した部品は、今後の品質向上に役立てるため、弊社にて引き取らせていただいております。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

■修理料金の支払い方法について
①FinePixクイックリペアサービスをご利用いただいた場合
修理完了品は、代金引換となりますので、サービス料金とともに、運送業者に直接現金でお支払いください。
②弊社サービスステーションにお持ちいただいた場合（持込修理、特急修理30分）
修理完了品お引き取り時、窓口でお支払いください。
③弊社サービスステーションに宅配便等で送付いただいた場合（送付修理）
修理完了品は、代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。
④お買上げ店にお持ちいただいた場合
お持ちいただいたお店にご確認ください。

アフターサービスについて

■修理の受付は…

修理品の「FinePix特急修理30分」、「FinePixクイックリペアサービス」、「持込修理」、「送付修理」の申し込み方法、受付場所を記載します。
下記に記載する修理サービスにおける修理品お預かり期間は、お買上げ店へお持ちいただく場合よりも、はるかに短くなります。

●【FinePix特急修理30分】：30分を目安にその場で修理を行う修理サービスです。

・下記7カ所の富士フイルムサービスステーションに直接お越しいただいたお客様を対象に、30分を目安にその場で修理しお渡しするサービスです。
・専任技術者が対応しますので、迅速な修理を行うことができます。
・特急修理のための特別なサービス料金は不要。ただし有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。修理料金は、修理完了品お引き取り時にサービスステーション窓口でお支払いください。
・本書に地図の記載がないサービスステーション所在地は、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/ss）をご覧ください。
※本サービスの詳細は、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/support/dc/index.html）をご覧ください。

東　京：富士フイルムサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
札　幌：富士フイルムサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙　台：富士フイルムサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
名古屋：富士フイルムサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
大　阪：富士フイルムサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06）6260-0915
広　島：富士フイルムサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福　岡：富士フイルムサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863

●【FinePixクイックリペアサービス】：お預かりからお届けまでが3日の修理サービスです。

・「お預かり」-「梱包」-「修理」-「お届け」までをワンパックにしたサービスです。
・当社指定の宅配業者が、ご指定の日時にお預かりに伺い、修理完了後にご自宅までお届けします。
・全国一律のサービス料金(保証期間内外を問わずお客様にご負担いただきます。また有償修理の場合には、別途修理料金が必要です)。
・料金の支払いは、修理品お届け時に、当社指定宅配業者に直接現金でお支払いください。
・サービスの申し込みは、インターネット、電話、ファクスのいずれかの方法から選択してください。
＊インターネット：http://www.fujifilm.co.jp/support/dc/index.html　＊専用電話：03-3436-2224　＊専用ファクス：03-3431-3470
※本サービスの詳細は、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/support/dc/index.html）をご覧ください。

●【持込修理】：サービスステーションにお持ちいただく場合

・上記7カ所のサービスステーションで受け付けております。お持ちいただく際には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・有償修理の場合の修理料金は修理品お引き取りの際、サービスステーション窓口でお支払いください。

●【送付修理】：サービスステーションに直接ご送付いただく場合

・上記7カ所のサービスステーションで受け付けております。送付時には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・有償修理の場合の修理料金は代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。

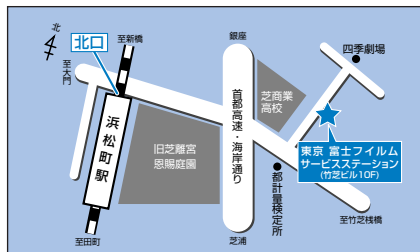
■修理に関する情報は…

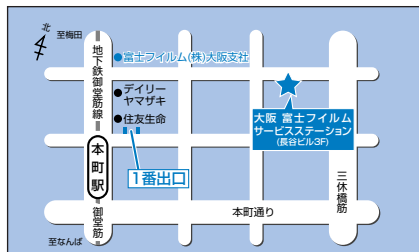
●修理納期検索サービス

東京もしくは大阪のサービスステーションに、直接修理品を送付あるいは持ち込みされた場合に限り、
弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/support/dc/index.html）で修理完了予定日を検索することができます。

●FinePix修理概算見積もりサービス

・弊社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金が、インターネット上で無料で算出することができます。
※本サービスの詳細は弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/support/dc/index.html）をご覧ください。

★東　京：富士フイルムサービスステーション

JR山手線浜松町駅北口下車　徒歩5分
TEL（03）3436-1315
【受付時間】
月～金　午前 9：00～午後5：40
土　午前10：00～12：00　午後1：00～4：00

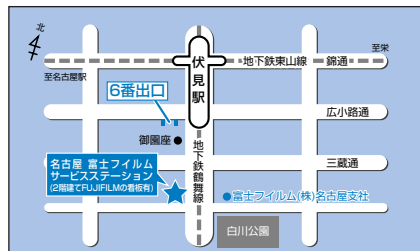
★大　阪：富士フイルムサービスステーション

地下鉄御堂筋線本町駅1番出口下車　徒歩5分
TEL（06）6260-0915
【受付時間】
月～金　午前9：00～午後5：40
土　午前10：00～12：00　午後1：00～4：00

FinePix S7000 修理依頼票

※弊社サービスステーションに故障品の送付あるいはお持込みの際には、お手数をおかけして申し訳ありませんが、迅速、適切な修理をするために必要事項をご記入の上、製品に添付してください。
※下表の□は、該当する項目にチェック(✓)を入れてください。

フ リ ガ ナ		電 話 番 号	
お 名 前		ファクス番号	
ご 住 所	〒 —		
ボディ番号(機番) 保証書あるいは本体底面に記載してある8けたの番号です。 修理お問い合わせ時にご連絡ください。	No.		
修理品への添付	□保証書 □xD-ピクチャーカード(MB) □電池		
□( )	□( )		
□( )	□( )		
故障内容(故障時の様子や発生頻度、症状など具体的にご記入ください。)			
お 見 積 も り	□インターネットでの修理概算見積もりサービスを使用したので不要 (使用結果を下段にご記入ください) □必要(修理金額 円以上見積もり) □不要		
修理概算見積もりサービス使用結果 ※インターネットで見積もりサービスを使用された場合にご記入ください。	故障現象: 修理費用:		
お見積もり連絡方法	□電話 □ファクス		

※本紙は拡大コピーしてお使いください。

★名古屋:富士フイルムサービスステーション

地下鉄東山線伏見駅6番出口下車 徒歩5分
TEL (052) 202-1851
【受付時間】
月～金 午前9:00～12:00 午後1:00～5:40
土 午前10:00～12:00 午後1:00～4:00

富士写真フイルム株式会社

●本製品に関するお問い合わせは…

富士フイルムFinePixサポートセンター

ナビダイヤル 0570-00-1060
（市内通話料金でご利用いただけます）

携帯電話・PHSからは…

TEL 0424-81-1673
FAX 0424-81-0162
（月曜日～金曜日 午前9：00～午後5：40 土日祝祭日 休み）
※曜日、時間帯によっては電話がかかりづらい場合がありますのでご了承ください。

●本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。
http://www.fujifilm.co.jp/ または http://www.finepix.com/
弊社ホームページの自己解決に役立つ「Ｑ＆Ａ検索」もご利用ください。

●修理の受付けは…
本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

●本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…
お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日 午前9：30～午後5：00）TEL 03-3406-2982

この用紙は、再生紙
を使用しています。

FGS-305112-FG